イツの世界政策

元大藏大臣
石渡荘太郎閣下序
東郷豊著

東郷豊著

獨乙の世界政策

東京
伊藤書店
發兌

序

石渡莊太郎

獨乙の世界政策は所謂「ヴェルト・ポリティク」として古く又新しき問題として世界の注視を惹き來つた問題である。

今友人東郷豐君獨乙の世界政策を著し余に序を需めらる。謂ふ迄もなく各般の事情よりして今日

程獨乙の世界政策が讀書子にとりても亦實務家にとりて意味深く感得せらるゝ時はあるまい。

本書は寔に時機を得たる好著である。敢て一書を草し江湖に薦む。

昭和十五年十月

はしがき

日獨伊三國軍事同盟の成立は世界歴史上に於ける劃期的出來事である。この同盟の成立により歐洲と東洋に於ける新秩序建設が促進されることは明らかである。世界は戰後四つのブロック卽ちアメリカブロック、東亞ブロック、ソ聯ブロック、歐洲ブロックに分かれるであらうと云ふ事は常識になりつゝある、この時に歐洲の指導的勢力たる獨伊と東洋の盟主日本がガッチリ握手したことは世界平和の再建に寄與する所が大きい。

獨乙が昭和十四年九月一日の第二次歐洲大戰勃發以來特に、歐洲新秩序の再建目指して華々しい奮闘を續けてゐるが、我々日本國民としては、

（一）また何故あゝして行動をとらねばならぬのか、

(二) 何故獨乙がかくも强いか、
(三) 占領地が獨乙の戰鬪能力にどれ位貢獻してゐるか、
これを知る事が長期戰になれば獨乙が經濟的に敗けると云ふ英國側の宣傳を粉碎する所以である。
(四) 將來獨乙は世界を如何にしようと考へてゐるのか
等を明にすることが今日の日本にとつては、極めて大切のことである。
本書はこれらの疑問に答へるために作られたものであり、本書が日獨伊三國の親善關係に拍車をかけ、世界新秩序の再建に役立ち得れば望外の幸である。

昭和十五年十月一日

防空訓練の夜

著者記す

目次

日獨伊三國條約成る

軍政、經の相互扶助 （期限十年）

帝國が東亞新秩序建設に邁進しつゝあるに對し獨伊兩國は歐洲新秩序建設に邁進しつゝあり、こゝに於て日獨伊三國は世界新秩序建設の共同使命のため、かねて東京に於て三國條約締結の交渉を進めてゐたが、今回日獨伊三國政府の意見の一致を見たので十五年九月廿七日伯林の獨總統官舍に於てリッペントロップ獨外相、チアノ伊外相及び我來栖駐獨大使との間に調印を了した、仍つて日獨伊三國政府は同日午後八時十五分（伯林時間午後一時十五分）夫々東京、伯林及び羅馬に於て左の如く三國條約を發表した。

め且之を尊重す

日獨伊三國間に廿七日伯林に於て左記要旨の三國條約締結したり（外務省發表―昭和十五年九月二十七日午後九時十五分）

日本國、獨乙國及伊太利國間三國條約要旨

大日本帝國政府、獨乙國政府及伊太利國政府は萬邦をして各々其所を得しむるを以て恒久平和の先決要件なりと認めたるにより大東亞及び歐洲の地域に於て各々其地域における當該民族の共存共榮の實を擧ぐるに足るべき新秩序を建設し且つ之を維持せんことを根本義となし右地域に於てこの趣旨によれる努力につき相互に提携し且つ協力することに決意せり、しかして三國政府は更に世界到る處に於て同樣の努力をなさんとする諸國に對し協力を惜しまざるものにして、かくして世界平和に對する三國終局の抱負を實現せんことを欲す、よつて日本國政府、獨乙國政府及び伊太利國政府は左の通り協定せり

第一條　日本國は獨乙國伊太利國の歐洲に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認

第一條　日本國は獨乙國伊太利國の歐洲に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す

第二條　獨乙國及伊太利國は日本國の大東亞に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す

第三條　日本國、獨乙國及伊太利國は前記の方針に基く努力につき相互に協力すべきことを約す、更に三締約國中何れかの一國が現に歐洲戰爭又は日支紛爭に參入し居らざる一國に依て攻撃せられたるときは三國は有らゆる政治的、經濟的及軍事的方法に依り相互に援助すべきことを約す

第四條　本條約實施の爲各日本國政府、獨乙國政府及伊太利國政府に依り任命せらるべき委員より成る混合專門委員會は遲滯なく開催せらるべきものとす

第五條　日本國、獨乙國及伊太利國は前記諸條項が三締約國の各とソヴイエト聯邦との間に現存する政治的狀態に何等の影響をも及ぼさざるものなることを確認す

第六條　本條約は署名と同時に實施せらるべく、實施の日より十年間有効とす、右

期間滿了前適當なる時期に於て締約國中の一國の要求に基き締約國は本條約の更新に關し協議すべし

時局克服の詔書渙發

詔書

大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一宇タラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ大訓ニシテ朕ガ夙夜眷々措カザル所ナリ而シテ今ヤ世局ハ其ノ騷亂底止スル所ヲ知ラズ人類ノ蒙ルベキ禍患亦將ニ測ルベカラザルモノアラントス朕ハ禍亂ノ戡定平和ノ克服ノ一日モ速ナランコトニ軫念極メテ切ナリ乃チ政府ニ命ジテ帝國ト其ノ意圖ヲ同ジクスル獨伊兩國トノ提攜協力ヲ議セシメ茲ニ三國間ニ於ケル條約ノ成立ヲ見タルハ朕ノ深ク懌ブ所ナリ

惟フニ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムル

ハ曠古ノ大業ニシテ前途甚ダ遼遠ナリ爾臣民益々國體ノ觀念ヲ明徵ニシ深ク謀リ遠ク慮リ協心戮力非常ノ時局ヲ克服シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼セヨ

御名御璽

各國務大臣副署

一億一心非常時突破

— 內閣告諭　聖旨を奉體萬難克服 —

（內閣告諭）日獨伊三國條約の締結に當り、畏くも　大詔を渙發せられ、帝國の嚮ふ所を明にし、國民の進むべき道を示させ給へり。聖慮宏遠洵に恐懼感激に堪へざるなり。

恭しく惟ふに世界の平和を保持し大東亞の安定を確立するは、我が肇國の精神に

淵源し、正に不動の國是たり。昨秋歐洲戰爭の發生を見、世界の騷亂益々擴大し、底止するところを知らず。是に於てか速に禍亂を戡定し、平和克服の方途を講ずるは、現下喫緊の要務たり。適々獨伊兩國は帝國と志向を同じうするものあり。因りて帝國は之と相提攜し、夫々大東亞及び歐洲の地域に於て新秩序を建設し、進んで世界平和の克服に協力せんことを期し、今般三國間に條約の締結を見るに至れり。

今や帝國は愈々決意を新にして、大東亞の新秩序建設に邁進するの秋なり。然れども帝國の所信を貫徹するは前途尙遼遠にして、幾多の障碍に遭遇することあるべきを覺悟せざるべからず。全國民は謹で聖旨を奉體し、非常時局の克服の爲益々國體の觀念を明徵にし協心戮力、如何なる難關をも突破し、以て聖慮を安んじ奉らんことを期せざるべからず。是れ本大臣の全國民に望む所なり。

昭和十五年九月廿七日

内閣總理大臣公爵　近衞文麿

三國で新秩序分擔

―東亞經濟圏に自由の手―

三國條約の締結に依り近衞內閣が成立早々中外に闡明した外交轉換はこゝに實現した、世界新秩序建設といふ終局の目標を一にしてゐる日獨伊の三國が堅く結ばれるに至つたことは世界史上劃期的のことであり、日本を盟主とする東亞ブロック、獨伊を盟主とする歐洲ブロックはこの三國條約に據つて相寄り相扶けて共同指標に邁進することが約束された

今回の三國條約の目的は出來得る限り平和的に萬邦をして各々その所を得せしめ東亞及び歐洲の地域に於て各民族の共存共榮の實を擧げることに在るのであるが、この三國條約に依つて日獨伊の三國は固く結びつき場合に依つては相互に軍事的方法に依り援助をなすことになつたから東亞、歐洲の新秩序、延いては世界新秩序に

邁進する日獨伊の力は增大したものといはねばならない

具體的にいへば東亞に日本といふ强力な味方を得た獨伊は潰滅に瀕せる英に更に强力なる攻擊を與へ得ることになり、日本はこれを英米に對する外交的背景として場合に依つては强硬政策を行ひ得ることにならう、又これは間接的には日獨伊が提携して東洋並に南洋に對する理解を深め合ふ契機ともなることは疑ひを容れない。獨伊兩國に取つては歐洲戰局が有利に展開することは必至であるが、同時に英が如何に精神的打擊を受けるかは想像に餘りあらう

老猾なる英は未だ日本を自己の陣營に抱き込む希望を捨てずに何等かの手を打つかも知れない、その手段の一つとして考へられるのは滇緬公路に依る援蔣物資禁絶であるがこの意味に於て英の態度は注目に値する、三國條約は第五條に於て日獨伊の三國は前記諸條項が三締約國の各々と蘇聯との間に現存する政治的狀態に何等の影響をも及ぼさゞるものなることを確認す

と規定してあるが、獨蘇關係と日獨關係並に歐洲戰局の現狀よりみて日蘇關係が急

に何等の影響をも及ぼさゞるものなることを確認す

と規定してあるが、獨蘇關係と日獨關係並に歐洲戰局の現狀よりみて日蘇關係が急速に好轉することも期待すべきであらう

×

第二條において

「獨伊兩國は日本の東亞新秩序建設に關し指導的地位を認め且つこれを尊重す」

と規定してあり且つ日蘇外交に期待すべきものありとし帝國がその如何なる國たるとを問はず援蔣行爲をなす國に對しては敢然としてこれを排除する牢固たる決意を有する現在、蔣政權が益々窮迫化することは自明の理であり事變處理も促進される三國條約の條項中の重點は第三條に在り、その意味は奈邊に在るかは日、獨、伊を圍繞する國際情勢を注視すれば判然するものがあらう

併し乍ら東洋及び南洋に如何なる關心を持つ第三國にしても帝國がその理想とする東亞新秩序並に世界新秩序の實體を虛心坦懷に理解すれば、徒らに比島の地位に

不安を抱いたり、或は蘭印の地位に就て不安を抱くことは全く杞憂に過ぎないことを悟るであらう

しかし萬一帝國の意を曲解してこれを妨害せんとするが如き妄動を敢てせんとし第三條に該當するが如き第三國あらば日本も已むを得ずこれを叩くことになるのである

×

今回の三國條約は本年四月有田前外相に依る聲明並に七月の松岡外相談に依つて明かにされた帝國の日滿支及び南洋を含む大東亞共榮圏の確立を獨伊が正式に確認しこれを尊重するといふのであつて、歐洲戰局の發展と共に事變處理、南方問題が獨伊の歐洲新秩序建設と共に進んで行くことを物語つてゐるものである

しかして三國條約締結に依つて直に歐洲戰爭に參戰するものではなく、從つて帝國政府の不介入政策は變更されるではないが歐洲戰爭の進展と「第三國」の態度或は帝國の理想達成に對する「第三國」の態度如何に依つては當然不介入政策を一擲する

國政府の不介入政策は變更されるではないが歐洲戰爭の進展と「第三國」の態度或は帝國の理想達成に對する「第三國」の態度如何に依つては當然不介入政策を一擲する場合も當然起り得るであらう

現に三國條約締結といふ嚴たる事實を前にして「第三國」が果して敢然として歐洲戰爭に參戰し得るであらうか、又帝國の理想達成を阻み得るであらうか、これは日獨伊三國重大なる關心事であり、殊に帝國に取つては不介入政策拋棄といふ重大なる問題があるのである、情勢の推移に依つては三國條約締結は不介入政策一擲の第一歩であつたと回顧することがあるかも知れない、いづれにせよ既に日獨伊の同國論がガッチリと腕を組んで世界新秩序建設に巨歩を踏み出したのであると（中外十五・九・廿八日）

かくして日獨伊の手による世界新秩序の再建は着々進行しつゝあるが、こゝには歐洲新秩序の發展振りをみよう。

占領地域は獨乙にどれ位役立つてゐるか

ダンチヒと波蘭廻廊

住民の九割六分は獨逸人

ダンチヒはポーランドに海への通路を與へるため、ベルサイユ條約により附近一帶の地域七百五十四平方哩を自由市とされ、國際聯盟の管理下に置かれた者である。然しダンチヒは實質的には既に全く獨乙人の街である。人口四十萬人のうち九十六％は獨乙人であり、住民はビールを飲み、讀む新聞はベルリンの新聞である。そして獨乙に復歸したい希望を大ッピラに放言してゐる。ヒットラーが獨乙の政權を掌握しナチスの天下となつてから、ダンチヒに於てもこれに呼應してダンチヒナチ

スが活潑な運動を開始した。

同市には廿二名の議員よりなる上院と七十二名の議員より成る下院があり、上院議員は下院より選出されるのであるが、一九三八年には、その下院に於て四十八の議席をナチスが占めるに至つた。

自由市とは名のみ

かくて最早ダンチヒもナチスの支配する所となり彼等ナチスはユダヤ人を一掃し、反對黨の排撃につとめてゐる。

ダンチヒ自由市の憲法は國際聯盟が保障してゐる。ヴェルサイユ條約によりダンチヒは獨乙から離れ、自由市として聯盟の管理下

に自治權を有してゐる。

然しポーランドとは密接な關係を持ち、その外交關係は全部ポーランドがこれを處理し、國際聯盟の保護を受けると共に、ポーランドの保護下に立つてゐる。

またポーランドの關稅區域に編入され、奧地より通ずる鐵道の管理權もポーランドにある。東プロシヤを獨乙本土から中斷した上にダンチヒのかゝる狀態は、獨乙人の感情をいたく阻害してゐる。

ダンチヒ市の歷史

バルチック海に於けるクイン・シテイと云はれるダンチヒの歷史は古い。その永い期間こゝだけが、獨り獨立したことが三度ある。卽ち、既に十世紀の頃からヴィスツラ河畔に都市として榮えたが、當時デンマーク、プロシヤ、ポメラニア、ブランデンブルグ、ポーランド、チュートンの諸騎士團の垂涎の地であつた。

ンデンブルグ、ポーランド、チュートンの諸騎士團の垂涎の地であつた。

結局チュートン騎士團が競爭に勝つて、これを獲得し十四世紀初めこれを所有した。

しかし漸く近代商業の勃興期に當り、一四五四年ポーランド保護の下にはじめて獨立し自由市となつた。

だが一七九三年にはプロシャの手中に陷り、一八〇七年から一八一四年までナポレオン戰爭の間は再び切り離されて獨立し公國として存在した。

ウォーターローの戰ひで、ナポレオン戰爭が終結するや、またプロシャ卽ち獨乙の獲得する所となり、爾來世界大戰の終まで西プロシャの首府となつた。

そして大戰後はまた自由市として三度目の獨立をしてゐる譯である。

ポーランド廻廊

東プロシャと獨乙本土との間にはポーランド廻廊が挾まれてゐる。ヴェルサイユ

條約の結果、獨乙からポーランドに割讓され、兩國の間を通ずる廻廊の如き地帶を呈してゐるので、この名がつけられてゐるのだ。

ポーランド廻廊の尖端、ダンチヒの鼻先にポーランドは軍港、商港を兼ねたグヂニアを築港した。

かくて今や廻廊經由の貿易は、その半分はダンチヒ、半分はグヂニアを通じて行はれてゐる。

ダンチヒはこれまで政治的にポーランドの重壓を感じてゐたが、今や經濟的にもその生存を頗る脅威されてゐる。由來ポーランド貿易はダンチヒ港を經由すべき事は、その廻廊の設定及びダンチヒ自由市獨立の條件として、ヴェルサイユ條約で、ポーランドが認めたところで、グヂニア港の築港は、この意味から條約違反とも云ひ得る譯である。これらが凝結して遂にダンチヒ返還要求が第二次歐洲大戰の導火線となつた。

線となつた。

ポーランドの戰後經營

ポーランドの分割

昭和十四年九月一日に第二次歐洲大戰の幕が切つて落されるや、獨乙は九月中旬に逸早く、ハイル・ヒットラーとポーランドにはいつて行つた。九月廿八日にはリッペンドロップとモロトフとの會談によりポーランドの分割が行はれた。ポーランドの分割は北端はリスアニヤの南方突出部から發してブーク、サン河に沿ひ、サン河の水源地カルパチア山中のハンガリヤ領に達する新國境線を割した。

獨乙の獲得した地方は面積約廿三萬平方キロ、ポーランド總面積の五分の三、人口は二千四百萬人餘、總人口の七割、ソ聯の領地は十五萬平方キロ人口は九百萬人である。新ソ聯領には歐洲第一の森林地帶を中央にして大體沼澤地帶であり、産業

の發達は木材、皮革、毛皮業の外近代工業にみるべきものはなく、南方のウクライナ地方は農業が盛んでワルソー地方に匹敵する。石油の中心地ボリスラウがソ聯の手に入り、その産出量五十一萬一千トン＝一九三六年の調査を合せて、ソ聯は名實共に歐洲第一の石油國になつた。

獨乙領ポーランドの經濟力

石油を除いた鑛物資源は獨乙領に集中してゐる。

石炭の埋蔵量は六百十九億トン、岩鹽及び海鹽五十九億トン、加里鹽四億五千萬トン、鐵鑛一億六千五百萬トン、鉛及び亞鉛三千三百萬トン等にのぼるとはポーランド政府の調査である。

ポーランド工業に對する外國資本の投下はフランス二七%、米國廿二%、獨乙一九%、ベルギー一二%、英國七%となつてゐる。

工業生產品は、貧弱なる工業能力、技術をもつてしてなほ一九三六年の年產額は

工業生産品は、貧弱なる工業能力、技術をもつてしてなほ一九三六年の年産額は

次の通りである。（單位千トン）

石炭	二九、七四七（世界第七位）
岩鹽及び海鹽	四六七
加里鹽	四三七（世界第三位）
鐵鑛	四六九
屑鐵	五八四
鐵鋼	一、一五四
セメント	一、〇四八
亞鉛	九三（世界第四位）

この外に、ロッヅ・クラカウの紡績業は年産十三萬四千五十トンの織布、クラカウ、シレジア地方の化學工業は年產三千萬トンの化學製品を產出する。また南方サンドミエルツには舊ポーランド政府が一九三六年以降四ヶ年計畫をもつて、三億ヅ

ロテイを投じて一大重工業地帶を建設中であつたが、そのまゝそつくり獨乙の所有に歸した。

ポーランドの貿易

農業生產物はライ麥が、ソ聯、獨乙に次いで第三位、亞麻はソ聯に次いで第二位、馬鈴薯はソ聯、獨乙に次ぐ第三位、大麻種子は第二位、甛菜糖は第八位、燕麥は第六位を占めてゐる。國內需要を滿たして輸出し得るものは麥類、肉類、酪乳品等にすぎない。

工、鑛業生產品についても輸出力あるものは、衣服類、服飾品類、亞鉛及び亞鉛製品、石炭及びコークス、鑛油類、化學藥品、麻類木材等である。

對外貿易は英獨米が主な取手の相手國である。對英貿易の一九三七年に占める割合は輸入一一・九%、輸出一八・三%、對獨のそれは輸入一四・五%、輸出一四・五%、貿易金額は一九三七年に輸入一四一百萬ドル、輸出一三四百萬ドルとなつてゐる。

獨乙占領後の經濟力

獨乙は占領後、第一にその經濟政策として全商品の最高價格を制定した。その後食料割當と同時に穀物及び根菜の全收穫の八割の强制配給をした。次に總督府に四ヶ年計畫部を設定し、産業、財政、農業に對する統制を行つた。農業においては根菜、大麻及び油性植物種子の増産に主力が注がれる。

ポーランドが一番獨乙に寄與した點は勞働力の補給である。約百萬人のポーランド人が勞働者として獨乙に送られ、卅萬人のポーランド捕虜が獨乙の工場に働らいてゐる。

舊ポーランドの通貨工作は波蘭發券銀行を一九三九年十二月十五日付を以つて創立した。同行はクラカウに本店を置き、舊ポーランド紙幣と帝國信用金庫證券を回收し、新銀行券を發行する。この新幣制で最も興味あることは、同行の發券準備として金額卅億ズロティを限度とし、總督管理地内の土地を擔保としてゐることであ

る。即ち發券準備を金の束縛から全然引離したことである。
戰爭によつて破壞された道路、鐵道、橋梁、電信、電話等の交通機關も復活した。

スエーデンの經濟的價値

スェーデンは面積一七三、三四七方哩、人口六百二十萬人である。
スェーデンは世界一の良鐵鉛があり、且つ豐富な電力資源と、森林資源をもち、金屬工業、化學工業は可成り發達してゐる。世界各國の垂涎の的は年九百萬トン(昭和十三年)を產する鐵鑛資源である。品位は六〇―七〇%の鐵鑛と、磁鐵鑛であり、しかも鑛床が地表面に近くて掘り易く、一部では露天掘を行つてゐる。埋藏量は約十億トン、スェーデン全體では十三億トンと云はれる。鐵の生產高は一九三四年一六九萬トン、一九三五年四八六萬トン、一九三七年九一四萬トン、世界鐵鑛生產量九八〇〇トン(ソ聯を含まず)の約一割に當つてゐる。この鐵鑛をめぐつて、英

獨米が三ッ巴の戰爭をしてゐるのだ。

なほこの外ヘルシングボルグ附近には銅鑛、アムメベルグの亞鉛鑛がある。スカネ地方には年產約四十萬トンの褐炭を產するが、品質は良くなく、一九三七年には六六〇萬トンの石炭を獨乙から輸入してゐる。

スヱーデンの最も重要な工業は製材及び製紙製鐵である。このほかグスタフスベルグの陶器、マスタ・オルレフオルスの硝子、ジユンケピクの燐寸等は世界的に有名である。

水力電氣は平水位に於ける水力五〇〇萬馬力と推定され、利用してゐるのは一八〇萬馬力である。

全人口の六分の一は農業人口であり、全國土の一割が耕地である。農作物は穀物が最も多く、ついで馬鈴薯、乾草、甜菜等である。獨乙がスヱーデンに求めるものは、第一に、鐵鑛、パルプ、麻等であるが、農產物ではバター、ベーコン、鷄卵等

の食料品である。

家畜類では牛二九五萬頭、馬六二萬頭、羊四三萬頭、豚一三二萬頭がゐる。

諾威の資源をさぐる

ノルウェーは全面積一二四千方哩、人口二百八十萬の小國である。全國の七二・二%は荒蕪地であり、二四・二%は森林で占められ、僅に三・六%が農牧地、住宅地に利用されてゐるに過ぎない。

ノルウェーの輸出してゐる主要品は鉛産物、林産物、海産物等であり、各國別に輸出額をみると、英國一六二百萬クローネ、獨乙九〇百萬クローネ、米國八〇百萬クローネ、スェーデン五五百萬クローネ、其他フランス、デンマーク、ベルギー、日本の順となつてゐる。卽ちノルウェーも英獨米の爭覇の舞臺であつた。

鐵は埋産量一億トンと云はれる。ノルエーの工業は豐富なる水力電氣を利用して

近年可成りの發達をみせた。水力電氣はスェーデン以上に豊富で、水力は一、二〇〇萬馬力と推定され、利用水力は二四〇萬馬力である。

一九三七年には硝酸石灰三〇萬トン、硝酸曹達三萬五千トン、石灰窒素三萬七千トンを生產してゐる。

重要農牧地域は首都オスロ附近のグロムメン地帶で、農作物は燕麥、大麥等が多く、小麥、黒麥は少い。しかし農產物全體としては自給の域に達せず年々多量の穀類を輸入してゐる。

獨乙は何を利用するか

第二次歐州大戰前にもスカンヂナヴィア半島の經濟資源をめぐり、英獨佛の角逐が行はれてゐたが、北歐戰の終結と共に完全にスカンヂナヴィヤは獨乙の經濟圏內に包容されてしまつた。

さしあたり獨乙の經濟動員に利用出來るものは、スェーデンの鐵鑛九百萬トンであ

り・ノルウェーの百萬トンの鐵鑛である。今までは英獨佛三國に分散して行つてゐたのを獨占的に利用出來るのであるから、獨乙には非常に强味である。その他、食料品も僅かではあるが、利用出來るし、また電氣化學工業が發達してゐるから肥料工業を爆藥製造の工場にも轉換でき、獨乙の戰時經濟力は相當增加した。

デンマークの利用價値

デンマークの輸出貿易額は一九三八年度には十五億三千五百萬クローネ、一九三九年度には十五億七千五百萬クローネであつた。

一九三九年度に於ける第一の顧客は英國で八億二千五百七十萬クローネで、輸出總額の過半數を占めてゐる。第二は獨乙で三億六千八百萬クローネ、第三はスェーデンで七千七百萬クローネ、第四は米國で二千百廿萬クローネとなつてゐる。——一クローネは純分五十三錢七厘强。

一クローネは純分五十三錢七厘强。

今まではデンマークの輸出の一番いゝお得意は英國であつたのに、今回それが獨乙に代はつた譯で英國の打擊は大きい。デンマーク占領の經濟的意義は食料の補給地として重要であり、同時に英國に對する封鎖を意味する。

一九三八年度に於て英國の支拂つた八億六千萬クローネ中の七億四千七百萬クローネは、バター、肉類及び鷄卵の購買に當てゝきたのをみても、いかにデンマークの對英輸出が英國の食料補給に役立つたかゞ分かる。

オランダの資源をさぐる

オランダ本國は面積が狹い上に濕地、水面不毛地が多くて利用出來る土地は少い。最も多いのは牛で約二百八十八萬頭、豚が二百十二萬頭、羊が四十八萬八千頭、馬は卅二萬頭もつてゐる。從つて、バター、チーズ、ミルク等の酪農製品は元より肉類の輸出が多い。

水産業は盛で、中でも北海に於ける鰊漁は有名である。また牡蠣も有名である。鑛業は惠まれてゐないが、石炭は一年に約一千八百萬トン産出する。工業はベルギーに比して遙に劣つてゐる。しかし紡織や織布などの纖維工業は可成り盛んである。纖維工業の發達には西風に伴ふ濕氣の多いことが與つて力ある。

海岸線の變化に富んだオランダでは國民の海事思想が古くから發達して居り、二百數十ヶ所に造船所をもち、年六十萬トンの造船能力をもつてゐる。これが獨乙に役立つことは云ふまでもない。

オランダ本國は、蘭印の資源にたよつて生きてゐた國である。それが輸入困難になつた今日オランダは生きて行かれぬのは當然であり、蘭印の砂糖、ゴム、錫、石油を握つた者が今後の世界に强く生きて行くのだ。

ベルギーの重工業

ベルギーの山地卽ちライン地塊の西北部に屬するアルダンヌ高原は鐵、石炭の寶庫として獨乙の垂涎の地である。前大戰に於ては今回同樣獨乙の馬蹄下に屈服し工業は大破壞をうけたゝめ、工業の回復に五ケ年を要した。ところが今度は大々的破壞をうけなかつたのでベルギー軍降服後の同國の軍需工業はそのまゝ獨乙の武器になる譯である。

機械工業はリエージュ、ナミュール、ガン、モン、セリンゲ等に行はれてゐるがそのうちリエージュは「ベルギーのバーミンガム」と云はれる程、鐵砲その他鐵工品の製造で有名である。ガラス製品も同國の誇るべき產業の一つである。

紡績業は鐵鋼等と共にベルギーの主要工業であつて主な產地はシェルト河の流域である。

石炭はコース河と支流サンブル河との沿岸が中心であつて延長八十キロ、幅十四キロ乃至十九キロ、炭層の厚さ九十センチ乃至八メートルと云はれる。產出高は一

年に約三千萬トンである。

以上の如く獨乙はデンマーク、オランダ、ベルギーの經濟資源を利用し得るが、いち早くこれらの諸國を占領したのは『これらの國の經濟價値に目をつけたのではなく、純然たる英佛攻略の足場として、軍事上の進駐を試みたものであつて、これらの國々を占領する事によつて享受する經濟的利益はむしろ從であるといつてよいであらう』としてゐる。（エコノミスト、十—七—八）

佛蘭西の降服と獨乙の戰鬪力

コンピェーニュの森で昭和十五年六月廿二日獨佛休戰協定が成立した。

全文廿四ヶ條より成り、獨乙が將來新ヨロッパ建設の時に、禍根を殘こさないように、出來るだけ佛國を刺戟せず、しかも英國打倒のため必要な條件を盛りこんである。

ある。

まづ第一は對英作戰上獨乙戰闘力の增大を狙つてゐる。獨乙は佛國の大西洋沿岸を占領したため、對英作戰に必要な潜水艦基地、航空基地を求め得た。經濟的には北佛の鐵鋼を始めとする富豐な資源を求め得た。また大西洋沿ひにスペインとも連絡成り、かくして獨乙は長期戰に耐へうることになつた。

第二に英國の抗戰力を阻害するために佛國を獨乙側につける苦心をした。卽ち佛國の名譽心を蹂躪して佛國の物的、人的資源を英國側に追ひやることを避け、佛國民をしてペタン內閣について來られるように苦心した。

こゝでは佛國の屈服で獨乙の經濟力がどの程增大したかを檢討しよう。以下鐵鋼聯盟の資料による。

東部重工業地帶

メッス、ナンシイを中心とするこの地帶には埋產量四十一億トン、年生產高三千乃至四千萬トンに達する歐州最大のロレーヌ鐵鑛床を擁し、佛國鐵鑛石生產の九〇

%强、銑鐵生産の七〇%强、鋼生産の七〇%弱（主としてトーマス鋼）を占めて、佛國重工業の心臟を形造つてゐる。

北部重工業地帶

リール、アンザン、ドナンを中心とするこの地帶は、ノル及びパドカレー兩縣にある埋産量一八〇億トン、年產出額三千萬トンの炭礦資源を基礎として（ベルギー及びオランダ兩國よりの輸入炭は年五百萬トン程度）佛國石炭產出高の六〇%を占めてゐる。

しかし同地方はこれらの石炭にロレーヌ、ノルマンジイ、ピレネー等の鐵鑛石及び國內屑鐵等をもつて、佛國全生產高の一三%乃至一四%の銑鐵一八%强の鋼を生產する。

中部重工業地帶

クルーゾー、サン・ロェンヌを中心とするこの地方は、前記二地方と異り、鐵鑛石、

クルーゾー、サン・ロェンヌを中心とするこの地方は、前記二地方と異り、鐵鑛石、石炭とも殆んど恵まれてゐない。從つて銑鐵、鋼ともにその生産は佛國全生産額の數%にすぎない。しかしこの地方の强味は優秀な勞働力が豊富に得られることと、國境から遠くはなれてゐて國防上比較的安全なことである。そこでこの地方にはシユナイダーの工場の如きがある。

以上のほかアルミニウム生産に於ては、世界有數の産出國であり、一九三八年は生産高四萬五千三百トン、その原料たるボーキサイト生産高六十八萬二千トン（世界一）このうちアルミニウム一萬五千三百トン、ボーキサイト廿九萬二千トンを輸出した。

輕工業と農産物

北部フランスは麻、綿、毛等の紡績業、革、硝子、人造肥料、爆藥等の輕工業も發達してゐる。

かつフランドル、アルトワの地味ゆたかな平原は小麥、燕麥、大麥、裸麥、甜菜、

馬鈴薯、煙草、ホップ等の農産物を豊かに產出する。

次に食料品は英獨佛伊の中では一番自給出來る國である。食料品貿易は每年入超になつてゐるが、その大部分はアルゼリヤ、チユニス、モロッコ等北アフリカの植民地からの輸入である。

麥類は一九三八年は、一九三七年の七百一萬三千トンに比し二百四十萬トンの增產であつた。小麥は一九三九年中に四萬二千トンを輸出した。

馬鈴薯は一部飼料となり、玉蜀黍は大部分飼料であるが、玉蜀黍のみは需要の半以上を輸入しなければならない。その輸入先は大部分佛領印度支邦、モロッコ等の植民地である。

魚類が重要量の九%、砂糖が同じく十二%を輸入してゐる以外は肉類、卵、酪農品等大體自給出來る。砂糖の輸入先は大部分蘭印、キューバ等の外國であるから常時五十萬トンの貯產をしてゐると云ふ。

品等大體自給出來る。砂糖の輸入先は大部分蘭印、キューバ等の外國であるから常時五十萬トンの貯産をしてゐると云ふ。

飲料品は、特に葡萄酒は世界一の生産國でありながら、なほ一千四百萬ヘクトリットルの葡萄酒を輸入してゐる。これは獨乙に於けるビールの如く、佛國民にとつては葡萄酒は生活必需品だからである。その大部分は、アルゼリヤ、チュニス、モロッコ等の植民地から輸入してゐる。コーヒーはブラジルを始めとする南米諸國、コヽアはアフリカの植民地から輸入するとエコノミストは報じてゐる。

大戰前の植民地活躍

初期の海外活動

少數の獨乙人は近世の初期以來、植民的企業に參加してゐる。ニユールンベルグの航海業者、ブランデンブルグの貿易業者等はその中時に顯著なものである。彼等は十六世紀の初め頃に於て既に南米ヴエネズエラに商事會社を建て、十七世紀にはアフリカの西海岸に於て諸處の要地に植民した。

然し乍ら和蘭人、佛蘭西人等の反對にあつたゝめに、其の領地を和蘭西印度會社に賣却するの已むなきに至つた。

フリドリッヒ大王(Frederich II)も亦充分海外活動の重要なるを認めて種々の計

フリドリッヒ大王（Frederich II）も亦充分海外活動の重要なるを認めて種々の計畫を樹てたのであるが、戰爭後の幾多の經濟問題があつたゝめに實現する事が出來なかつた。

當時既に獨乙人の海外植民熱は旺盛であつて、時にブランデンブルグ王家は進んで彼等の海外活動を指導奬勵した。政治家、學者にして植民思想を抱懷した者も甚だ多かつた。例へば獨乙歷史學派の經濟學者フリードリッヒ・リストやW・ロッシャー等は何れも植民地領域獲得の必要と利益とを强調した。就中、リストが一八四一年の著書『經濟學の國民的體系』中に於て、植民活動を先進文明國の正規の行動として是認した事は、其の後獨乙植民政策論者によつて卓越した見解として評價された。

彼リストは言ふ。

『凡そ正規の發展をなしつゝある國民は未開の國民を指導して開明の域に導き、其の過剩なる人口と精神的及び物質的資本の餘力を以て植民地を建設し、新らし

き國民を産出する力を具へてゐる』と。

また一八六七年、北獨乙アルゲマイネツアイトウングは其の論說に於いて、獨乙の植民帝國建設の必要を力說して、國民の輿論を喚起する所があつた。

かくて獨乙の朝野には植民地の獲得を唱導する者次第に多く現れたのであるが、ビスマルクは大陸的政策をとつて、初めは植民地の獲得に反對した。

貧乏なポーランド貴族

ビスマルクの言として傳へられる有名な言葉がある。

『植民地と云ふものは、貧乏なポーランドの貴族が、充分にシャツさへきられないのに絹のハンカチーフを胸にはさむ様なもので、獨乙にとつては有害無益である』と。

獨乙が事實やつて來たところは其の通りであつた。卽ち一八七四年ザンジバルの

獨乙が事實やつて來たところは其の通りであつた。即ち一八七四年ザンジバルの

保護權を提供せられた時に之を拒絕した。

國民の間に澎湃としておこりつゝあつた植民思想は遂に實際的な植民計畫となり一八四〇年より六〇年にかけて、フランクフルト・ベルリン等に幾つかの植民會社、植民協會の設立をみた。然しながら國家の積極的援助を行はず、宰相ビスマルクは、植民地經營費用の過大なる事を主張して斯る植民地の獲得に反對した。

蓋し彼にとつては、植民地問題よりも成立直後の獨乙帝國の內部的統一の强化と歐洲大陸に於ける帝國の地位向上が最重要關心事であつた。而も對外關係の圓滿なる發達を熱心に希求し、時に英國の態度に注意を傾倒した。

ビスマルクの眞意

一八八〇年代に至り植民運動は更に盛となり、國民の輿論はアフリカの開發に集中せられた。一八七五年英國がフィヂー群島を併合するや獨乙の上下は著しく激昂

し、各種の植民協會が現れて、この問題を熱心に研究した。中にも一八八二年ホーヘンローエ侯（Fürst Hohenlohe）が創立した獨乙植民協會は最も有力なるものであつた。同協會は一八八七年獨乙植民會社（Gesellschaft für Deutsch Kolonisation一八八四年創立）と合併して華々しい活動を繼續した。

なほビスマルクも、一時サモアに於けるゴデフロイ・ハンブルグ商會が財政上の危機に陷つたのを救濟せんとした。然るにこれは帝國議會の否決にあつた。これでみると、彼は植民運動については確乎たる意見を有してゐたのだが、たゞ對外政策に於て英國の反對を豫想し、對內政策に於て國內多數の代議士が十分協力しなければ實行不可能であると考へたのである。一八八五年三月二日の帝國議會に於て、彼は叫んでゐる。

『予は植民政策は一般國民の多數が斷乎たる決心と信念とを以て支持する場合に於て初めて實行し得べきを信ずる』と。

…は植民政策に一般國民の多數が斷乎たる決心と信念とを以て支持する場合に於て初めて實行し得べきを信ずる』と。

共の後いくばくもなくして皇帝ウイルヘルム一世はビスマルクの建議に基き時にアフリカに植民を行ふ事に決心した。然るに當のビスマルクは依然、不確實なる植民事業に從ふ事を避け、植民地の所得及び統治は之と深い關係を有する經濟社會の指導者に一任し、政府は寧ろこれが保護監督をなすに止めんとした。一八八四年六月廿六日の帝國議會に於けるビスマルクの演説は、共の大要を盡してゐる。

『植民地の物質的發展並に植民地の成立に關する責任は、これを我が航海業者及び貿易業者の活動と企業的精神とに一任して成るべく海外の領土を直接に獨乙帝國に合併するの形式をとらず、彼の英國商人組合が東印度會社創立の場合に於て示したる如く、その成績顯著なるものに對して英國の王室特許狀と同樣の特許狀を附與し、植民地の統治は主としてその利害關係者に委任し、帝國はたゞ之に歐洲人に對する歐洲人の裁判權と、常備兵を置かずして行ひ得べき保護とのみを與へる』（以下略）

英國の背後を衝く

獨乙植民地の取得は之を二期に分つべきである。

第一期は一八八四年より一八八六年に至るものであつて、獨乙はこの間にアフリカの各植民地及び南洋の諸島を獲得した。一八八四年チュニス駐在獨乙總領事ナハチガルは、政府の命を受けて、アフリカ西海岸のトーゴーに到つて、此の地を獲得し、更にカメルンに於ける英吉利人を追うて之を占領した。

いくばくもなくして英國の軍艦が現れたがナハチガルは獨乙の國旗を立てゝ英人の上陸を禁じ、また各地に於て英國の代理商人と激烈なる競爭をした。この頃また獨乙はアフリカ東海岸にも現れて、ザンジバルを獲得するの機會を得た。當時ザンジバルの王妹にしてハンブルグ生れの一商人と結婚したものがあつたが、彼女が寡婦となるや兄王に對し父の遺言を請求した。獨乙政府はこれを保護し、巡洋艦を派

婦となるや兄王に對し父の遺言を請求した。獨乙政府はこれを保護し、巡洋艦を派遣して一八八四年にこれと土地割譲に關する條約を結ばしめた。

喜望峯の議會は獨領植民地と隣接するに至つた事に不快を感じて、南西アフリカを併合せん事を宣言した。此の現象は東洋にも現れて、獨乙が一八八四年ノイギネヤ會社を設立して、ニューギニヤに土地を獲得するや、其の隣接植民地なるクイーンスランドの憤激は甚だしかつた。

獨乙の植民地獲得は凡て英國の意に反して行はれたものであつて、これがために英國の怨恨を買つた。而もこれを遂行し得たのは、全くビスマルクの卓越した手腕であつて、彼にとつて最も重要なる一事は

『獨乙は英國に對する友誼のために其の生存に必要なる利益を犠牲に供し得ない』

と云ふ事を明にするにあつたと云ふ。（大鹽氏、各國植民史及植民地の研究三九八頁）またビスマルクは他面に於て『獨乙植民地獲得は英國との戰爭を招致すべき程の價値あるものでない』と云ふ事を理解せしめるに力め、彼が其の新領地に對して

植民地なる名稱を附せず、一般に保護領と稱したのも、列國に對する一種の遠慮であつたと云ふ（大鹽氏、各國植民史及び植民地の研究三九九頁）が、ビスマルクが『植民地問題で、英獨は衝突せず』との理窟を英國に分らせようとした政策は、そのまゝヒットラーによつて踏襲されてゐる。

ビスマルク・ヒットラーの共通點

即ちヒットラーは常に植民地問題について英獨衝突のない事を説明してゐるが、時に一九三九年（昭和十四年）四月廿八日ベルリンのクロールオペラでの大演説に於て左の如く明言してゐる。

『余は現在でもなほ英獨兩國は再び戰ふ事はないと信ずるものである。不幸にして英國の公式、非公式の兩政策は、獨乙が加はる如何なる紛爭に於ても、英國は必らず獨乙の敵國に味方すべしとの見解を堅持してゐる事は、疑問の餘地がない

位明瞭に示してゐる。これはこれまで英國が獨乙との戰爭を何か不可避のやうに考へて居る事であり余の深く遺憾とする所である。余が現在英國に對し提出し、又將來も提出しつゞける意向を有する唯一の要求は、植民地の返還であるが、この問題が武力紛爭の原因となる謂はれのない事は、余の常に强調し來つたところである。

英國にとつて、これらの植民地は價値のないものである。故に余は常に英國は獨乙の立場を諒解し得るものと信ずる。英國は自分にとつて何等價値なく、獨乙にとつては死活の重要性を有するこれら植民地よりも獨乙の友情を選ぶと確信してゐた。植民地要求を除けば、余は未だ嘗て、英國の利益と衝突し、或は英帝國を危殆に瀕せしめる要求を提出した覺えはない。』と言つてゐる。(昭和十四年四月廿八日ベルリン發同盟)だが持てる國英國は獨乙の主張を率直にきくことが出來ず、遂に第二次歐洲大戰にまで進展してしまつた。以下獨乙の舊植民地を檢討しよう。

特許會社の植民

獨乙はアフリカ西岸の保護地以外の植民地に對しては大抵ビスマルクの植民政策に從つて、特許會社の統治を實行した。其の最も主なるものは獨乙東アフリカ會社及びノイギネヤ會社であつて、前者は一八八五年二月特許狀を附與され、後者は其の本土に對しては一八八五年五月、ソロモン島に對しては一八八六年十二月同じく國家の權利を委任せられた。

其の特許狀の內容は、英國が北ボルネオ會社に與へたものに類したが、東印度會社が嘗て英國より與へられた樣な國家最高權の行使を委任せられ、領土の所有權、無主地の占有權、土人との條約締結權は勿論、司法上の權利、財政上の權利までも有した。

次にこの特許會社の內容に筆を進めよう。

有した。

次にこの特許會社の內容に筆を進めよう。

獨乙東アフリカ會社—獨領東アフリカの建設

一八六〇年代にハンブルグの貴族フォン・デル・デッケン、リヒアルト・ブレンナー等は東アフリカ一帶及びキリマンジャロ山地、ヴイクトリア湖等にかけて詳に探險し、大いにその植民の有望なる事を主張したが、其の後カール・ペータース博士、ブファイル伯、ユールケ博士等は一八八四年獨乙植民會社を設立し、官憲の壓迫を排して、秘にアフリカに渡航し、英國人勞働者に姿をやつして獨力ザンジバル島對岸のサアデニに上陸し、ワミ河に沿うて內地に入り、各地の酋長と條約を結んで、僅に二週間の間に面積十萬方粁に近い廣大なる土地を獲得した。

一八八五(明治十八年)年獨乙政府はペータース等の植民會社に特許狀を與へた。會社は獨乙東アフリカ會社と改稱した。獨乙政府は右の旨英國政府とザンジバル王國とへ通告した。

英獨佛は、ザンジバル王のアフリカ東岸地方に對する領土主權が、どんな內容、性質のものか、實地に調査する事の必要を認め、國際委員會を設けた。委員會の報告は一八八六年（明治十九年）に出來た。それによるとザンヂバル王は海上に於てザンジバル、ペンバ、ラム、マフィアなどの島々を領有し、陸上に於て北はタナ河、南はミネンガニ河（ロヴア河の少し南方）その中間の沿岸約六百哩、海岸より奥地へ十哩の幅の地帶を領有するものと認めた。

英獨佛は右の報告を受諾し、次の樣な妥協に到達した。

フランスはマダガスカル島に對する單獨處分權を握る。英獨は陸上に於て北半を英國、南半を獨乙の夫々勢力範圍とする。そして兩者の境界は、ペンバ島の對岸の一點から始まり、キリマスジヤロの北麓をすぎて、ヴイクトリア・ヌヤンザ湖の東方に至る一直線によつて區劃するのである。

獨乙は其の後、一八八八年四月ザンジバル王より、其の沿岸全部に亙る保護權を

方に至る一直線によつて區劃するのである。

獨乙は其の後、一八八八年四月ザンジバル王より、其の沿岸全部に亙る保護權を獲得するに至つた。

然るに一八八八年八月アラビア人と土民軍の大叛亂勃發し、會社の領土は悉く覆されたので、翌年本國より討伐軍を派遣して漸く平定する事が出來た。

然し乍ら比較的進歩せる社會組織を有する土人に對して單なる特殊會社が統治する事の困難なるを覺り、會社は遂に一八九一年を以て、其の主權一切を獨乙帝國に引渡して、單なる一商事會社として存續する事になつた。

ノイギネヤ會社―獨領ニユーギニア

南洋に於ける獨乙植民の先驅をなせるものは、ハンブルグのゴデフロイ商會であつたが、一八七九年『南洋貿易拓殖會社』がこれを繼承して熱心に活動した。

而してフオン・ハンセマンは一八八二年ニユーギニア島北東部及び附近のニユーブリタニア、ニユーアイルランド等の諸島に根據地を設けて植民に努力し、一八八八

四年『ノイギネヤ會社』を設立して、八月政府の保護狀を下附した。

此の運動に對する英國側の嚴重抗議に對してビスマルクも亦斷乎として反駁し、談判は極めて緊張したが、結局一八八五年四月、協定が成立し、獨乙は占領地域の領有權を確保した。而して獨乙はニユーギニアの北部占領地をカイザー・ウイルヘルムスランドと改名し、ニユー・アイルランド及びニユー・ブリタニ島をビスマルク群島と改稱した。更に其の後に於ても附近島嶼の分割は進められ、獨乙はソロモン群島中のブーゲンヴィル島、ブカ島等を獲得した。

會社は內地の開拓事業に努力したが、總て其の指揮命令權がベルリンの本社に集中せられしため、英獨兩國の妨害に抵抗して効果をあげる事を得ず、遂に一八九九年一切の權利を政府に引渡して、一私立商事會社となつた。

大戰後獨乙植民地の分割

一八八五年にコンゴー條約が植民地所有國の間に締結されたコンゴー條約調印國によつて與へられた嚴肅なる保證は、聯合國によつて無視された。

一九一四年八月二日、植民次官ゾルフ博士は條約の規定に準據して植民地が差迫る戰爭に捲き込まれる恐はないから、植民地在住歐州人は何等憂慮する事を要せぬ旨電報を以て獨領東アフリカ行政當局に通告したのであつた。その後日ならずして、英國は東アフリカに於て戰端を開き根民地は戰爭の舞臺となつたのである。

中央アフリカに於ける歐洲列強の植民地は中立たるべき事が宣言せられた。

然るに世界大戰が勃發するや、聯合國側はこの條約を蹂躙して、一九一四年八月

五日に獨領アフリカ極民地に對して軍事行動を開始し、次いで其の他の獨領民地をも武力を以て占據し、大戰の終了した時は、獨領植民地の大部分は聯合國に征服されてしまつてゐた。

かくて舊獨領植民地は、次の如き國々の統治に委ねる丶事になつた。

ヴエルサイユ條約による獨領植民地の分割

委任統治地	委任統治國及び委任統治の形式	面積（平方哩）	總人口（千人）
○獨領東アフリカ			
タンガニイカ	英（B式）	三六三、〇〇〇	五、〇二二（内獨乙人二、一四九人）
ルアンダ、ウルンデイ	ベルギー（B式）	二一、〇〇〇	三、五〇〇
キオンガ	葡領東アフリカ聯合		
○西南アフリカ	南阿聯邦（C式）	三二二、〇〇〇	

キオンガ	葡領東アフリカ聯合		
○西南アフリカ	南阿聯邦(C式)	三二二、〇〇〇	
○カメルン	佛 (B式)	一六六、〇〇〇	二、二〇〇
	英 (B式)	三四、二〇〇	八〇〇
	佛 (併合)	一〇四、六〇〇	
○トーゴーランド			
東部	佛 (B式)	二〇、〇〇〇	七五〇
西部	英 (B式)	一三、〇〇〇	三〇〇
○大洋洲			
ナウル	英・濠・ニュージランド (C式)	九	
獨領ニューギニア ビスマルク群島 ソロモン群島	濠 (C)式	九二、六〇〇	四六〇
獨領サモア	ニュージランド (C式)	一、〇〇〇	五〇

マーシャル群島
カロリン群島　日本（C式）　九六〇
マリアナ群島

○膠洲灣租借地　支那へ返還　二〇〇

舊獨領植民地の分割により、大戰前既に四百萬方哩の屬領を有する佛蘭西は、更に廿九萬方哩を增加した。また大戰前既に九十二萬六千哩の屬領を有してゐたベルギーも新に價値ある屬領、二萬一千方哩の土地をその支配下に入れ、更に英國に至つては七十三萬三十方哩の土地を新にアフリカに於て獲得し、アフリカのみで三百九十萬方哩の大領域をその支配下に置くに至つた。

然し委任統治の發展はまことに微々たるもので、受任國の財政負擔となつて居る。特に佛蘭西に於て然りである。その理由は、本國の經濟難打開のために獲得した植民地でないから開發の必要が少いので發展が遲々としてゐるのだと云ふ。（阿部氏

人口、資源、植民地一三三頁）

獨乙本國の割讓

獨乙の南北及び西部は獨乙民族及び獨乙語族の境界が稍々明瞭に區劃し得るに反し、東部は幾多の他國民と混血してゐる。かゝる國民的に混血せる地域に於て新國境を劃定する事は頗る困難で、人民投票によつて、その歸屬を決定する方法を用ひた。

人民投票の結果は左の通りであつた。

○北部シユレスウイツヒ第二地帶（一九二〇年三月十四日施行）

五一、七二四票　獨乙へ

一二、八〇六票　デンマークへ

西プロイセン（一九二〇年七月十一日施行）

九六、八八九票　獨乙へ

七、九七七票　ポーランドへ

○東プロイセン

三五三、六五五票　獨乙へ

七、四〇〇票　ポーランドへ

○上部シュレージエン（一九二一年三月廿日施行）

七一七、一二二票　獨乙へ

四三三、五一四票　ポーランドへ

○墺太利領ケルンテン（一九二〇年十月十日施行）

三七、三〇四票　墺太利へ

一五、二　九票　ユーゴスラヴィアへ

右の如き明確なる結果を示せるにも拘らず獨乙は其の領土の多くの部分を奪はれ

一五、二	九票	ユーゴスラヴィアへ

右の如き明確なる結果を示せるにも拘らず獨乙は其の領土の多くの部分を奪はれた。かゝる國民的に混血せる地域に於ける新國境の樹立は、ヴェルサイユ條約によつて悉く獨乙に不利に決定された。例へばダンチヒ、メーメル、南チロールの如きは政治的理由から、純獨乙領なるにも拘らず、獨乙若くは墺太利から切り離したのである。

獨乙とベルギー國境のオイペン―マルメディー地方に於ける人民投票は特異のもので、同地方をベルギー領に編入さす可しとの意見を持つ者のみ、自分の名を名簿に登錄する事が出來た。この投票は一九二〇年七月廿四日に行はれ、時のベルギー外相ヴァンデルヴェルデ自身も、これを『滑稽』なりと稱してゐた位である。

ヴェルサイユ條約は、獨乙本國をも分割したが、この結果獨乙本國は二萬七千方哩を減少した。獨乙本國の失へる地方は左の通りである。

平和條約による獨乙本國の分割

割讓地方	割讓先	面積（平方哩）	人口

アルサス、ローレン	フランス	五、六〇七	一、八七四、〇一四
西プロイセンの大部 ポーゼン、東シレシア 東プロイセン	ポーランド	一七、八一六	三、八五四、九六一
上シレシアの一部	チエッコスロヴァキア	一二二	四八、四四六
メーメル地方	リトアニア	一、〇二六	一四一、二三八
ダンチヒ自由市	國際聯盟下へ	七三九	三三〇、六三〇
オンペン、マルメヂイ	ベルギー	四〇〇	六〇、〇〇〇
シユレスウイッヒの一部	デンマーク	一、五四二	一六六、三四八
計		二七、二五二	六、四七五、六四〇
ザール地方	十五年間國際聯盟下へ	七、三八〇	七七三、七六〇

（備考）ザール地方は一九三五年一月人民投票により獨乙歸屬に決定

ザール地方　十五年間國際聯盟下へ　七、三六〇
（備考）ザール地方は一九三五年一月人民投票により獨乙歸屬に決定　七七三、七六〇

ナチスの擡頭と其の植民政策

ナチスの誕生―一九一九年一月九日

世界大戰役の獨乙に於て、國民を蹶起せしめたものは、國民社會主義獨乙勞働黨即ちナチス黨である。

一九一九年一月九日、著述家オットー、ハルレル、錠前鍛治工アントン・ドウルーツケの兩名が、ミュンヘンに『獨乙勞働黨』を設立し、同年九月十六日アドルフ・ヒットラーが同黨に加入し、一九二〇年一月一日始めて黨本部が設置されるに至つた。當時黨員總數僅かに六十四名に過ぎなかつたが、同年二月廿四日、『ホーフブロイ酒場』の廣間で第一回のナチス黨大會を開き、アドルフ・ヒットラーはこゝに

參集した二千名に餘る聽衆の前に、廿五ヶ條の綱領を始めて宣言した。
この綱領は今日に至るまで、何等變更されることなく、着々として實現され、大戰後獨乙國民の世界に處すべき態度と方向とを明示してゐる。

廿五ヶ條の綱領

廿五ヶ條の綱領は左の通りである。

一、民族自決權に基き、總ての獨乙人は一致團結し、大獨乙國を結成すること。

二、他國と平和の權利を享有すること。ヴェルサイユ條約及びサン・ジェルマン條約の廢棄。

三、獨乙國民の生存のため並びに我が過剰人口の移植のために土地(植民地)を要求する。

四、『國民同志』のみ獨乙公民たることを得、國民同志は獨乙人の血統を有せざる

求する。

四、『國民同志』のみ獨乙公民たることを得、國民同志は獨乙人の血統を有せざるべからず。從つてユダヤ人は國民同志たることを得ず。

五、獨乙公民にあらざる者は、單なる客人として、獨乙國内に滯在することを得。

六、獨乙公民のみ、國政の指導及び法律に關する決定に參與し、且つ公職に就く事を得。

七、國家は、獨乙公民の職業及び生活につき考慮すべきものとす。獨乙公民にあらざる者は追放せらるゝことあるべし。

八、獨乙人にあらざる者の獨乙への移住は之を阻止することを得、一九一四年九月二日以降移住せる獨乙人にあらざる者は追放せらるゝことあるべし。

九、總ての獨乙公民は同等の權利及び義務を有す。

十、獨乙國民は第一の義務として、精神的或は肉體的に生産に從事すること、個人の行爲は共同の利益と衝突すべからざること。

十一、無職及び不勞所得の禁止、利子奴隸の打破。

十二、一切の戰爭による利得の回收。

十三、トラスト經營企業の國營化。

十四、大經營の利益分配に對する要求。

十五、養老事業の確立。

十六、健全なる中産階級の確立、百貨店を地方公共團に依る經營に移すこと、小商工業者の救濟。

十七、土地制度の改正、卽ち土地が不合法に所得され、又は公共の利益に反し管理せらるゝ場合は、公衆の利益のため無償に收容さる。土地賣買投機の防止及び地代の廢止。

十八、公衆の安寧を害する者は彈壓す。重罪犯は死刑に處す。

十九、獨乙普通法の實施。

二十、國家教育事業の確立、卽ち貧しくして特に天賦の才能に惠まれたる兒童を

十九、獨乙普通法の實施。

二十、國家教育事業の確立、卽ち貧しくして特に天賦の才能に惠まれたる兒童を

國家の經營によつて敎育すること。

二十一、國民の健康增進、母性及び小兒の保護、未成年勞働の禁止、體育の奬勵。

二十二、國民軍の組織。

二十三、政治的虛僞に對する彈壓。獨乙新聞の社員は、『國民同志』たらざるべからず、非獨乙新聞は許可を要し、獨乙語を以て發行するを得ず。獨乙人にあらざるものは、獨乙新聞の經營に參與することを得ず。

二十四、獨乙國家に對して危險なく、且つゲルマン人種の道德に背かざる限りに於いて、國內に於ける信仰を認む。國民社會主義獨乙勞働黨は一定の信仰告白に束縛さるゝことなく、積極的キリスト敎の立場を代表す。我黨はユダヤ的物質主義的精神に挑戰す。獨乙國民の恒久的更生は、『公益は私利に優先す』といふ根本觀念によつてのみ可能たるものなり。

二十五、鞏固なる國家中央權の確立。全國土に對する中央議會の無制限的權能の

確立。各同盟國家に國家の法律を施行するため階級及び職業會議所を設立すること。

爾來ナチスは一九三三年、ヒットラーの統率下に、この獨裁權を確立するまで、十數年間の在野時代を通じて、常にヴェルサイユ條約の廢棄、失地植民地の回復を叫びつゞけた。

ヒットラー自身も、其の著『我が鬪爭』に於て、領土の狹少なため大民族が沒落に瀕せる場合には、土地や領土を求める權利は義務にまで轉化し得るものであると述べ、祖國獨乙の復興のためには、領土擴張の不可缺なる事を强調してゐる。

ヒットラーの『我が鬪爭』はナチス執權前に書いたもので、その內容も、ヒットラーが政權を握つて、實際に對外政策を實施する樣になつてから、變更を餘儀なくされてゐる。中にはまた『我が鬪爭』の主張を實行しながら、結果に於てその豫期したものとは相違せるものもある。即ち『我が鬪爭』はナチス政權樹立のための貴

されてゐる。中にはまた『我が闘爭』の主張を實行しながら、結果に於てその豫期したものとは相違せるものもある。即ち『我が闘爭』はナチス政權樹立のための貴重な掛聲であつた。從つて獨乙國民の聖典『我が闘爭』に一貫するナチス獨乙の慾望の根幹は、失地の回復、平等權の確立によつて國權回復の水平運動に成功した曉には、先づ東漸してポーランドを狙ひ、南進して地中海に出で、獨乙民族の統一、大獨乙帝國の實現を期するものである事は明白である。

ヒットラーの『我が闘爭』に現れてゐる東方政策

ヒットラーはその著『我が闘爭』の中に於て次の如く述べてゐる。

民族の生存權

勝利者にのみ權力は與へられる。現に我々が生活を營んでゐるところの大地は、決して天から與へられたものでなく、生命を的にして戰ひ取つたものである。同様に將來に於いても、土地や我が民族は生命は、天から與へられるものでなく、たゞ劍の力によつてのみ確保し得るものであることを、我々は知らねばならぬ。

更に我々は、若し土地がないために、これ以上生存して行く事が出來ないといふような場合には、土地を要求する權利は、同時に義務にまでなる事を知らなければならぬ。特にそれが黑色人種の如き場合ではなく、人類文化に偉大なる貢献をなしたところの我々獨乙民族の場合に於て、猶更そうである。

獨乙は世界の强國にならなければならぬ。然らざれば、寧ろ存在せざるにしかずである。しかも强國になるための絕體的條件は、民族の生命であるところの土地である。と喝破し更に語をついで曰く。

獨乙民族の政治典範

我が獨乙國民の政治的典範は、次のやうなものである。卽ち、歐洲大陸に於ける二大勢力の成立を、我々は認める事は出來ない。また獨乙國境に第二の軍事的勢力を組織せんとするすべての企ては、これを獨乙に對する攻擊と認めなければならぬ。而して、かくの如き國家の形成を、我々は凡ゆる方法によつて妨害し、破壞しなけ

を組織せんとするすべての企ては、これを獨乙に對する攻撃と認めなければならぬ。而して、かくの如き國家の形成を、我々は凡ゆる方法によつて妨害し、破壞しなければならぬ。それは我々の權利であるばかりでなく、義務であると思はねばならぬ。大久保康雄氏譯、ヒットラー・わが闘爭

民族國家に於ける外交政策

かくて彼は云ふ――

民族に於ける外交政策は、その國家内に含まれてゐる民族の生存を保障するものでなければならぬ。而して、そのためには、民族の人口と土地との問題を完全に解決する事が先決問題である？……

英國もロシアもアメリカ合衆國もすべて廣大なる面積を領してゐる。佛蘭西も同樣である。

佛蘭西は、その領域内の黑人達を徵發して軍隊を補充し、また混交の結果、黑人の血が急激に流れ込んで、今や歐洲の一角に、アフリカ黑人の國家が建設されたのではないかとさへ疑はるゝほどである。

若し佛蘭西が、かくの如き状態のまゝ、三百年經過した時には、フランス民族の血は消滅し去つて、歐洲人とアフリカ人との混血人種の國家が出現するであらう。そしてラインからコンゴーに至る地域の人間も、人種的に遙に低下する事を免れまい。

こゝが佛蘭西の植民政策と昔の獨乙の植民政策の異る點である。獨乙は獨乙民族の移住地を擴げる事もせねば、植民地の土人を軍隊に用ひて、帝國の勢力を擴張する事もしなかつた。たゞ植民地の維持に、ひたすらこれつとめてゐたのである。

國粹社會主義運動は、民族に生活資源を與へ、且つ政治上軍事上にも精力ある支持を提供するところの土地と、民族の人口との間の不均衡を打破し、歴史的な過去を清算し現状の打開に努めねばならぬ（同前三四二頁）と叫び、且つ獨乙外交の方針として、英獨伊同盟の軍事的意義を强調してゐる。

英獨伊軍事同盟

針として、英獨伊同盟の軍事的意義を强調してゐる。

英獨伊軍事同盟

我々の同盟者たり得るものは、英國と伊太利あるのみ。……英伊と同盟する事によつて二つの効果を期待する事が出來る。即ち一つは、これによつて世界大戰當時から結ばれてゐる聯合國側の連鎖させる事が出來、他の一つは、かくして我が民族の不俱戴天の仇敵たる佛蘭西を國際的孤立に追ひつめる事が出來るのである。よしこの効果が、はじめの中は、單に道德的作用にしか過ぎずとするも、これによつて獨乙の自由獲得の運動は、はかり知れぬ程の便宜を受ける事が出來るのだ。何故なら、さうなつた曉には、歐洲に於ける行動の決定權は、佛蘭西の手中から脫して、完全に英獨伊の掌中に歸するであらうからである。……

恐らく佛蘭西は、あらゆる手段を用ひて我々を苦しめ、この同盟の成立を妨害するであらう。だが、我々は耐へ忍ばねばならぬ。努力と忍耐——そうすれば、やがて我々は佛蘭西の野望を粉碎する事が出來るであらう。

大陸に於ける佛蘭西の制覇を默視し得ざるもの——これが、我々の同盟者なのだ。

と結んでゐる。……

この短文の中にヒットラーの當初意圖してゐた英獨提携論が現れてゐるが、遂にこれは實現しなかつた。寧ろヒットラーが「我が鬪爭」の中に仇敵視してゐるロシアと握手するに至つた。これ運命の皮肉かヒットラーの妙策か。

植民地返還要求の政治的理由

——國家の名譽のために——

獨乙の植民地返還要求は經濟的理由のみからでなく、寧ろ經濟以外の理由の方が強いのである。その要旨はこうだ。

獨乙は國家的名譽のために、植民地的地位の平等を要求する。カントを出しゲーテを生んだ獨乙は世界の文化に貢献する所大きかつた。獨乙の文化水準は他の如何なる國家にも劣りはしない。從つて獨乙は他の列强と同一の權利を亨有する事を要求する。獨乙の舊植民地返還要求は、この一般的平等地位の一環に過ぎない。そこで一九三六年九月、ニユールンベルグに於けるナチス黨大會に於てヒットラー總統は

『獨乙は、その植民地要求に對して正義が行はるべしとの主張を撤回する事を得ない。獨乙國民の死活的權利は、他國民のそれと同樣に重要である』と叫んでゐる。

英佛の陰謀

世界大戰が終了するや、聯合國はその占領せる舊獨領植民地返還に反對した。その理由は

（一）獨乙はそれを潛水艦の根據地とするであらう事
（二）獨乙は土民を武裝せしめるであらう事
（三）獨乙はそれを陰謀のために利用するであらう事
（四）獨乙は土民を壓迫するであらう事

等であつた。これを要するに獨乙から植民地を奪ひ、これを返還するに反對する理

由は、『獨乙は植民國としての能力なし』と云ふ事である。

かゝる理由の下に舊獨領植民地を分割したのであるが、獨乙の植民地分割は國際的協定によつて決定されたのではない。ヴェルサイユ條約の批准以前に卽ち國際聯盟の成立以前の、一九一九年五月七日の英佛最高會議に於て決定したのである。（阿部氏前掲書一六四頁）

聯合國側の『獨乙には植民地經營の能力無し』との口實位、獨乙を侮辱するものはないし、また事實を誣ふるも甚だしい。こゝに於て、獨乙は敢然かゝる虛言を排擊する道德的權利を保有すると主張し、また多くの論者は、戰前に於ける獨乙人の植民地統治の功績を指摘し、その未開地の文化的開拓の手腕を讃へ、或はまた現在白人種は未開地を統治、支配すべき任務を有し、獨乙も列强と共に、これに參加すべしとの主張である。

ロイド・ジョージの言質

獨乙の植民地返還要求は、道徳的にも法律的にも經濟的にも妥當である。それは帝國主義的動機より出發するものでなく、獨乙國民に經濟生活上の便宜を與へ度いと云ふ願望に立脚するのである。

獨乙の要求は、『有たざる國』の願望や要求と同一でない。獨乙は元々持つてゐたものを返せと要求するに過ぎない。獨乙は新たに、他國の植民地を割譲せよと要求するのではない。

昔は獨乙の所有であり、聯盟規約により、一時的に統治を委任されてゐる領土を返還せよと要求するに過ぎない。獨乙の全植民地はヴエルサイユ條約により委任統治地となつたが、受任國は、統治を委任されたゞけであつて所有權を獲得した譯ではない。この事は聯盟規約によつても明らかであり、また委任統治の本質でもある。

そこでヴエルサイユ會議の四巨頭の一人であつたロイド・ジョージ氏も委任統治の性質に關する誤解を防ぐために、一九三六年二月、下院に於て次の如く言明した。卽ち

『ヴエルサイユ條約の下に、これらの領土は英領として我々に與へられたのではない。それらは國際聯盟に與へられたのである。その法的權利は聯盟に歸屬する』

と。

ヴエルサイユ條約の基調となつた一九一八年のウイルソン平和綱領第五條は

『凡ゆる植民地に關する自由な公平な判定は左の原則によるべき事、卽ち植民地主權の決定に當つては、關係植民地住民の利益は其の統治權を附せらるべき政府の要求と同等の重要性を有する』

と規定した。これに從へば、大戰中に於ける獨乙植民地の占領は、占領國に何等獲得の權利を與へぬ筈であつた。

然るにこれは聯合國側の裏切るところとなり、獨乙はヴエルサイユ條約第一一九條により、海外植民地に關する一切の權利要求の放棄を餘儀なくされた。獨乙からみれば、この事は聯合國側の甚だしい不信、非合法の行爲である。

從つて、かく不法に奪取せられたものに對しては再び其の回復を要求する合法的權利ありと主張するのである。

委任統治の新形式は何のため

歐洲大戰の結果、列强は獨乙舊植民地を分割するに際し、委任統治なる新形式を考案し聯盟規約第廿二條に規定した。何故かゝる新形式を採用したのかに關し、一九二一年ランシング氏の發した言葉を引用しよう。彼は言ふ――若し獨乙の植民地が普通の方法で戰勝國に分配され、それらがこれらの國に主權と共に讓渡されたならば、獨乙はこれら讓渡地域の價値を、賠償金の中に含める事を要求するに至つた

が普通の方法で戰勝國に分配され、それらがこれらの國に主權と共に讓渡されたならば、獨乙はこれら讓渡地域の價値を、賠償金の中に含める事を要求するに至つた

であらう。そこで聯盟は、住民の利益のために委任統治地を分配するものとなし、そうして委任統治は新領土を獲得するための一手段ではなく、一個の義務と見做される事になつた。かくして委任統治制は獨乙から植民地を奪取した。その價値は本來ならば、獨乙の聯合國側に對する債務を著しく減少せしめる筈のものであつたが、聯合國側は、賠償金に何等の損失を蒙る事なく、植民地を獲得したのである。從つて實際上は委任統治制の利他主義は委任統治を獲得した列强の利己的な物質的な利益に奉仕する結果になつたのである。と。

以下舊獨乙植民地の經濟的價値を檢討するが、資料は一九三四・五年のものである。この古い資料を用ひる事が、何故獨乙が植民地を必要とするかの理由をよく說明すると考へたから。

原料資源供給地としての植民地

ゲッペルスの叫び

ゲッペルス宣傳相は

『近代工業の基礎原料は石炭、鐵、石油、棉花、ゴム及び銅である』

と叫んだが、これらの中で獨乙が比較的豐富に有してゐるのは、石炭のみであつて、他は一部又は大部分を輸入してゐるのである。

この際に、自國植民地から原料を獲得出來れば、大いに助かる事は明らかである。舊獨領植民地からは、シサル麻（必要量の二倍）、燐酸鹽（輸入額の七五%）、コヽア（輸入額の四〇%）、バナヽ（輸入額の三〇%）、熱帶木材（必要量の二〇%）が得られ

舊獨領植民地からは、シサル麻(必要量の二倍)、燐酸鹽(輸入額の七五%)、コゝア(輸入額の四〇%)、バナゝ(輸入額の三〇%)、熱帶木材(必要量の二〇%)が得られる。就中特筆すべきは、食用脂肪の原料となる植物性油を大量に獲得出來る事である。現在獨乙は植物性油と脂肪とを年々六十萬乃至七十萬噸必要としてゐるが、その六分の一は今直ぐにでも舊植民地から獲られると云ふ。

植民地の果たす役割

獨乙の植民地返還要求に對する反對者は、舊獨乙植民地が獨乙の手に歸つたとしても、獨乙の輸入依存性は左して緩和されないと云ふ。では一體舊植民地は、獨乙の原料及び食料の不足の幾何を滿たし得るかを吟味してみよう。

試みに一九三四年に於ける舊獨乙植民地よりの主たる原料食料の輸出數量、同一品に對する獨乙の輸入數量を對照すると左の通りである。(單位噸)

	獨輸入總量	舊獨領植民地(B式及びC式委任統治地よりの輸入總量
油種、胡桃、果實(採油用)	七二九、四六九	九六、〇八九

各種の熱帯性果實	五八五、九一八	
(其の内バナナ)	九六、一四九	二六、四三九
コーヒー原料	一五〇、七四一	一五、八五九
コヽア原料	一〇一、三八一	三五、九二八
各種の亞麻及び大麻	一一五、一九九	
(其の内シサル麻)	三七、九七一	七三、五一〇
皮革	一五七、一一九	五、六〇八
羊毛其の他獸毛	一六四、七六二	九九二
棉花	三三七、四一三	七、三四五
護謨	六〇、二八二	二、〇七一
燐酸鹽	八三〇、五三五	六一九、八五九
製材	一六九、六四七	二、一五一

熱帯性木材	二四八、〇〇〇	五四、五三三
穀類（玉蜀黍、稷等）	三六八、三三八	一六、〇三五
金鑛	—	三三、六〇三（オンス）
ダイヤモンド	—	二五八、九六七（カラット）

前表によれば、シサル麻は獨乙の需要を充たして餘りあり、燐酸鹽、バナナ、熱帯性木材、植物油等は夫々寄與する所大きく、また金（ニユーギニア及びタンガニカ産）及びダイヤモンド（南西アフリカ産等）も注目に値する。

委任統治國の怠慢

舊獨領植民地からの原料輸出額は、一九〇八年に二七、八三六、〇〇〇マルク、一九一三年に一六二、一四〇、〇〇〇マルク、一九二八年に二六二、三〇二、〇〇〇ライヒスマルクに上つてゐる。

一九〇八年より一九一三年迄の增加に比して、一九一三年より一九二八年までの增加は鈍いが、その原因は何處にあるのか。

委任統治國は既に植民地を所有してゐるから、たゞ一時的に統治を委任された土地に大なる投資をなす意志がない。更にまた、委任統治地を餘りに發展させると、自國の從來からの植民地との間に不必要な競爭を惹起する惧れがあるから、委任統治地の開發には、全力を注がないと見るべきであらう。若し資源の乏しい獨乙が統治してゐたら、もつと資源開發は進んでゐたであらうとみてゐる。(阿部氏、人口、資源、植民地一五三頁)

委任統治下の鐵道

なほナチ黨植民地部長リッタア・フォン・エップ博士は

『獨乙は大戰前から、その主權の下にある地域の一切の資源の系統的な開發に着

なほナチ黨植民地部長リッタア・フォン・エップ博士は
『獨乙は大戰前から、その主權の下にある地域の一切の資源の系統的な開發に着手してゐたが、これはその過剩人口の生活維持のために必要であつたし、現にまた必要である。併しヴェルサイユ會議に於て、獨乙植民地は、新植民地の領有を何等必要としない諸國に分配されてしまつた。その上これらの諸國は他に爲すべき事を數々持つてゐたがために、委任統治地域の開發に携はる立場に居なかつた。委任統治地域の開發——原料生産のみならず、その他の事項に關しても——に對しては、氣候的條件が同樣な委任統治地域に隣接する諸國の開發に對してよりも注意の拂はれ方が少かつた。

例へばトーゴーランド及びカメルンとベルギー領コンゴー及びニゲリアとの油性種子及び果實の輸出總額、カメルンとフランス領中央アフリカとの木材、または東領東アフリカ（タンガニイカ）とウガンダ及びケニアとの棉花の輸出總額を夫々比較すると、甚だ示唆に富む結果が出て來る。即ち歐洲諸國の植民地は委任統治下にある地域よりも、一層系統的に開發が行はれてゐる事が明瞭となるので

ある。

また次表によつて明らかな如く、委任統治地域の交通運輸機關の發達は、委任統治制が布かれて以來殆ど停止してしまつた。（單位キロメートル）

既設又は建設中の鐵道

	一九一四年	一九三四年	增加
東アフリカ	二、一七一	二、二二五	四四
西南アフリカ	二、一七八	二、三五七	一七九
カメルン	四四三	五〇四	六一
トーゴーランド	三二七	四四二	一一五

かくの如く委任統治地域の殆どすべての鐵道は、僅々廿年間の獨乙統治時代に建設されたものであり、委任統治國は、その後鐵道擴張のために殆ど何等も爲さなかつたのである』と。

建設されたものであり、委任統治國は、その後鐵道擴張のために殆ど何等も爲さなかつたのである』と。

獨乙舊植民地の經濟的價値

(1) 獨乙植民地主要產物輸出額

歐洲大戰前に於ける獨乙が、その植民地よりの主要生產物の輸出に對して、如何程の額と、その原料品を各國に、又は自國に輸出したかをパオロ・ヂオルダニイは、その著『獨乙植民地帝國』の中に述べて居る。今その統計を引用しよう。

獨乙植民地主要產物輸出額（一九一二年）

○東アフリカ（千馬克單位）

品目	額	品目	額
ゴム	八、四二六	織物纖維類	七、三五九
皮類	四、〇六七	綿	二、一一〇
コーヒー	一、九〇三	コプラ	一、五六三
蜜蠟	八二九	金	五三一

胡麻	五三四	雲丹	四八二
象牙	三六一	バター、ミルクチーズ	二五八
米	二〇一	木材	一四六
樹脂	一三〇		

○カメルーン（單位千馬克）

ゴム	二、四七三	棕櫚種子	四、四〇六
ココア（素材）	三、三八〇	椰子油	一、四一三
木材	六九六	象牙	五三六

○トーゴー（單位千馬克）

棕櫚種子	四、四四二	椰子油	一、六三三
ゴム	九七六	綿	五一五
ココア	二四三	玉蜀黍	二三一

ゴム	九七六	綿	五一五
コヽア	二四三	玉蜀黍	二三一

○西南アフリカ（單位千馬克）

ダイヤモンド	三〇、四一四	銅	六、五三三
鉛	三三八	皮革	二九八
羊毛	一五〇	駝鳥の羽毛	九五

○南太平洋諸島（單位千馬克）

コプラ	一〇、〇八〇	燐酸鑛	四、九九一
コヽア	九一五	鳥の羽毛	四四九
貝殼	一五八	ゴム	二六七
乾海鼠	一〇〇		

『獨乙本國の植民地からの輸入は、本國の輸入總額中の僅かの部分を占めるに過ぎなかつた。だから舊植民地は獨乙の原料難の解決にとつては餘り役に立たない』と云ふ議論がある。

これも二つの重大な事實を忘れてゐる。即ち第一に當時の獨領植民地は未だ經濟的發展の初期にあつたに過ぎず、從つて物產が豐かでなかつた事、第二に當時は獨乙本國はその必要とする物資を到る所で、容易に手に入れる事が出來たので、植民地產物の四〇%しか必要でなく、殘餘の六〇%は他の市場に於て販賣されてゐた事である。

(2) 世界總產額中に占める割合

次に最近に於ける委任統治領土の產出額を世界總產額中に於ける地位を見よう。

○タンガイカに於ては

金　屬　類――金(〇・一%)

織物纖維類――シサール(三三%)、棉花(〇・一%)、羊毛(〇・一%)

柱物性油類――胡麻油(〇・六%)、コプラ(〇・五%)、落花生油(〇・五%)、棉子油(〇・一%)

食糧品類——コーヒー(〇・五%)、バター(〇・一%)

〇英領カメルーン

植物性油類——椰子油(四・五%)、落花生油(〇・四%)、胡麻油(〇・四%

食糧品類——コヽア(〇・六%)

〇英領トーゴー

食糧品類——コヽア(一・九%)

〇西南アフリカ

鑛物類——ヴアナジウム(三三%)、石炭(〇・一%)

食糧品類——バター(〇・四%)

〇佛領カメルーン

食糧品類——コヽア(二・八%)

〇佛領トーゴー

植物性油類――椰子油(〇・六%)、コプラ(〇・一%)
食糧品類――コヽア(一・一%)

○ニューギニヤ

金属類――金(〇・五%)
ゴム――生ゴム(〇・一%)
植物性油類――コプラ(三・七%)

○ナウル

鑛物類――燐酸鑛(四・四%)

○西部サモア

植物性油類――コプラ(〇・七%)
食糧品類――コヽア(〇・二%)

○南太平洋諸島

食糧品類――コヽア(〇・二%)

〇南太平洋諸島

鑛　物　類――燐酸鑛(一・一%)

となつてゐる。(Grover Clark-The Balance Sheets of Imperialism)

即ち舊獨乙植民地の世界總産額中に占める商品の價値は、ナチスの發表による程に顯著なものでない事は云ふ迄もないが、たゞ、シサールとヴアナジウムの如きは、鑛産物入は原料品の少い目下の獨乙に於ては、そのナウルに於ける燐酸鑛等と共に重要性を持つてゐる事は勿論である。

全體的にみて、舊植民地の物産、その經濟的價値は、英國其の他の植民地のそれに比較すると、極めて貧弱なものに過ぎないけれど、一片の植民地も持たぬ獨乙にとつての利用價値は決して輕視する譯に行かぬ。

獨乙が今後十年間植民地を開發すれば?

一九三三年に於ける植民地の輸出總額は、獨乙の輸入する原料及び食糧の三%を

占めるにすぎない。但しこれを以て將來をトする事は出來ない。例へば北ロデシアに於ける鉛の産出の如きは一九二五年―二九年から一九三四までの間に世界産額の〇・一%から一二・三%に增加した。また大戰後九百萬磅の資本がタンガニイカに投下されたのをみても、委任統治地の經濟的潜勢力の侮るべからざる事を知り得る。

舊植民地返還要求論者は、舊植民地を今後十年間も適當に開發に努力すれば、獨乙の食糧及び原料輸入總額の八分の一位は得られると主張してゐる。獨乙の食糧及び原料の輸入總額は年額卅億乃至四十億ライヒスマルクであるが、そのうち約八分の一卽ち四億乃至五億マルクは植民地から得られる見込があるとされてゐる。若しこれが實現すれば、獨乙の國際貸借と爲替は少からず改善されるであらう。

この點に關し、植民地同盟總裁ナチ黨植民地部長リッタア・フォン・エップ博士は次の如く述べてゐる。

『將來に於ける植民地開發の多大の可能性については、從來何等の注意も拂はれ

次の如く述べてゐる。

『將來に於ける植民地開發の多大の可能性については、從來何等の注意も拂はれなかつた。現在の統治者等は、委任統治地域を比較的閑却してゐる點よりみて、我々は將來短期間にその生產量を急速に增加し得ると斷言出來る。各般の事業を充分知悉してゐる專門家等は、若し集約農法を實施すれば、輸出額を八年または十年以內に三十萬磅卽ち三倍に增加し得ると稱してゐる。この事は統治地域が獨乙輸入量の一割二分乃至一割五分を供給し得る事を示してゐる。そうなれば、獨乙の外國爲替と對外貿易關係の困難は著しく緩和され、獨乙は經濟的安全感を持ち得るに至るであらう事が明らかである』と。

植民地が返還されるならば、獨乙は食糧及び原料を植民地から買ふために、從來より高い價格を支拂ふ樣になるだらうと云ふ見方がある。併しそれは當たらない見方だ。現在までも獨乙は外貨がないので、外國の統治下の領土から安い物資を買ふ事は出來なかつたのである。そこで或種の商品は國內で生產し、輸入によるよりも高いコストを支拂つてゐたのである。

商品市場としての植民地

出超より入超へ

獨乙本國と舊植民地との間の貿易は、大戰前に比し大戰後は激減してゐるのみならず、輸入超過となつてゐる。

例へば獨乙本國とアフリカ植民地との間の貿易は、一九三五年に於て、舊植民地よりの輸入一千八百八十萬ライヒスマルク、舊植民地への輸出五百六十萬ライヒスマルクで、貿易總額二千四百四十萬ライヒスマルク、入超一千三百廿萬ライヒスマルクとなつてゐる。然るに大戰直前の一九一三年には、舊植民地よりの輸入四千三百廿萬金マルク、舊植民地への輸出五千百萬金マルク、貿易總額九千四百廿萬金マルク、出超七百八十萬金マルクであつた。

百廿萬金マルク、舊植民地への輸出五千百萬金マルク、貿易總額九千四百廿萬金マルク、出超七百八十萬金マルクであつた。

大戰前の一九一三年には可成りの輸出超過であつた事を想起すると、共の變轉の如何に激しいかゞ分ると共に、この貿易關係の推移によつて、植民地返還要求の一根據としてゐる。

商品市場としての意義低下

次に獨乙本國と植民地との貿易額の變遷を比較してみよう。

	輸入	輸出	差引
一九一三年	五三、二六四(金マルク)	五七、一六五(金マルク)	三、九〇一(金マルク) 出超
一九三五年	一九、二七八(ライヒスマルク)	五、八五五(ライヒスマルク)	一三、四二三(ライヒスマルク) 入超

〔註〕 一九三五年は膠州灣を除く。

この內譯は左の通りである。

○東領東アフリカ（タンガニイカ地方）

	輸入	輸出
一九一三年	一四、六〇〇	一六、五〇〇
一九三五年	三、七〇〇	二、四〇〇

○獨領西南アフリカ

	輸入	輸出
一九一三年	七、八〇〇	二〇、九〇〇
一九三五年	五、二〇〇	一、六〇〇

○カメルン

	輸入	輸出
一九一三年	一三、一〇〇	一二、〇〇〇
一九三五年	九、一〇〇	一、四〇〇

○トーゴー

	輸入	輸出
一九一三年	七、七〇〇	二、六〇〇

○トーゴー

一九一三年　七、七〇〇　二、六〇〇

一九三五年　八〇〇　二〇〇

○ニユギニア、マーシャル群島、カロリヤ群島、マリアナ群島、ペリュー群島

一九一三年　七、〇〇〇　一、九〇〇

一九三五年　五〇〇　二〇〇

○サモア群島

一九一三年　三、三〇〇　六〇〇

一九三五年　四八　五

○膠州灣

一九一三年　四五〇　二、六〇〇

以上によつて、獨乙と舊植民地との間の貿易は輸出入共に減少してゐるが、舊植民地よりの輸入の減少よりも、獨乙本國より舊植民地への輸出の減少の方が一層大である。この事は、舊植民地の原料供給地としての價値よりも、市場としての價値

が一層甚しく減少した事を物語るものである。

英獨商品の角逐

また對植民地貿易關係に於いて、主權國が優先權を保持する事も顯著な事實である。

一九三四年の、舊獨乙領植民地の貿易額中現在の委任統治國たる英、佛、白等と舊主權國たる獨乙の占める比率についてみると左の通りである。

左の數字は委任統治地域との英國貿易が、如何に獨乙の犧牲に於て增大したかを示してゐる。

植民地領有國は、その植民地及びその統治する委任統治地の輸入貿易に於て、常に優勢を占めてゐる。それは本國民が植民地及び委任統治地域の行政機關の註文のすべて、又は主要民間會社の註文の大部分を引受けるからである。

に優勢を占めてゐる。それは本國民が植民地及び委任統治地域の行政機關の註文のすべて、又は主要民間會社の註文の大部分を引受けるからである。

○英領タンガニイカ（輸入總額 二、三四三、一八五磅 / 輸出總額 二、八五六、五八九磅）

	輸入	輸出
英本國	二七、六％	二〇、五％
英國屬領	一九、七％	三六、四％
日本	二二、三％	二、二％
獨乙	九、八％	一一、七％

○英領カメルン（輸入總額 一一三、〇一三磅 / 輸出總額 一九三、三二二磅）

	輸入	輸出
英本國	一九、五％	六、二％
印度	七、五％	一〇、〇％
獨乙	四二、五％	七九、八％

○佛領カメルン（輸入總額 五八、七一三、〇〇〇佛フラン / 輸出總額 七二、五二八、〇〇〇佛フラン）

	輸入	輸出
佛蘭西	二五、八％	五二、二％

佛國屬領	九、六%	—
英本國	一七、〇%	三、五%
北米合衆國	一二、一%	四、二%
和蘭	—	一六、八%
獨乙	七、七%	一二、六%

○佛領トーゴー（輸入總額三二、二〇〇、〇〇〇佛フラン
輸出總額二八、〇六一、五〇〇佛フラン）

佛蘭西	一五、一%	四七、〇%
英本國	三九、〇%	八、〇%
北米合衆國	九、一%	五、一%
獨乙	五、九%	二三、二%

○英領トーゴー（輸入總額一四、四八〇磅
輸出總額七八、一四三磅）

外國貿易額少量のため内譯省略

○白領ルアンダ、ウルンディ（輸入總額二六、六一〇、二九一白フラン　輸出總額二三、八三四、七四五白フラン）

	輸入	輸出
白耳義	一八、五％	九三、四％
日本	三四、五％	—
タンガニカ及びウガンダ地方	一〇、五％	六、二％
英本國	九、〇％	—
獨乙	六、六％	—

かくて英領カメルンの例を除いて、各領域に於て委任統治國の利益が獨乙以上に確保される事實を知り得る。英領カメルンの輸出額に於ける獨乙の優位は、同地の生產物護謨及び棕梠油への特に多量なる需要に基くものであらう。

貿易は國旗に從ふ

大戰前の一九一二年に於て、東アフリカの獨乙植民地タンガニカの輸入の五一、三％は獨乙本國からの供給であつたが、一九二八年には一二、三％に減じ、更に一九三

五年には一〇、七%に減じた。英帝國よりの輸入が最も多く四六、三%を占め、そのうち英本國よりの輸入は二九%を下らない。同様な傾向は他の植民地に於ても見られる。

一九三四年に於ける西南アフリカ（現在は南阿聯邦の委任統治地）の獨乙本國よりの輸入は一一六、五八二磅であるが、南阿聯邦よりの輸入は七七一、八七一磅の多額に達してゐる。一九三五年には西南アフリカの輸入の七四%は南阿聯邦の占める所となつた。ところが一九一三年には西南アフリカの輸入の八一%は獨乙本國の占める所であつたのだ。

更に右と同様な割合が他の舊植民地に於てもみられる。例へば、ニューギニヤ（現在は濠洲の委任統治下にある）の輸入の四一%は委任統治國が占め、一二%は英本國が占め、獨乙は僅に六%を占めるに過ぎない。

蓋し『貿易は國旗に從ふ』と云ふ事は今や常識的な原則である。滔々として全世

界にはびてる國家主義經濟時代に、その本國製品の輸出の增加を圖るには、植民地を獲得する以外に途はない。

海外領土に於ては假令、關稅自由、門戶開放等の原則が適用されても、植民地の鐵道敷設、產業施設、交通建設材料の大量注文は、先づ優先的に共の本國に向けられる。此の事は亦本國の資本輸出活動と關聯して極めて重要なのであるが、共れ以外にも、輸出品製造による本國の勞働市場の緩和、或は海運業の隆盛に役立つものとみられる。

殊に獨乙の場合には、對外輸出を通じて取得する收入が、必要原料購買資金の重要構成部分を成す實情よりして、製品販路としての植民地の必要は、一段と强いものがあると云ふ。（加田氏、現代の植民政策三一七頁）

獨逸貿易の安全辨

大植民地領有國が、獨乙の植民地返還要求を拒絶する口實として屢々『植民地領有は、これを領有する國にとつて負擔となるであらう』と主張してゐるが、リッタア・フォン・エップ博士は次の如く駁撃してゐる。大英帝國の輸入貿易に於て植民地の占める割合は、最近十二年間に三割一分から四割二分に著増したのに對し、輸出貿易に於て占める割合は四割一分から四割九分への微増である。

同様の傾向はフランスに就いても見られ、フランス本國の輸入貿易に於て植民地の占める割合は、最近十年の間に一割から二割六分に増大したのに對し、輸出貿易に於ける割合は一割四分から三割二分に増加した。たとへこれらの事實を無視するにしても、植民地は無價値であるとの言を屢々耳にするのは、奇異な感じを催させる。若し果して植民地が無價値であるとすれば、獨乙へ植民地を返還する事は委任統治國にとつて單に犠牲でないのみならず、救濟をすら意味する筈である。

英國の植民地問題の論者は、屢々右の如き意見を發表して居るのが、獨乙にとつ

統治國にとつて單に犧牲でないのみならず、救濟をすら意味する筈である。
英國の植民地問題の論者は、屢々右の如き意見を發表して居るのが、獨乙にとつ

ては興味深く注視されてゐる。

上述の事からして、植民地問題は單なる原料問題でない事が明らかであらう。獨乙は舊植民地を回復しなければ、その貿易を發展せしめる事は不可能である。獨乙の外國爲替の諸事情からみて最も重要な點は、獨乙は、その通貨が流通しその主權に從屬する地域から、外國爲替で支拂はれてゐる原料及び食料の大部分を取得する必要に迫られてゐると云ふ事である。かくの如き方法による外、獨乙の貿易は、獨乙の經濟の安全と安定とに絕對に必要な手段、卽ち外國爲替を獲得する事は不可能である。關稅の引下げや貿易制限の撤廢は、多くの點で望ましいとは云へ、獨乙の必要を滿足せしめるには不充分である。……』とし、從つて獨乙は先づ第一に英國に對して、植民地返還要求を爲す。何故なら、英國こそ獨乙植民地橫奪の際に主要な役割を演じた國であると共に、橫奪された植民地の大部分が大英帝國を構成する諸國によつて統治されてゐるからであると云ふ。

移住地としての植民地

世界の人口密度

本國の過剰人口の捌口として植民地の意義が重要視される。かゝる主張は獨乙に限らず所謂『持たざる國』の一様に主張する所であり、而してその議論の根據は、各國の人口密度の相違である。いま各國の人口密度をみるに左の通りである。

	一平方粁當り密度	調査年度
英本國	一九二	一九三四
佛蘭西	七六	一九三四
白耳義	二七〇	一九三四

佛蘭西	七六	一九三四
白耳義	二七〇	一九三四
和蘭	二四六	一九三四
ソ聯	八	一九三三
北米合衆國	一六	一九三〇
獨乙(ザール除外)	一三九	一九三三
伊太利	一三七	一九三四
波蘭	八六	一九三四
日本	一八一	一九三五

前表によると、白、和、英、日は獨乙よりも高度の人口密度を示し、伊太利は獨乙と略々均しい。而も日、伊を除いては何れも本國面積の數十倍に相當する大なる植民地を持ち、英國の一四二倍を筆頭に、白耳義八一倍、和蘭六〇倍、佛蘭西二四倍と計算されてゐる。

更に日獨伊の三國は年々人口が激増して行く。一九三五年に日本百二萬人、獨乙

四十七萬人、伊太利四十萬人の增加となつてゐる。
以上の觀點より一片の植民地をも領有しない獨乙が、その人口の捌口として植民地の返還要求をなすのは當然であると說かれる。

人口捌口としての植民地は無價値か

獨乙の此の主張に對しては、主として英米側の論者より批判が與へられてゐる。それは歷史的にみて、植民地が過剩人口の收容に對して、殆ど役割を演じなかつた事を指摘するもので、その代表的な見解は米國のグロヴァア・クラークの著作にみられる。

獨乙の舊植民地は、獨乙人の移住には、餘り役に立たなかつた事は確實である。舊植民地に獨乙人の多數が農業移民其の他の移民として永住する事は拋棄されてゐた。確に熱帶地方は白人の居住には適しない所が多い。併し獨乙の舊植民地たる西

舊植民地に獨乙人の多數が農業移民其の他の移民として永住する事は拋棄されてゐた。確に熱帶地方は白人の居住には適しない所が多い。併し獨乙の舊植民地たる西南アフリカやタンガニカやカメルンの高地々方は白人の永住に不適ではない。また科學の力によつて熱帶病を克服する事も可能である。

此の事はパナマ運河地帶に於て成功した例がある。

『熱帶地方でも植民地を領有すれば、農業移民は見込なしとするも、貿易、工業、行政等に從事する人間の就職の機會は明らかである。殊に土民と協力して產業を開發せんがために、國家的計畫の下に組織的な統制的移民をなすならば、かなりの成績はあがるであらうと。』（阿部氏、人口資源、植民地、一六一頁）

狙ひは精神的效果

獨乙の場合に於ては、自國の植民地への移民は、特に青年にとつて重要である。頑健で雄心勃々たる青年が、自國の海外領土に於て、働けると云ふ事は、青年に大なる希望を與へるものである。青年に希望なき事は、有てる國に對する爆發の前徵

である。

更に現在約三千萬人の獨乙人が諸外國に出てゐるが、彼等は彼等の子孫がやがて獨乙の國籍を喪失してしまふ事を心配してゐる。若し獨乙が自國の植民地を領有すれば、かゝる心配は可成り緩和される筈。

更に植民地は、直接に移民として本國の人口を收容するのみでなく、植民地への輸出品の生産並に販賣の仕事を通じて本國人に就職の機會を多くしてゐる。獨乙に於ては對外投資のための物資の生産や舊植民地への輸出品の生産によつて、職を得てゐる者は五十萬人に達すると推算されてゐる。獨乙の植民地への直接の移民は少數であつたが、植民地への輸出品生産に從事する事によつて、本國の勞働市場の壓迫は少からず緩和されてゐたのである。

投資地としての植民地

十九世紀末葉以來、列强國に於ける植民活動の最も基本的な經濟的要求は、母國に於ける過剩資本の輸出にあつた。植民地乃至半植民地に於て、その低廉な勞働賃銀や安價な原料及び土地等を基礎として確保せられる所謂植民地的高利潤を目指して、列强國の對外投資活動の角逐は極めて活潑であつた。

これに加ふるに、これら領域に對する資本の輸出は、原料資源の獲得、或は商品販路の擴大と常に密接に結びついてゐる點で、其の經濟的意義は一層大なるものがある。

若し資本輸出が植民地乃至半植民地への借款の形で行はれる場合には、屢々その附帶條件として母國製品の購入を强要する。例へば軍事借款ならば殆ど例外なく共

の材料の購入が條件となつてゐる。

次に資本輸出が産業資本或は金融資本の形に於て植民地に於ける直接事業經營や植民地企業への金融的參與に向けられる場合には、極めて通則的に、植民地原料生産事業の獨占的經營が企てられ、また植民地企業の金融的支配權が握られる。

大戰後現在に至る迄の列强國の投資活動中最も著しいのは北米合衆國の進出である。

現在英米佛は世界の三大投資國である。これに反し、第一次歐洲大戰後の獨乙は今迄のところ、其の對外投資は少額である。然し第一次世界戰前には十億金磅を越える對外投資があつたのだが、それもペンの一走りでその正當な所有者から奪ひ去つたのだ思へば殘念な話だ。

食糧不足とその對策

自給率は八二%

獨乙は鑛物資源の惱みと共に、食糧資源にも不足を感じてゐる。卽ち一九三七年に於ける食糧自給率は八二%である。歐洲大戰當時に於けるそれは八〇%見當であつたから、當時に比較すると同給率は僅かながら高まつてゐる。然し食糧を完全に自給し得ない狀態にある事は、歐洲大戰の場合に於けると同樣に將來戰に於ても獨乙の致命傷となる危險があると心配されてゐた。

獨乙の食糧自給に關する統計は、第一表の如くで、植物性脂肪に於ては僅かに六%、動物性食糧に於ては七四%、植物性食糧は九三%しか自給し得ない。

植物性食糧は、自給の域に近いが、それでも年々四百十萬瓩見當の穀物を輸入しなければならない。

そこで政府は巨額の資金を投じて耕地の開拓と改良を行ひ、耕地面積は一九三三ー四耕作年度から一九三七ー八年度の間に五十三萬六千ヘクタールを増加した。なほ同一期間に、飛行場、道路、建物共の他軍備再建に必要な地面が六十五萬ヘクタールを増加した事は注目すべき現象である。

増産奬勵策

政府は肥料の强制的値下を行つて肥料消費の増加を圖つた。肥料消費は一九二八ー九年度の百七十二萬九千瓩に對して一九三七ー八年度には二百四十七萬九千瓩に増加した。

次に勞働力不足を補ふために農業の機械化が一層促進され、農業機械器具の新規購入は一九三二ー三年度の一億三千八百萬マルクから一九三七ー八年度には四億四

次に勞働力不足を補ふために農業の機械化が一層促進され、農業機械器具の新規購入は一九三二—三年度の一億三千八百萬マルクから一九三七—八年度には四億四千三百萬マルクに增加した。

こうした農產物の增產奬勵にも拘はらず、一九三六年には天候の影響による不作のためにライ麥（黑パン用原料）の飼料への使用を禁じ、また玉蜀黍及び馬鈴薯の粉をパンに混ぜる事が必要になつたし、一九三七年及び一九三八年にも例へば小麥の輸入百廿二萬瓲及び百廿八萬瓲を行はねばならなかつた。

農產物增產の前途も亦樂觀を許さない。その理由としては、耕地面積の增大が困難なこと、單位當り收穫の向上が限度に近づきつゝあるのに加へて、農業勞働者が不足してゐる事である。

農業省大臣の報告によれば一九三三年から一九三八年の間に七十萬人の農業勞働者が工業及び商業に轉じたゝめ、その補充として、伊太利及びポーランドから季節的勞働者を輸入せねばならなかつた、その數は、一九三七年に十二萬人に上つてゐる。

ウクライナの食糧庫

その上、オーストリアの合併は食糧自給の上に於てマイナスとなつた。卽ちオーストリアの食糧自給率は、獨乙の八二%に對して七三乃至七四%糧に過ぎない。またズデーテン獨乙地方の食糧自給率は更に低い。

然しボヘミヤ及びモラビヤを保護國化したことは、農產物供給について獨乙の役に立つ。その譯は、ボヘミヤ及びモラビヤの人口一人當り穀物收穫量は舊獨乙のそれに比較して可成り高いからである。

併し、新に獨立したスロヴアキヤは農產物に於て貧弱である。舊チエッコスロヴアキヤは一九三七年に穀物及び穀粉を卅五萬二千瓲輸出してゐたから結局、獨乙はこの程度の食糧供給力を增大し得る譯だが、然しそれだけでは自給出來ない。

矢張り、ルーマニアを始め東歐諸國と提携し、或はウクライナを支配下に置くの

矢張り、ルーマニアを始め東歐諸國と提携し、或はウクライナを支配下に置くのでなければ、戰時に於ける食糧供給に苦しまねばならない。

ルーマニア、舊チエッコスロヴアキヤ、ハンガリー、ブルガリア、ギリシヤ等の穀物輸出量合計は一ヶ年四百萬瓲を超へるから、これらの國の穀物輸出を全部獨乙が獨占するならば、獨乙の穀物自給は達成出來る譯だ。

第一表　獨乙の食糧自給狀態

（食料品消費に對する國產食糧の需給%）

	食糧全體	植物性食糧	動物性食糧（輸入原料による國產品を含む）	動物性食糧（輸入原料による國產品を除く）	動物性食用脂肪
一九二九年	七三	九一	八二	五七	一
一九三二年	七五	九六	八二	五八	〇
一九三三年	八一	一〇〇	八五	六七	一

一九三四年	八〇	九五	八八	七二	二
一九三五年	八四	九八	八六	七五	五
一九三六年	八一	九二	八六	七六	六
一九三七年	八二	九三	八七	七四	六

主要原料品自給率（一九三四年頃）

主要原料品の中、石炭は一九三四年には全歐洲の四五、三七%の中、英國が二〇、四六%を占め、獨乙は一一、三九%で第二位を占め、鐵鑛は一九三三年に於て、全歐洲の產額が五五、〇五%の中、佛國は三二、九八%であるのに對し、獨乙は僅に二、八三%のみである。

棉花は全部米國、印度、エヂプト等にその供給を仰ぐ狀態である。

ゴムは、一九三四年には、全世界產額の五七、八%を占める英植民地よりの輸入に俟たねばならず、銅は一九三三年には全歐洲の產額一四、三二%に對して二八、一%で海外よりの輸入によらねばならぬ。

俟たねばならず、銅は一九三三年には全歐洲の產額一四、三二%に對して二八、一%

で海外よりの輸入によらねばならぬ。

アルミニウーム鑛は一九三四年に於て、全歐洲の產額六二、三八%の中、獨乙は二二、〇四%を占めてゐる。

ニツケル鑛はカナダに獨占され、石油は米國の獨占下にその產出原油の輸入を爲しつゝある實狀である。

かくて、獨乙舊植民地に於けるその經濟的價値が單に原料品の獲得に對して、充分なる滿足を與へてゐない事は明瞭であるが、更に最近の數字によつて、原料資源自給程度を檢討してみよう。

まづ鐵から見よう。一九三七年に於て獨乙は鐵鑛石及びマンガン鑛二千七百八十萬瓲を消費したが、これに對し國產鐵鑛石は九百八十萬瓲に過ぎないから、殘りは輸入によつて賄はれた譯である。即ち同年に於ける鐵鑛石輸入は二千六百十萬瓲である。(第二表參照)

歐洲戰前の一九一三年には獨乙帝國は二千八百六十萬瓲の鐵鑛石生産を行つてゐた。

これだけの鐵鑛石があれば、今日の獨乙の鐵鑛石需要は自給出來る譯だが、アルサス・ローレンを失つたゝめに、現在までは右の様な大量の輸入をしなければならぬのである。

次に鐵鑛石の輸入先は、一九三六年には一千八百五十萬瓲輸入したがスエーデン・フランスが主で、スエーデンは八百二十萬瓲、フランスは六百八十萬瓲を占めてゐる。（第三表參照）

戰時に於ける佛國からの鐵鑛石輸入杜絶が獨乙の鐵鑛業に、更に軍需品生産に如何なる打撃を與へるかは明瞭である。

第二表　獨乙の銑鐵と鐵鑛石（單位千瓲）

	一九三六年	一九三七年	一九三八年
銑鐵生産	一五、三〇〇	一五、六三〇	一七、六八〇

	一九三六年	一九三七年	一九三八年
銑鐵生産	一五、三〇〇	一五、六三〇	一七、六八〇
銑鐵（故屑鐵を含む）純輸入	一六〇	六四〇	一、五三〇
鐵鑛石純輸入	一八、四六〇	二〇、六一〇	二一、九二〇
鐵及び鐵マンガン鑛消費	二六、四一〇	二七、七九〇	―

〔備考〕一九三七年及び一九三八年の銑鐵生産にはオーストリア及びズデーテンドイツを含まず。

これを含めると、一九三七年は一五、九六百萬瓲、一九三八年は一八、五一百萬瓲となる。

第三表　鐵鑛石の國別輸入額（一九三六年單位千瓲）

スエーデン	八、二四八
佛國	六、八六〇
スペイン	一、〇六六

ベルギー、ルクセンブルグ	五六六
アルヂエリア	五三一
ノルウエー	五二七
ギリシヤ	一八二
英領アメリカ	一七一
英領西アフリカ	一六五
合計	一八、四六九

歐洲移民中獨乙人の占める割合（%）

一八八五年迄は獨乙人は大量に移民し、歐洲諸國民中移民の多い事に於ては英國に次いで第二位であつた。即ち左の通りである。

年次	英國人	獨乙人	伊太利人
一八五一―一八六〇年	六四・五	二・三二	―
一八六一―一八七〇年	五六・五	二一・八	四・五
一八七一―一八八〇年	五一・一	一八・六	八・二
一八八一―一八九〇年	三五・〇	一八・七	一三・二
一八九一―一九〇〇年	二六・一	七・五	二四・〇
一九〇一―一九一〇年	二三・一	二・三	二九・七

一九一一—一九一五年　　二六・七　　一・二　　二三・二

然し一八八五年以降は政府の政策、例へばビスマルク時代のプロシャに於けるポーランド地方への植民法により海外移民は激減した。

十九世紀の末以降、獨乙の總人口は毎年七、八十萬人宛増加したが、この激増せる人口は本國の工業化によつて、よく吸收されたのであつた。

獨乙の工業化とその製品輸出の如何に旺盛であつたかは、獨乙製品が大戰前世界市場を風靡した事によつて知る事が出來る。

では毎年七、八十萬人宛増加せる人口の中どれ位が移出民としてさばけたかとみるに、一八四六—一九三二年の八十六年間に獨乙の移出民は四百八十八萬九千人であつた。この同一期間に人口は三千四百六十一萬六千人から六千五百七十一萬六千人にと三千百十一萬人増加したから、増加人口の六分の一が移出民になり、殘りの六分の五は國内に殘つた譯である。

では次にこの移民の移民先はどこかとみるに、大部分はアメリカへ渡つたのであ

六分の五は國內に殘つた譯である。

では次にこの移民の移民先はどこかとみるに、大部分はアメリカへ渡つたのである。

獨乙の植民地へ定住したものは極く少數であつた。勿論獨乙の植民地は、白人の居住に不適當だと云ふのではないが、大戰前に於て獨乙の全植民地に於ける獨乙人は約二萬人に過ぎなかつた。

その內譯は左の通り

世界大戰前の獨領植民地に於ける在留獨乙人

地名	人數(單位人)
トーゴー	三二七
獨領東印度	三、一一三
カメルーン	一、一一一
西南アフリカ	一一、一四〇

膠州灣	三、八〇六
太平洋諸島	一、五一一

大戰前の獨逸植民地

一九二〇年迄は、獨乙はアフリカ大陸及び南太平洋に本國の六倍に相當する植民地を有してゐた。その總面積は百十四萬平方哩に上り、その人口は土着民を加へて約一千四百萬人の多きに達してゐた。その内譯は左の通りである。

世界大戰直前の獨領植民地の面積及び人口

	面積(平方哩)	總人口(單位千人)	歐洲人	獨乙人
獨領東アフリカ	三八四、〇〇〇	七、七五〇	五、三〇〇	四、一〇〇
獨領西南アフリカ	三二二、〇〇〇	二六〇	一四、八〇〇	一二、三〇〇
カメルン	三〇五、〇〇〇	三、八五〇	一、八七一	一、六五〇
トーゴー	三四、〇〇〇	一、〇〇〇	三七〇	三一〇

カメルン	三〇五、〇〇〇	三、八五〇	一、八七一	一、六五〇
トーゴー	三四、〇〇〇	一、〇〇〇	三七〇	三二〇
アフリカ合計	一、〇四五、〇〇〇	一三、八六〇	三三、三四一	一八、三七〇
獨領サモア	一、〇〇〇	四、〇〇〇	五五〇	三三〇
膠州灣租借○	二〇〇	一九〇	四、五〇〇	一四、三〇〇
獨領ニューギニア ビスマルク群島	九三、〇〇〇	六〇〇	九七〇	七五〇
マーシャル群島 マリアナ群島 カロリン群島	一、〇〇〇	六〇〇	四六〇	二六〇

世界大戰直前の數年間に、獨乙の植民地は著しい發展を遂げた。卽ち本國との貿易額は急速に增加し、一九一三年には一億一千萬ライヒスマルクに達した。本國以外の國々への輸出も增加した。

本國からの植民地開發費も年々減少する事が出來た。一九一三年―一四年の合計年度には、植民地補助額は三千二百萬ライヒスマルクに達しなかつた。卽ち當時既に獨乙植民地は殆ど自活し得る狀態に達してゐた譯だ。

世界貿易に於ける英獨の競爭

世界貿易に於ける英獨の對立は嘗ては、一九一四年の世界大戰を惹起した。今や貿易上に於ける英獨の對立が激化の一路を辿りつゝある。

一九二九年、一九三二年及び一九三七年の三年を選んで、比較してみよう。一九二九年を選んだのは、この年が國際貿易の最高頂に達した年だからであり、一九三二年は反對に最も沈滯した年であり、且つナチス獨乙出現の前年に當つてゐるからである。

西歐に於ける兩國

西歐の大多數の國々に於ける獨乙の貿易收入は僅少であつた。一九三七年に一九

三七年に於けるフランス、ベルギー、オランダ及びスイスの輸入に於て、獨乙の占める割合は一九二九年、三二年の何れよりも減少した。

獨乙の輸入も亦、右の諸國の輸出に於いて獨乙の占める割合が、或る場合には一九三二年よりも寧ろ増加してゐるのを除けば、同様に減少してゐる。

次に英國だが、これら四ヶ國の貿易に於いて英國の占める割合も一九二九年よりは減少してゐるが、一九三二年よりも増加してゐるところもある。だが、ポルトガルに於てはポルトガルの輸入に於いて英國の占める割合は著しく減少した。ポルトガルを除けば西歐に於ける英國と獨乙の成績は甚だ類似してゐる。

北歐では英國が優位

北歐に於ては英國が有利であつて、獨乙には不利であつた。即ちフィンランドの輸入に於て英國の占める割合は一三・〇%から二二・二%に増加したのに反し、獨乙の占める割合は三八・三%から二〇・三%に減少した。同様の傾向は北歐のすべての

輸入に於て英國の占める割合は一三・〇%から二一・二%に增加したのに反し、獨乙の占める割合は三八・三%から二〇・三%に減少した。同樣の傾向は北歐のすべての國についてみる事が出來るのだ。

これらの國々から獨乙への輸出は、輸入ほど著しい減少を示さなかつた。スエーデン、ノールウエー、ラトヴイア及びエストニアにあつては、獨乙への輸出が、輸出總額の中に占める割合は一九二九年よりも增加してゐる。

一般的にみて、北歐では英國式貿易方法が獨乙式のこれよりも大きな成功を收めてゐる事が判かる。

中歐及び東南歐

中歐及び東南歐は獨乙が最も華々しい成功を收めた舞臺である。この地方に屬する八ヶ國の中、チエッコスロヴアキヤを除く他のすべての國々は、その輸入貿易に於て獨乙の占める割合が大いに增加してゐる。

これらの増加の中、或るものには目覺ましいものがある。例へばトルコの獨乙からの輸入は、一九二九年に於ては總輸入額の一七・五だつたものが、一九三七年には四三・七%に增加してゐる。だがダニーブ及びバルカン諸國への輸出の增加は一般的には英國を犧牲にして行はれたものではない。

イタリア、トルコ、ギリシヤ及びブルガリアの輸入に於て英國の占める割合は減少したが、しかし他の四ケ國に於ては增加してゐる。

一般的に獨乙の占める割合は增加しつゝあるが、しかしルーマニア、ハンガリー及びチエッコスロヴアキアは其の例外をなしてゐる。チエッコスロヴアキヤ、ユーゴスラヴイア(特に顯著)ブルガリア、ルーマニア及びハンガリーからの英國への輸出は增加してゐるが、其の他の國々からの輸出は減少してゐる。

英國自治領

こゝの數字を見ると、其の輸出に於ては、元來英國への輸出が大部分を占めてゐ

こゝの數字を見ると、其の輸出に於ては、元來英國への輸出が大部分を占めてゐるのであるが、一般的に可成りの增加を示して居り、輸入に於ては、其等の市場に於いて英國の地位が少くとも維持されてゐる事を示してゐる。但しこれには例外がある。それはアイレである。更に印度の市場に於て英國の占める割合が低下してゐる事も注目に値する。

そして印度はまた、このグループの中で、獨乙からの輸入が著增してゐる事を示す唯一の國でもある。

英國植民地に於ける狀態は、自治領に於けるそれと甚だ類似してゐる。植民地の輸入に於いて獨乙の占める割合は何處でも甚だ少い。そして殆どすべての所で一九二九年よりも減少してゐる。

ナイヂエリア及びゴールドコストは獨乙と多額な貿易をやつてゐる主な植民地であつて、輸出が主となつてゐる。獨乙は一九二九年に於ては、ナイヂエリアの輸出

の一九・五%ゴールドコストの輸出の一八%を占めてゐたが一九三六年には、ナイヂエリアの輸出の二三%ゴールドコストの一八%を占めるに至つた。

植民地の貿易に於て英國の占める割合は何處でも大きいが、しかし一般に一九二九年以後増加してゐない。

チェッコスロヴァキアの崩壊

ボヘミアこそ歐洲心臟部に於ける神の選んだ天然の要塞であり、それを獲得せる者は歐羅巴の王者である。——ビスマーク

コマルノ會議

一九三八年のズデーテン問題の解決と並んでハンガリーはスロブアキヤの一部及びルテニア全部の割讓を要求した。これは同年十月九日から開かれたコマルノ會議に於て折衝されたが、十四日に至つて會議は決裂し、文字通りコマルノ會議はコマル問題にぶつかつたが、獨伊の調停によつて、その七割が承認され、またポーランドのテッシエン地方割讓の要求は、これまた幾多の波瀾曲折を經て、十一月廿七日

新國境の確定を見るに至つた。

かくて國境の整理を終るや、スロヴアキヤには十一月七日、スロヴアキア人民黨副總理チンを首班とする自治政府が樹立され、またルテンアには同月九日、ルテニア人代表によつてブロディ自治政府が組織され、この兩地方に軍事、外交及び經濟を除く廣汎な自治が與へられたのであつた。

スロヴアキヤの獨立運動

然るにスロヴアキア自治政府は、共産黨を彈壓し、反ユダヤ人政策を行ひ、獨乙民族とハンガリー民族に對する優遇政策を行ひ、チエッコ政府に對して、獨立軍隊の保持、外務經濟等の共通官廳に對するスロヴアキア人の比率任用、モラヴイア東南

保持、外務經濟等の共通官廳に對するスロヴアキア人の比率任用、モラヴイア東南地方をスロヴアキア領に編入する事を要求する等强硬な獨立政策を進めた。

またルテニアに於ても、ブロディ首相、フエンチック經濟相等はハンガリーとの合併を畫策し、フエンチック・フアシスト戰線が組織され、活潑なハンガリーへの合併運動が展開された。

かようなスロヴアキヤ及びルテニアに於ける分離運動に對して、チエッコ政府は極力これを抑へるために、ルテニアのブロディ首相、フエンチック經濟相等を賣國奴として追訴した。

一九三九年三月十日、チエッコ政府は、スロヴアキヤのチソ内閣が、獨乙の保護の下に、スロヴアキヤの獨立を企てた事を理由として、チソ首相以下四人の閣僚を罷免し、チエッコ派のシヴアク文相を臨時首相に任命すると共に、首都ブラチスラヴアを初め各主要都市に戒嚴令を布き、分離獨立派に大彈壓を加へた。こゝに於て忽

ち獨立派、獨乙人諸團體に激烈な反對が起り、各地に於て、チエッコ兵との衝突が勃發し、事態は極度に險惡となつた。

これに驚いたチエッコ政府は、ベラン内閣に副總理としてスロヴアキアを代表してゐるスロヴアキア國民議會議長のシドールを首班とする新内閣を任命して事態の緩和を計らうとしたが、時既に遲く、ウキーンに逃れたチソ首相は、三月十三日、ベルリンに於てヒツラーと會見して重要協議をとげ、直ちにブラチスラヴアに歸るや、十四日、國民議會は俄然スロヴアキアの獨立宣言を可決し、チソを大統領に推して新政府を樹立し、ヒツラーに對して援助を要請した。

チエッコの運命はヒツトラーの手に

右の要請を受けたヒツトラーは、即時、陸空軍を動員してチエッコ進駐の態勢を整へた。

整へた。

こゝに於て翌十五日、チエッコのハーハ大統領は、フウアルコウスキー外相を帶同してベルリンに急行し、ヒットラー總統並にリッペントロップ外相と協議の結果、チエッコ共和國の運命を獨乙に托する旨の共同宣言が發表され、ヒットラーの命令一下、待機中の獨乙陸空軍の精鋭は、直ちに國境を越えて進軍し、スロヴァキアの首都ブラチスラヴア及びチエッコの首都プラハを始め各要地を占領した。

また一方、ハンガリー政府はチエッコ政府に對して、一九三九年三月十四日午後四時、十二時間を期限とした最後通牒を送つて、ルテニア地方から廿四時間以内にチエッコ軍を撤退する事、ハンガー自衞團への武器引渡し、ハンガリー人に對する壓迫の中止及びハンガリー人の財産の保護を要求した。

同時に動員を命じ、十五日に至つて、ルテニア自治政府が獨立の宣言を發するや、直ちにハンガリー軍は進軍を開始し、チエッコ軍と戰爭しつゝ各地を占領し、十六日にはポーランドとの國境に達し、また首都フストに進駐し、こゝに全ルテニアを完

全に占領した。

かくて三月十五日、ボヘミヤ及びモラヴィア全土に亙る獨乙軍の進駐が完了するや、ヒットラーはリッペントロップ外相及びカイテル國防相以下を從へ、折からの吹雪をついて新領土の首都プラハに堂々と劇的な入城を行つた。

かくの如き、雷光石火、一夜にしてチエッコをその手に收めた獨乙外交の鮮やかな手際に對しては、英佛を初め、全歐洲諸國は呆然たる態で『鳩が豆鐵砲くつた』とは文字通りこの時の事であらう。

なほ一九三八年のズデーテン地方と併せて獨乙の勢力下に歸したボヘミア、モラヴィア及びスロヴァキア並にハンガリー軍の占領したルテニア地方の廣さと人口とをあげると、左の通りである。

	面積(平方粁)	人口(千人)
ボヘミヤ	五二、〇〇〇	七、一〇九
モラヴィア(シレシアを含む)	二六、〇〇〇	三、五六五

ボヘミヤ	五二、〇〇〇	七、一〇九
モラヴィア（シレシアを含む）	二六、〇〇〇	三、五六五
スロヴアキア	四九、〇〇〇	三、三二九
ルテ・ニア	一二、〇〇〇	七二五

右の中チエッコ人は、ボヘミヤ及びモラヴィアに於て約八百萬人、スロヴアキア人はスロヴアキアに於て約二百萬人、ルテニア人はルテニアに於て約五十萬人である。

チエッコスロヴアキア廿年の歴史を顧る

チエッコ人もスロヴアキア人も、またルテニア人も共にスラブ民族に屬する民族だが、チエッコ人の住むボヘミヤ及びモラヴィアはオーストリーに、またスロヴアキア及びルテニアはハンガリーに支配されてゐたのであるが、チエッコ人及びスロヴアキア人は、既に久しい昔から獨立運動を行つてゐたのであつた。

歐洲大戰が勃發するや、獨立運動は英佛の支持によつて勢ひを得、一九一六年パリーにチエッコスロヴアキア國民評議會が設立され、一九一八年九月廿六日には臨時政府と改稱され、十月十八日、ワシントンに於て、チエッコスロヴアキア共和國の獨立が宣言され、こゝに兩民族の新共和國が生れたのであつた。

この獨立運動の指導者が、初代の大統領であつたマサリック博士及び一九一八年のズデーテン問題で引退したベネシユ前大統領である。

ピッツバーク協定

ワシントンに於て共和國獨立が宣言されるに先立つて、ピッツバーグに於て、マサリックは、チエッコ及びスロヴアキア兩民族の代表者と會見して、將來ボヘミヤ、モラヴイア及びスロヴアキア地方を合して、チエッコスロヴアキア共和國を建設する事及びスロヴアキアに對して、その固有の政府、議會、裁判所を持たせる事の二大原則を約束したのであつた。

かくて大戰の結果として、ヴエルサイユ條約により新國境が確定され、オースト

大原則を約束したのであつた。

かくて大戰の結果として、ヴェルサイユ條約により新國境が確定され、オーストリアからボヘミヤ、モラヴイア及びシレシアを、ハンガリーからはスロヴアキア及びルテニアを一部割讓させて、こゝにチエッコスロヴアキア國の完成をみたのである。

殊にルテニア地方は、一九一九年九月の聯合國とチエッコとの條約によつて、チエッコスロヴアキア共和國の統一に支障のない限り最も廣汎な自治權を持つところの一自治體とする事及び自治議會を持つ事を保障されてゐたのであつた。

因にルテニアはカルパート・ロシア或はカルパート・ウクライナと呼ばれ、ルテニア人はウクライナ民族である。

崩壞の悲劇の原因

しかるに、共和國が完成し、マサリック博士が大統領に選ばれ、新政府が組織されたが、スロヴアキアにも、ルテニアにも自治は與へられなかつた。

こゝに於て、スロヴアキアに於ては、スロヴアキア國民黨を中心とするピッツバーグ協定の履行を要求する運動が起り、ルテニアに於ても反チエッコの氣勢がたかまつた。

しかもチエッコ政府は一九二〇年に、地方行政制度の改革を行ひ、スロヴアキア及びルテニアを更に小地域の縣に分割して、反チエッコ派の勢力を弱めようと企てたのであつた。

ピッツバーグ協定は、マサリック大統領が署名したものであるにも拘らず、チエッコ政府が、これを新憲法制定以前の地方的協定であるとしてこれを無視し、またルテニアに關する事は條約によつて保障され、新憲法に於ても規定してゐるに拘らず、チエッコ政府がこれを裏切つた事は、スロヴアキア人及びルテニア人の深い憤懣を買ひ、爾來兩地方に於ける反チエッコ運動が激化するに至つた。

而もルテニアの問題は、國際聯盟に陳情されたこともあつたが、英佛其の他の諸國はこれに耳を傾けなかつたような事情が、遂にチエッコスロヴアキア共和國崩壞

而もルテニアの問題は、國際聯盟に陳情されたこともあつたが、英佛其の他の諸國はこれに耳を傾けなかつたような事情が、遂にチエッコスロヴアキア共和國崩壞の悲劇を生むに至つたのである。

背後に躍るナチスの手

チエッコスロヴアキアには、約三百五十萬人の獨乙人がゐる。ナチス運動はこの人的背景によつて强力に押し進められた。

一九三三年、政府は前途を危惧してナチス黨を禁止したが、一九三四年、ヘンラインの指導下に結成された故國戰線はナチス黨の再生に外ならず、三五年五月の選擧では一擧に議會の第二黨に躍進し、チエッコにとつては恐るべき勢力として擡頭して來た。

彼等は表面、チエッコ共和國に忠誠を誓つてゐるけれども、實は大獨乙建設の强力なる一翼たらんとしてゐたのだ。

チエッコ合併の意義

政治的意義

かねて民主々義を標榜した獨乙が、何故思切つて、一千萬人のチエッコ異人種を包容すべく決心したのか。

政治的理由としては、反獨的聯盟が、歳月を經ると共に武力を充實する現狀に鑑み、やがて、チエッコスロヴアキアが、その連鎖の中に包含される時が來るかも知れない。だから今の中に、チエッコを合併する事が得策であり、且つ必要であると考へたと思はれる。

經濟的原因

(1) ズデーテンの分割によつりチエッコは片輪となる

第二の原因としては經濟的理由をあげうる。卽ち一九三八年の秋、ズデーテン獨乙を合併して、これを大獨乙の統制經濟網に收めたもの丶、既に數百年來ボヘミヤ

第二の原因としては經濟的理由をあげうる。即ち一九三八年の秋、ズデーテン獨乙を合併して、これを大獨乙の統制經濟網に收めたもの丶、既に數百年來ボヘミヤを一單位として出來上つてゐたズデーテンの產業は、これをヒンターランドから切り離しては、その能率が著しく低下する。

即ちズデーテンが獨乙に合併された結果、チエッコスロヴアキアは、その領土の五分の一、人口にして其の二割五分を失つた。然しその資源に於ては、國土と人口の比例よりも遙に莫大なものを喪失したのである。

ボヘミヤは『オーストリアの眞珠』と云はれた土地であつたが、その内でも工業的にはズデーテンが核心を爲したものであつた。

ズデーテン地方は石炭と鐵鑛石を豐富に產出する。且つこの兩者は比較的に均衡がとれてゐた。そして石炭は多く輸出し、鐵鑛石は外から輸入してゐたのである。ところが、ズデーテンの分割によつて、この均衡が破れた。

石炭産地の五割はズデーテンに歸し、冶金工業は、チエッコ側に殘つたもの丶、國境附近の着彈距離に存在する結果、約八割は獨乙の掌中に歸したのである。また鐵鑛石の輸入は、獨墺合併の後になつて、全く獨乙人側の意向に左右される事になつてしまつた。

チエッコが農產物についても、同樣の結果が見られる。チエッコは從來小麥と燕麥とを輸出して馬鈴薯と玉蜀黍とを輸入してゐたのである。木材の輸出は、その山林の廿四%を失つたゝめに著しく源少した。

(2) 再建資金二百億クローネ

煙草產地の八割、甘菜耕地の大部分をチエッコからズデーテンと共に獨乙に讓つた。從つて工業原料の輸入のため輸出すべき農產物の數量は、極めて貧弱になつてしまつた。

更に輕工業に於ては、有名な硝石工業、纖維工業、化學工業も殆んど四分五裂の狀態に陷つたし、電氣事業も同樣であつて、例へばプラーグ市の電力さへも、ズデーテンから購入する必要に迫られたのである。

狀態に陷つたし、電氣事業も同樣であつて、例へばプラーグ市の電力さへも、ズデーテンから購入する必要に迫られたのである。

これらの產業組織を再建して、チェッコの國內に昔日の繁榮を取り戾すには、少くとも二百億クローネの資金を必要とするとみられた。この資金は英佛方面からの借款によるより外に途がないので、ミュンヘン會議の直後、英國は一千萬ポンドのクレヂットをプラーグ政府に供與した譯である。

殊にチェッコの蒙つた大打擊は、その交通網の半身不隨となつた事である。鐵道網が、各所で獨乙領を通過する結果はチェッコ內の都市が、互に連絡を失つた一事にみても大抵は想像が出來るであらう。

かくてチェッコは、大戰前のオーストリアが戰後の小國となつた如く、ズデーテンを失つたチェッコは、獨立國の地位から附庸國におちた。

(3) チェッコの資源

然してかく片輪になつたチエッコの資源はと見れば、獨乙の必要とする幾多の資源が累々として山積してゐる。鐵、鋼、石炭並に褐炭に於いては、殆ど獨乙の一割に相當する額を出してゐる。即ち一九三七年の生産高をみると左の通りである。(單位千トン)

石炭	一九、九五六
褐炭	一八、〇三六
銑鐵	一、六八〇
鋼	二、三一六

木材に於ては、建築用材にして八十三萬トン、パルプ用材廿六萬三千トン、製紙用パルプ十三萬六千トンを輸出した。(一九三七年の數字)

穀物と穀粉は、一九三七年に於いて卅五萬二千トンを輸出してゐる。

一九三七年春併合したオーストリアは穀物輸入國であるため、その併合は獨乙の食料自給に關し、マイナスになつたが、チエッコ合併はこの點プラスだ。甜菜糖、ビール(大麥及びホップを産するから)等も豐富であり、其の他皮革の輸出も多い。

一九三七年春併合したオーストリアは穀物輸入國であるため、その併合は獨乙の食料自給に關し、マイナスになつたが、チエッコ合併はこの點プラスだ。甜菜糖、ビール(大麥及びホップを産するから)等も豊富であり、其の他皮革の輸出も多い。

だが棉花は殆ど產しないから一九三七年は十一萬二千瓲の棉花を輸入した。金額に於て棉花輸入は、總輸入額の一割見當を占めてゐる。羊毛の輸入も多額に上り、數量は二萬九千瓲、金額では棉花に次いで第二位である。一九三七年の總輸入額中に占める割合は七%四である。チエッコスロヴァキアは纖維工業が盛んであり、纖維品の輸出も多いが、その原料品は外國に依存してゐた。

東南歐進出の必要は解消しない

石油の產額は云ふに足りず、一九三七年に二十三萬六千瓲の精製油を輸入してゐる。銅の產額も殆ど問題にならない。鉛、亞鉛、アンチモニーの產額は輸出する程の餘力を持たぬ。金產額も云ふに足りない。

だから獨乙の資源的惱み、就中石油不足の惱みはチエッコスロヴァキアの併合によつて未だ解決しない。ルーマニアの油田、ユーゴースラヴィア及びルーマニアの銅資源、ユーゴースラヴィア及びハンガリーのボーキサイト（アルミ鑛）資源等々を目指す東南歐進出の必要は依然として存續してゐる。

金と輸出超過

チエッコスロヴァキア國立銀行は一九三九年一月末に於て廿六億九千六百萬クローネの金準備と十一億七千三百萬クローネの外貨資産を持つてゐた。獨乙貨に換算すると、金は大體二億三千萬マルク、外貨資産は一億マルクとなる。一九三九年一月のライヒスバンク金保有高は僅かに七千百萬マルクに過ぎないから、チエッコから、これの資産を引繼ぐ事は大きな助になる。

ライヒスバンクはこの外に一九三八年二月末にオーストリア國立銀行から金及び外貨資産合計約二億九千萬マルクを引繼いでゐる。これらが如何に大きな作用をし

外貨資産合計約二億九千萬マルクを引繼いでゐる。これらが如何に大きな作用をしたかは言ふまでもあるまい。

更にチエッコの貿易は、オーストリアと違つて毎年大きな出超を示してゐる。一九三八年の統計はズデーテン獨乙の割譲で複雑してゐるから一九三七年の統計を見よう。出超九億九千二百萬クローネである。その中對獨貿易は五千六百萬クローネの入超だが、對獨貿易を除くと、十億四千八百萬クローネ、獨乙貨に換算して、ザット九千萬マルクの出超であつた。

一九三八年の獨乙貿易が一億九千二百萬マルクの輸入超過になつてゐる際、チエッコ合併の利益は大きい。

垂涎の的、軍需工場

平和産業以外に於て、チエッコが列強と比肩し得るものは、その兵器彈藥工業である。ロンドンエコノミスト誌の記述によれば、チエッコの造兵工業は、獨乙の五

割を生產する能力を備へ、盛んに國外に輸出してゐる。一九三七年中の武器輸出が四億六千四百萬クローネ（約五千三百萬圓）に上つたのをみても、その一斑を窺ふ事が出來る。

この尨大な軍需工場は、獨乙の軍備充實にとつて一大資源である。

以上の如き理由より、獨乙は、從來の民族主義的主張を一擲して、チエッコを合併したものと思はれる。

貿　易

オーストリアの合併により入超激化

オーストリアを含む一九三八年（昭和十三年）の貿易收支は四億三千二百萬マルクの入超となつた。一九三七年には四億四千三百萬マルクの出超であつたから、大きな逆轉である。

オーストリアを除いた舊獨乙だけでは、一九三八年に於て一億九千二百萬マルクの入超だから、オーストリアの合併によつて新たに二億四千萬マルクの入超が加つた譯である。

然しオーストリアを除いても、獨乙の貿易が惡化した事は明かである。卽ち輸出

は五十二億五千七百萬マルクとなり、前年卽ち一九三七年に比し六億五千四百萬マルク（一一％一）を激減したのに對し、輸入は五十四億四千九百萬マルクとなつて一千九百萬マルク（〇％三）を減じたに止まる。

ではこの入超代金は何によつて賄つたかと云へば、一九三五年乃至一九三七年に於て得た出超代金と、オーストリアから引ついだ金及び外貨であらう。

獨乙の國際收支は一九三五年以來發表されなくなつたから、貿易外收支が如何なる狀態にあるか判からないが、一九三四年の國際收支に鑑みると、貿易外收支は大體に於て均衡を得てゐるものと想像される。とすると、一九三五年から一九三七年までの間に獨乙貿易は十一億九百萬マルクの出超を示してゐたから、この中から外國債務の元利拂にかなりの金額が割かれてゐたとしても、尙ほ多くの金額が、一九三八年の入超代金として利用し得たものと思はれる。

獨墺合併以前のオーストリアは金、外國爲替及び諸外國への貸勘定を持つてゐた。

これは合併前の爲替相場で換算すると二億九千萬マルク、合併後に定められた換算

獨墺合併以前のオーストリアは金、外國爲替及び諸外國への貸勘定を持つてゐた。

これは合併前の爲替相場で換算すると二億九千萬マルク、合併後に定められた換算比率で計算すると、四億五百萬マルクである。獨乙はこれを引ついだから、これも入超代金の決濟に使用し得た譯である。

然しそれにしても、一九三八年に於ける四億三千萬マルクの入超は右の資金をかなり喰ひ込んだ。そして今後も、一九三八年の樣な入超が續くとすれば、それは獨乙の貿易にとつては重大な問題である。

輸出か然らずんば死

のみならず、獨乙の輸出に對する列國の競爭は益々激化しつゝある。米國は南米諸國に對する獨乙品進出と競爭する用意をしてゐるし、英國は輸出補償基金を增加して獨乙の輸出と競爭してゐる。

英米通商協定も亦獨乙の輸出への障害となるであらう。

これに對し、獨乙はバーター制、求償制貿易の强化、東南歐、南米、北歐、近東諸國との貿易關係の緊密化を圖る事によつて、輸出の增進に努力しつゝある。

また貿易政策に於ける一つの轉換として注目すべきものは、一九三八年十一月に發表された新政策で、それは輸出用原料を優先的に許可するが、それと同時に、政府が各事業に與へる注文は、夫々の事業の輸出成績に應じて割當てると云ふ規定である。これは一種のリンク制であつて、輸出振與に必死となつてゐるあらはれである。

今日の獨乙にとつて、輸出の不振は、當然原材料、食糧の輸入減を引き起し、それは軍備と獨乙經濟に最も恐るべき脅威を與へるものだ。そして將來戰に於ける獨乙の經濟力に大打擊を與へる。

『輸出か、然らずんば死』と云ふヒットラーの言葉は第二次歐洲大戰勃發前の獨乙を最も端的に表現するものである。

を最も端的に表現するものである。

獨乙とバルカン

獨乙の東方政策が、カルパット北西にあるか、或はダニューブの浪に乘つて更に南進するか、それは今日より予斷を許さないが、少くとも經濟的には更に東南に向つて進出する可能性の多い事は明らかだ。次に具體的に檢討してみよう。

バルカンの農產資源

獨乙が必要とする食料品並に原料は、東南部及び中央ヨーロッパに於いて、約五割を手に入れる事が出來る。

ハンガリーとチェッコを除けば、自餘の諸國はすべてバルカン半島に位置する國々である。

歐洲の東南部は、獨乙の最もめざましい進出の舞臺であつて、過去十年間に驚嘆すべき躍進をとげてゐる。例へば一九二九年に於けるトルコよりの買付高はトルコ輸出の一七・五%であつたが、一九三七年には四三・七%に增加した。東南部歐洲が獨乙に供給し得る物資は、穀物に於いて約四百五十萬グラムトンであるが、その內の四百萬トンを以て獨乙の需要は充分である。

木材と煙草は、ルーマニア、ユーゴスラヴィア並にトルコ、ギリシヤよりの輸入を以つて需要量の全部を賄ふ事が出來る。

棉花と羊毛については、トルコ、ギリシヤ、ブルガリヤ方面から一部分の需要を補足する計畫をたてゝゐる。

鑛物資源

ボーキサイドは、ハンガリーとユーゴスラヴィアより、銅鑛石はルーマニアとユーゴースラヴィアより、生皮と皮革は全バルカン半島より、何れもその需要を滿た

ボーキサイドは、ハンガリーとユーゴスラヴィアより、銅鑛石はルーマニアとユーゴースラヴィアより、生皮と皮革は全バルカン半島より、何れもその需要を滿たし得る計算である。

獨乙の必要とする石油は毎年三、四百萬トンを下らない。戰時になれば、需要は或は倍加するかも知れないが、ルーマニアは僅に七、八十萬トンの石油を輸出し得るに過ぎない。

以上の東南部諸國が輸出する農產物、石油、鑛石等は一九三七年に約廿億マークに上り、獨乙は其の輸入原料の二割をこの方面に仰いでゐる。

バルカンとの貿易關係

獨乙とバルカンとの貿易は、概してバーター・システムによつてゐる。ハンガリー、ルーマニアの小麥、ユーゴスラヴィア、ルーマニアの木材、トルコ、ギリシヤの煙草の如きは大量に獨乙に輸入されたが、その結果獨乙は却つて、これ

らの諸國にバランスの滞りを生じた。
これを清算するために、バルカン諸國政府は獨乙品の買入奬勵に全力をつくす必要に迫られ、他國品の輸入を防止した。
然るに獨乙は他の第三回に自由に賣れる品物の引渡を拒絶し、商品の自由な選擇を相手に許さなかつたゝめに、時にはルーマニアはタイプライターを幾千臺、ギリシヤはハーモニカを幾十萬個と買入れる樣な珍現象を呈した。
それにも拘らず、何故バルカン諸國は獨乙から離れられないのか。
その理由は
(一) 獨乙程莫大な數量を定價で買入れ得る者が他にない事
(二) 農産物の價格を世界市場の水準以上に釣り上げたゝめ、農民は獨乙以外に賣る事を好まない事
(三) 獨乙が買入れた物資を廉價に第三國に賣放つたゝめ、海外市價が低下して、

生産國は直取引が困難になつた事

(三)　獨乙が買入れた物資を廉價に第三國に賣放つたゝめ、海外市價が低下して、生産國は直取引が困難になつた事

等をあげうる。

かくする事によつて、獨乙は一石二鳥の利益を占めた。第一に生産國は獨乙のために市場を獨占され、第二にダニューヴ沿岸とバルカンの生産者にとつては、獨乙市場が頗る魅惑的になつた。

これに加ふるに世界の再軍備熱が、獨乙の對外貿易を助長した。獨自の軍需工場を持たない二三流國は、爭つて各國に軍需品を漁つたが、獨乙は長期クレヂットの方法を以つて大量の武器を供給し得る唯一の國であつた。

ギリシヤ、ハンガリー等はその通例としてあげる事が出來る。

バルカン諸國の惱み

こう云つたからとて、東南歐洲諸國が、經濟的に獨乙に隷屬するかの如き形を心

から喜んでゐるのではない。

却つて、これ以上に獨乙との貿易率が增大する事に危惧の念を抱いてゐる。その態度は一面に政治的考慮から來るのみならず、また經濟的にも十分の理由が存在するのだ。

東南歐洲諸國は、獨乙より購入出來ない物資を輸入するために、自由爲替を必要としてゐる。また獨乙よりの製造品輸入が國內產業の發達を阻害する場合もある。獨乙の手によつて鑛物資源の開發される事を希望しつゝも、專ら獨乙の利益のために、開發される事を欲しない。

また經濟的利益の增大は同時に政治的勢力の附隨する事を十分彼等は承知してゐる。

從つてこれらの小國は、決して獨乙商業政策の熱心な支持者ではないが、生きんがためには是非とも市場をみつけなければならぬ。

がためには是非とも市場をみつけなければならぬ。

獨乙に代る取引相手が出現しない限り、獨乙を無視し得ない事は云ふまでもない。

それが諸國の惱みの種だ。

東歐の寶庫ウクライナ

獨乙とウクライナの關係は深い

ウクライナ進出は獨乙の傳統的政策である。獨乙は十八世紀の末から既に此處に着目して資本と技術者を送り、ドンバス其の他で幾多の鑛山を開發し、工場を建てゝゐる。

近くは一九一七年三月の革命に乘じ、タンネンベルヒで露軍を粉碎した獨乙軍はウクライナ、クリミヤに殺倒した。其の後ソ聯と結んだブレストリトウスク條約に於ても、獨乙は其の庇護の下に作つた『獨立國』ウクライナの支配權を獲得してゐた。

一九一八年十一月、獨乙が戰敗してウクライナから撤兵するや、ソ聯は忽ちウクライナを併呑した。其の後五ヶ年計畫の實施に當つて、多數の獨乙人が、再びウク

ライナを併呑した。其の後五ヶ年計畫の實施に當つて、多數の獨乙人が、再びウクライナにはいり、獨乙の技術が流れこんでゐる。獨乙が東漸政策の最終目標として、ウクライナを指してゐるのは淺からぬ因緣があるのだ。

ウクライナとは邊境の意だ

ウクライナとは『邊境』の意味である。南は黑海、アゾフに直し、南西部でカルパット山脈に區劃せられた一帶の平原地方である。其の面積は約六十萬平方粁、人口は約四千萬人で、大戰前までは大部分がロシア、一部が墺洪國に分屬してゐた。大戰後ポーランド、チエッコが獨立したので、これにソ聯とルーマニアを加へた四ヶ國に分割されるに至つた。然しソ聯領以外の地域は殆んど問題にならず、ウクライナの面積及び人口の約八割はソ聯に包含されてゐる。ウクライナの面積と人口は左の通りである。（東洋經濟一八五九號、三八頁）

	面積(平方粁)	人口(千人)
ソ聯領	四八一・三	三一、一九四
ポーランド領	一三九・三	七、五〇〇
(東ガヲチヤ、ウオールイン、ホルムシチナ)		
舊チェッコ領	一三・六	六〇〇
(カルパート、ウクライナ)		
ルーマニア	一〇・四	一、〇〇〇
(ブウゴヴィナ)		

ソ聯ウクライナ

ソ聯ウクライナの面積は、四十八萬千三百平方粁で、獨佛伊波の何れよりも大きく、人口三千百萬人、其の密度は一平方粁について七二八で、ルーマニア、ユーゴーよりも高く、フランス、ポーランドに接近してゐる。

よりも高く、フランス、ポーランドに接近してゐる。

然しこれをソ聯の他地方に較べると斷然高く、歐露は二六・九一人、白ロシアは四二・〇九人に過ぎない（一九三三年）即ちウクライナはソ聯邦中最も開化した地方で、其の面積は全ソ聯邦の二％二を占めるに過ぎないが、人口では全體の一九％を占めてゐる。

次にウクライナの人口構成割合を見よう。

ウクライナの人口三千餘萬人のうち、ウクライナ人は約八割の二千五百萬人である。次はロシア人の九％二で約三百萬人、ユダヤ人の五％四の百六十萬人、ポーランド人の一％六の四十五萬人、獨乙人の一％四の四十三萬人である。この外にモルヴィア人が〇％九、ギリシヤ人が〇％四、ブルガリア人及び白ロシア人が夫々〇％三ゐる。

ウクライナの農業

ウクライナはソ聯にとつて食料品の寶庫であり、重工業の根據地である。ウクライナは殆ど平原で、その中を歐洲第三の大河ドニエプル河が流れてゐる。この爲めに氣候は緩和され、降雨量も適度にあつて農業には最も適してゐる。

一九三七年の農業耕地面積は二千四百卅七萬ヘクターであつたが、これはソ聯全體の一九%に相當する。そのうち穀物の播種面積が七割强を占めてゐる。そして小麥の播種面積はソ聯全體の一八%四を占め、大麥は三七%五、玉蜀黍は三四%四、ライ麥は一五%六を占めてゐる。

穀物の收穫高は一九三五年に一億七千五百萬ツエントネルで、全聯邦の二割近くに當つてゐる。

今日のソ聯は甜菜糖の生産で、獨乙を追ひ越して世界の首位を占めてゐるが、其の大部分はウクライナの産である。革命前この地方の甜菜栽培面積は、全國の八割

今日のソ聯は甜菜糖の生産で、獨乙を追ひ越して世界の首位を占めてゐるが、共の大部分はウクライナの産である。革命前この地方の甜菜栽培面積は、全國の八割を占めてゐたが、今日では他の地方にも栽培されてゐるので六八%五に低下してゐる。しかし一九三七年の播種面積八十一萬六千ヘクタールは帝政時代の數字を遙かに超えてゐる。

實に製糖業を中心とする食料品工業と鑛山業とは、ウクライナ工業の二大部門であつて其の總生産額の三分の二を占めてゐる。而して食料品工業の五分の四は製糖工業が占めてゐるのだから、甜菜栽培がウクライナで如何に重要な地位を占めてゐるかゞ分かる。

工業用作物では最近棉花の栽培が注目に値する、これは一九三三年から始めたものだが一九三七年の播種額積は廿二萬二千ヘクターで全國の一〇%六を占めてゐる。

ウクライナの鐵と石炭

ドンバスの石炭とクリヴオイローグの鐵鑛は、ウクライナをしてソ聯重工業の一大根據地たらしめてゐる。更にドニエプル河の水力は有名なドニエプル水力發電所五十六萬キロワットを造り出し、この三者を基礎として、ウクライナの重工業が確立されてゐるのだ。

ドンバスの石炭埋藏量は七百億瓩以上で、其の採炭高は全國の五割以上を占め、年額八千萬瓩に達してゐる。しかしドンバスは單なる石炭埋藏地でなく製鐵、化學、機械製作を含む一大重工業地帶を形成してゐる。

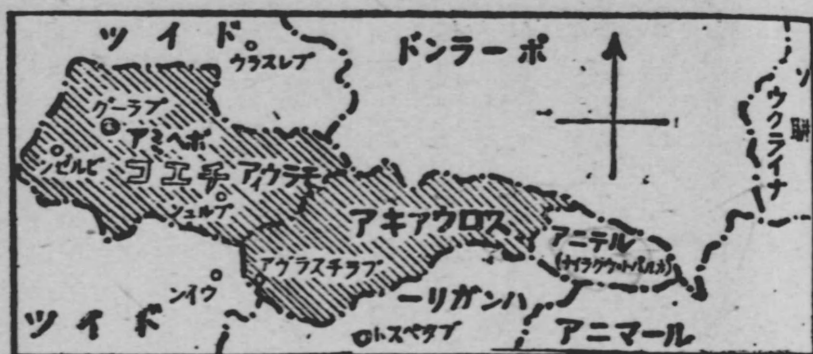
クリヴオイローグの鐵鑛は埋藏量十一億四千三百萬瓩、其の鐵分は七〇%でソ聯では勿論世界有數の富鑛である。國內の五八%以上の富鑛の七割五分までが此處に集中し、鐵鑛需要の六割以上を供給してゐる。

この鐵鑛によつて、全國の銑鐵生産の六三%三、鋼塊の

この鐵鑛によつて、全國の銑鐵生產の六三%三、鋼塊の五六%一、鋼材の五八%八を出してゐる。

カルパアート・ウクライナ

チエッコに入つた獨乙は、今やルーマニアを隔てゝ、ソ聯ウクライナを望むに至つた。

カルパアート・ウクライナ(ルテニア)はチエッコ東端の一州でポーランドとハンガリーとの間に挾まれてゐる面積一萬平方粁餘、人口六十萬の小地域だが、住民は殆どウクライナ人だ。今日の獨ソ關係ではウクライナ問題を餘り深く堀り下げることは無意味に見えるが、獨乙の世界政策を考へるには、以上の事だけは念頭に置かねばならぬ。

ヒットラーの極東政策

對支貿易の變遷

獨乙の產業は、歐洲大戰の結果支那に於て失つた地位を、一九二〇年代に至つて急速に回復した。この原因は、獨乙產業の能率が高かつた事と、支那が特殊の政治的權益なき國との經濟的取引に多大の好意を示した事であつた。

その結果、獨乙の統計によれば、一九二六年には既に獨乙の對支貿易額は、輸出入額共に、一九一三年のそれを凌駕するに至つた。一九一三年には、獨乙は支那の外國貿易額の四・七%、一九二一年には一・三%を占めてゐたが、一九三〇年には四・二%、一九三二年には六・六%となつた。

他の極東諸國に對する獨乙の貿易も一九一三年度よりは可成り上昇したが、支那

二%、一九三二年には六・六%となつた。

他の極東諸國に對する獨乙の貿易も一九一三年度よりは可成り上昇したが、支那に於けるそれには及ばなかつた。

この貿易力は、一九三一年に至り、資本投資の領域にまで伸長した。卽ちこの年ドイチェルフトハンザはユーレシア・コーポーレーション（支那に於ける二大航空運輸會社の一）の設立につき、資本の三分の一を出資し、殘りの三分の二を南京政府が出資したのである。

その前年、南京政府の招請によつて、獨乙の特別使節團が、經濟上の調査のために支那に派遣されて來た。

對支投資

これより數年の後、オットー・ヴォルフ商會を主班とする借款團は、數個の鐵道借款の商議を行つた。かくして一九三四年には、浙贛鐵道の玉山南昌間三〇〇キロに對する一千六百萬銀弗の借款、一九三六年には南昌萍鄕間二〇〇キロに對する二

千萬銀弗の借款・また同年末の四千萬銀弗の第三次對支借款が行はれ、この內三千萬銀弗は株州、貴陽間一〇〇〇キロの建設に、殘餘の一千萬銀弗は京漢線の黄河鐵橋用に充當するものであつた。一九三七年、支那事變が勃發した時、玉山南昌間は既に完成し、南昌萍鄉間は建設中であつたが、株州、貴陽間の工事は未だ始まつてゐなかつた。

然し乍ら獨乙の經濟的成功の最大なものは獨乙の重工業製品と、支那のアンチモニー、タングステン、獸皮、菜種の如き重要原料品とを交易するバーター協定を支那と締結した事であつた。

在上海の獨乙商業會議所は、一九三五年の報告に於て次の様に述べてゐる。

『この代償供與』協定によつて、獨乙は支那輸入貿易上、英國を第三位に蹴落す事が出來たが、この協定を廢棄すれば、支那に於ける獨乙貿易は半身不隨になるであらう』(Asiatische Rundschan)1936年5月16日254頁)

一九三六年六月の頃、一億銀弗のバーター協定が締結された。これには若干の困

う』（Asiatische Rundschau）1936年5月16日254頁）

一九三六年六月の頃、一億銀弗のバーター協定が締結された。これには若干の困難もあつたけれども、とにかく獨支貿易をして、愈々活潑ならしめた事は、貿易統計が雄辯に物語つてゐる。卽ち獨乙の對支貿易は、一九三四年が七千四百萬ライヒスマルク、一九三五年が九千四百萬ライヒスマルク、一九三六年が一億二千六百萬ライヒスマルク、一九三七年には一億四千八百萬ライヒスマルクと累增したのである。獨乙貿易の活動振りに關し、サー・フレデリック・リースロス氏は、ロンドンの支那協會に於て『我々も獨乙の例に倣つた方がいゝと思ふ』と述べるに至つた。

支那の獨乙に對する關心

支那官邊の獨乙に對する關心は、一九三三年以來急激に增大した。ベルリンには張學良、胡漢民、汪兆銘、湯良禮、戴傅賢、蔣偉國の如き名士が訪問した。獨乙訪問それ自體は何らナチス思想に對する共鳴を現はすものではない。だが當時共產黨

と戰ふ一方、日本の進出に惱まされてゐた支那政府としては、同じく反共產主義であり、しかもごく最近世界を物ともせぬ程の國力を增大したと思はれる獨乙政府から援助を得る事も可能だと考へた。

軍事顧問の眞相

南京政府はまた對共產黨戰について、獨乙軍事專門家の援助を重視した。軍人顧問團は一九二七——二九年、卽ちナチスの勝利の遙か以前に組織されたものであつて、決して官製ではなく、ワイマール政府がこれを否認した。また全員はおろか大多數さへナチ黨員であつた譯でなく、またその渡支の目的も抗日軍を建設するためでなく、共產軍に對して南京政府を援助せんがためであつたと云ふ。尤も一九三二年以後、獨乙はこの軍事顧問團を政府の一般的支配の下に置くに至つたが、顧問は非公式の資格に於いて、且つ私的契約の下に滯支してゐたのである。

この顧問團の活動が、支那事變の進行に伴ひ、實際に抗日的に働らき初めたのは一九三七年、戰爭の開始を見た以後の事であつた。

一九三七年、戰爭の開始を見た以後の事であつた。

また同顧問團が支那の軍事的勢力の根幹を成してゐたとか、或は支那のゲリラ戰術の採用について責任があるとか云ふのは間違である。ゲリラ戰術が支那共產黨の南京政府との國內戰に於ける經驗から生れたものである事は全く明らかである。

一九三八年五月末に、この顧問團一行は支那から召還された。こゝに獨乙極東政策の最も著るしい矛盾は除去されるに至つた。

獨支提携論

獨乙貿易業者は、蔣介石の西安監禁及び其の釋放後に於ける支那統一の進展を歡迎し、彼等の前途に廣大な經濟的沃野が展開されたかと考へた。これは一九三七年八月、ベルリンに於ける孔祥熙の歡迎會に極めて明瞭に現れた。

ライヒスバンク總裁シャハト博士は、獨支兩國は近年國家的獨立のため難局に立

つてゐたが、今や兩國の友交關係が、好轉したと述べ『獨乙は主要工業國の一として助言と行動とにより、支那の味方になる事が出來る』と聲明した。

孔祥熙はこれに答へて『支那は獨乙を最良の友邦と考へてゐる……獨乙が力を藉して支那の今後の發展、その原料資源の開發とその工業並に運輸機關の建設とを援助せられん事を希ひ且つ望むと述べてゐる。

獨乙極東政策の惱み

シャハトが『獨支提携』を强調してゐる同日に、在新京の貿易事務官は、滿獨親善の增進のためには、相互の經濟的犧牲が必要だと强調して、獨乙の極東政策に關する分裂を實證してゐる。この極東政策分裂の軍事的背景をみよう。

一九一八年以來、獨乙國防軍の政策は、戰線を二つにして戰ふ事を回避するにあつた。

フランスを以て獨乙の主要敵と考へた獨乙國防軍の指導者は、積極的にソ聯陸軍

つた。

フランスを以て獨乙の主要敵と考へた獨乙國防軍の指導者は、積極的にソ聯陸軍との技術的提携を通じて、ワイマール共和國公式の政策たる親ソ政策を推し進めてゐた。ヒットラーが政權を握つた後も、國防軍はこの根本の立場を變更しなかつた。國防軍の前幹部フォン・ゼークスト將軍は、決して獨乙は、日本その他ソ聯を圍繞する列强と結ぶべきではない。反對に、ナチスは國内に於て强烈に共產主義を彈壓してゐるのだから、ソ聯との同盟から生ずる國内的反應を怖れる必要はないと論じた。(Deutschland Zwischen West und Ost, Hamburg, 1933)

國防軍は理論だけにとゞまらず、ヒットラーの政權獲得後も、トハチェフスキー元帥の率ひるソ聯將軍の一團と軍事的關係を續けてゐた。ソ聯の將軍達は、ソ聯政府の轉覆を劃策し且つ、出來るならば獨露同盟——これには日本も參加し得るであらうと企圖してゐた。

然るにソ聯の將軍達が處刑されたので、國防軍の政策はその現實的基礎を失つた

のだ。

日獨經濟の競爭

他方日獨の經濟的競爭は日に激化して行つた。それは支那ばかりでなく、蘭領東印度、南米及び獨乙本國に於てさへ激化して行つた。

かくて『日本の勢力下に入つた支那の土地は程度の差こそあれ、すべて他の諸國の貿易と產業とを失はしめるものである事は、臺灣、朝鮮、滿洲の例に見る通りである。支那の主權下にとゞまつてゐる支那の土地は總て、外國貿易及び外國產業の活動にとつて豐かな將來の可能性を約束してゐる。それは支那の經濟的基礎を强化し、同時に支那は輸出によつて、輸入增加に對する支拂を爲し得るに至るのである』(Zeitscbrift fiir Geopolitik 1934年 9月 568頁)との意見さへ出て來た。

然し乍らこうした意見は、獨乙の極東政策を左右するに至らなかつた。

一九三三年秋、ニュルンベルヒの黨大會に於て、ヒットラーは日本に對する親善

然し乍らこうした意見は、獨乙の極東政策を左右するに至らなかつた。

一九三三年秋、ニュルンベルヒの黨大會に於て、ヒットラーは日本に對する親善の意を表明し、爾來この線に沿ふて外交を遂行して來た。

政治は經濟に優先する

かゝる支配的意見の代表者は率直に、政治は經濟の上に置かねばならぬと明言した。一九三二年十月、當時の新任駐日獨乙大使フォン・ディルクセン博士は、日獨親善を强調した後、『第一は政治である』と述べ、更に博士はこれにつけ加へて曰く『それにも拘らず或はまさに、それ故にこそ、余は日獨經濟關係に關して余に課せられたる任務を十分自覺してゐる』(Ostasiatische Rundschau, 1933年 11月1日 474頁)と。

貿易業者の一部では、こうした政府の計畫と步調を一にしてゐる。彼等の考へはこうだ。日本との競爭は激烈だ。また獨乙の外交政策は支那を敵に廻はしてはなら

ないけれども、純粹に經濟的性質の協定ならば、日本との間に、或は進んで滿洲國との間に結んでも何か得るところがあるかも知れない。獨乙の滿洲産大豆の購入は一九三三年三五年の三年間に激減した。その譯は滿洲國が獨乙から殆ど買つて呉れないので、獨乙が爲替に缺乏したからである。バーター協定を結べば恐らくこの事態を救ふ事が出來るであらうと。

また獨乙政府は、こうした協定の商議こそ對日關係を進捗せしめる上に極めて實際的な第一着手であると考へた。

滿獨貿易協定

一九三六年四月卅日に滿獨貿易協定が成立した。これによれば、獨乙の對滿購入は毎年總額一億圓(滿洲國幣)とし、滿洲國の對獨購入は二千五百萬圓(滿洲國幣)までと云ふ事になつた。

この協定は一九三八年七月の新協定となり、獨乙は年々二億圓(滿洲國幣)を支拂

この協定は一九三八年七月の新協定となり、獨乙は年々二億圓（滿洲國幣）を支拂つて二百萬噸の大豆を買ひ、之に對し滿洲國は五千萬圓（滿洲國幣）だけ獨乙の品物を買ふ事になつた。

このバーター協定は明らかに、滿洲に於ける日本を利すると共に、大豆貿易を復活した點に於て獨乙の利益となつた。然し一九三八年に至るまで、滿洲の對獨購入額は規定の四分の一の比率を遙かに下廻つてゐた。事實第一年度に於ては、獨乙の購入は著增したが、滿洲國が實際獨乙から買つた額は前年度より少なかつたのである。

然し、ベルリンはこうした成行を、政治的理由により默過した。

一九三七年六月、在新京の貿易事務官が聲明した様に『この協定によつて齎らさんとする物質的目的以上に、緊密なる親善關係に對する要望が存する』が故に、幾多の犧牲が兩國双方に於て忍ばれたのである。

然し最近に至つて情勢の變化が現れた。日本は今や滿洲重工業の急速なる發展を求めつゝあるために、獨乙重工業にとつて新しい好機が現れ、獨乙重工業が滿洲國に輸入される事になつた。

尤もこれ以前にも、獨乙重工業はある程度滿洲國の註文を受けとつた。昭和製鋼所は、獨乙人の技師の手により、可成り多量の獨乙機械を用ひて建設された。其の後更に追加註文が獨乙に發せられた。

然し最も重要な發展は一九三七年、支那事變以後に現れた。一九三七年十一月、獨乙政府は滿洲國と協定を締結し、これによつて、オットーヴォルフ財閥は滿州國に對し、主として獨乙機械の購入にあてるため、五分五厘の利率で、六ケ年間二百萬ポンドの借款を與へた。

その後また昭和製鋼所は、その擴張計畫に用ひる材料の三分の二は獨乙より輸入すべき旨發表した。

一九三八年三月、カーロキック及びクルップの代表者は、北京に於ける日本當局に對し、獨乙機械を北支に入れ、その支拂は日本の支配下にある臨時政府の銀行券たる聯銀券で受取ると云ふバーター協定の提案を行つた。（ローレンス・ロージンガー氏による）

ナチスの奇襲戰術

まづ正攻法

ナチスは或ひは黨大會に於て或は國會に於て、或ひは其の他の公開の席上に於てしきりに植民地領有の權利と必要とを國民に宣傳し世界に絶叫し、或ひは在外使臣をして植民地領有國のこの問題に關する見解を打診せしめるなど、凡ゆる機會をとらへて植民地領有の要求を世界列國の前に叩きつけるのである。

だが然し、これは序の口であり、正攻法だ。

この正攻法により正面から堂々と攻め寄せる一方、搦手から、舊植民地乃至其の他の失地に在住する獨乙人を煽つて、これらの領土の内部から獨乙への復歸の氣運

を醸成せしめその領有者に手をやかせ樣とする一種の奇襲法がある。

奇襲(ゲリラ)戰術の效果

獨乙國外に住む獨乙人に獨乙意識を鼓吹するためには、既に一八八〇年代の初め頃から幾多の團體が組織されて相當の活動を展開したが、大戰後殊に失地回復、植民地奪還をナチス綱領の最大眼目の一としてから、この活動は頓に深刻味を加へて來た。

ナチスは既に以前から組織されてゐた在外獨乙人協會其の他の關係諸團體を統一して黨の機構の一部に編入し、更に一九三七年一月には外務省内に在外獨乙人問題を掌る長官を置いて、在外獨乙人のナチス化と失地や植民地の獨乙への復歸運動を組織化するに努力した。

秘密國家警察の各地に伸びる毛細管もまたこの運動に重要な役割を演じてゐると

傳へられてゐる。かくて今や海員によつて組織される一〇九七の在外獨乙人グループの外、各國に定住する獨乙人の間にも五四八のグループが結成され、獨乙本國の展開する失地植民地回復運動と相呼應して、陰に陽に、活潑なる活動を展開してゐる。

一九三一年にナチスの規定した在外獨乙人團に對する十誡の中には、

『諸君等は、諸君等の在留する國の法律に從ふべし』

『在留國の政治は在留國民に委せ……これに介入する勿れ』等々と述べて居るが、これらの誡律は、歐州に於ける失地や舊獨乙植民地などに於ては、單なる口頭禪に終つてゐるのであると見る人がゐる。

西南アフリカのナチス

一九三五年五月、英帝ヂョーヂ五世銀冠式のためロンドンを訪れた南阿聯邦首相ヘルツォーブが、その委任統治下にある西南アフリカの舊獨乙植民地を獨乙に還附

する用意があると洩したと傳へられ、一時世界の耳目を聳てた。同首相が何故に突

ヘルツォーブが、その委任統治下にある西南アフリカの舊獨乙植民地を獨乙に還附する用意があると洩したと傳へられ、一時世界の耳目を聳てた。同首相が何故に突如としてかゝる見解を洩らしたのか、その眞相は詳かでないが、一部では同地に於けるナチス及獨乙人の策動が猖獗で、その統治の任にある南阿聯邦が遂に嫌氣を催したのであらうとみてゐた。

西南アフリカに於けるナチスの活動は既に一九二九年の頃から始つてゐたが、この活動はナチスの政權掌握と共に俄に活潑になつた。かくて一九三四年七月には同領内に於けるナチス本部及びヒットラー青年團に對する檢索が行はれて多數の文書が押收され、ヒットラー青年團は禁壓された。ナチス運動そのものも亦禁止された。

當時南阿聯邦首相の發したステートメントには

『西南アフリカのナチスの組織は、獨乙本國のナチス黨の支部であり、その支部長は本國黨中央部の任命するところである。彼等にとつては、西南アフリカは獨乙領の一片にほかならず、從つて獨乙の展開する自由への闘爭は必然に西南アフリ

カの獨乙への奪回を含むものだ』と述べてゐる。

檢事總長の暴露文

一九三五年九月、西南アフリカの檢事總長は、同地に於けるナチスの活動狀態を暴露する文書を發表した。その大部分は、同地のナチス黨員と獨乙本國のナチス指導部との間の往復文書である。これによるとナチスの委任統治領に於ける策謀の一端が、かなり明確に描き出されてゐる。

即ち獨乙本國側からは、ヒットラー總統に對して絶對無條件の服從を誓ふべき事ナチス運動は委任統治國に對しては絶對嚴秘の裡に遂行するべき事等が指令されてゐた。これに對して西南アフリカの支部から獨乙本國のナチス指導部に宛てた書翰には

『當地に於ける我々の目的は、ヒットラーの主義綱領を在住獨乙人の間に宣傳徹底せしめ、速に當地域を獨乙に復歸せしめる事にほかならぬ。この方針に贊成せざ

『當地に於ける我々の目的は、ヒットラーの主義綱領を在住獨乙人の間に宣傳徹底せしめ、速に當地域を獨乙に復歸せしめる事にほかならぬ。この方針に贊成せざる者は賣國奴としてこれを處斷するつもりだ』

と述べてゐると云ふ。これによつて見ても、西南アフリカに於けるナチスの策動、その背後にあつて糸を引くナチス指導部の思惑が何を狙つてゐるかは明白である。

これは舊植民地に於けるナチスの活動の一例にすぎぬが、獨乙人の比較的多數に居住するトーゴー、カメルーン、タンガニカ等に於て、これに類する活動がないと何人が斷言し得ようかと言ふ。(朝日時局讀本植民地の再分割一九二頁)

かゝるナチスの活動は、舊獨乙植民地だけでなく、歐州の失地に於ても盛んに遂行されてゐる。

ナチス黨綱領第一條は

『我々は民族自決權に基き一切の獨乙人の大獨乙への結成を要求する』と述べ、所謂大獨乙主義の實現を極力主張してゐる。これは現實の問題としては、大戰の結果

失つた歐州に於ける失地の奪還を意味し、その計畫は晤々裡に進められてきたし、また現に進行中でもある。

獨乙の他國內部崩壞組織

アルバイト・デイーンスの眞の狙ひ

獨乙のアルバイト・ディーンストは日本では單に勤勞奉仕と云つてゐるが、その起源をたづねると、それは大體伊太利のスパイ網に對する戰術から出來たものであると云ふ(講演三九五號一九頁小島氏講演)以下氏の言ふ所を簡單に紹介しよう。

ムッソリーニがファシズムの運動に入つた時に、ベネチアの敎區長がムッソリーニはいつか天下を取るに違ひないと云ふので、その母親と妹を養つた。

ムッソリーニが天下をとると直にベェネチア敎區長はバチカンの密使としてムッソリーニ氏に面會した。卽ちバチカンの勢力は非常に廣く擴がつてゐるので、獨乙の國內でもベネチアに屬するものは相當に好い土地を持つてゐる。それをスパイ網

ソリーニ氏に面會した。卽ちバチカンの勢力は非常に廣く擴がつてゐるので、獨乙の國内でもベネチアに屬するものは相當に好い土地を持つてゐる。それをスパイ網にして、その代りファシズムはバチカンに對して手入れをしないと云ふ密約が出來た。

ところが數年にして獨乙にナチスが擡頭して天下を取つた。その上、ユダヤ系の排斥をして、その金融並に產業の外にユダヤ系の土地を沒收すると云ふ事を考へた。ところがそこに非常な障害があつた。それはバチカン系がユダヤ系と手を握つてゐた事だ。

この土地問題の手入れをするとなれば、結局伊太利、獨乙の衝突を一層激化表面化する事になる。これでは折角の植民地奪還の問題では、對英策戰上伊太利と手を握らなければならないのに、衝突したのでは何にもならぬ。

そこで考へついたのが例の勤勞奉仕だ。卽ち部落を拵へて、そこへ滿廿歲になつたならば、必らずアルバイト・ディーンストに從事しなければならないと云ふ法令

を出した。即ちユダヤ系もバチカン系も必ずそれに入らなければならない事にした。そうしてナチスの黨員をして逆にバチカンの敎區に入らせる。こう云ふ様に伊太利が文句を言へない様にした。

日給は七十ペニヒで邦貨約十五錢位で、獨乙の生活標準から云ふと、日本では十五錢から廿錢位の價値である。また土地の實りは餘り良くない土地を開拓して云々と云ふ事はなく、要するに伊太利の獨乙内スパイ網を内部破壞すると云ふのが狙ひである。そう云ふ様に他民族の内部破壞の組織は世界で獨乙が一番上手であると云ふ。

而して各委員會には日本語の出來る者が必ず一人はゐる。外國人が行つても獨乙語でやらなくて濟む。

日本人には約四千人ばかり入込んでゐるが、そのリストもある。そうして各國に向つて實に多角的な戰陣を布き、それにイデオロギーの團體が附隨してゐる。對英論者、對佛論者等々がゐて、彼等は各自專門の立場から各國に對する對策を樹てる。

論者、對佛論者等々がゐて、彼等は各自專門の立場から各國に對する對策を樹てる。だから組織自身の主體は非常に統一的ではあるが網の目の張り方は實に多角的である。

例へば軍事道路の建設をみても分る樣に、實に尨大なもので、コンクリートで固め、軍用自動車が十臺位並んで走れる。それを全部各國境に向けて拵へてある。そうして軍の訓練は何分間でチェッコの國境まで、何軍團の移動をなし得るかと云ふ樣な事を演習する。

またそれをかくさないで全部發表する。かくの如く、各國に對して危機の線を常に作る事によつて、戰はずして英佛等と手打ちをして行くと云ふのである。

驚くべき名簿の活用

獨乙の一番最初にやつてゐるのは、大藏省に直屬してゐる植民地委員會、それか

ら宣傳省に直屬してゐる文化院と文藝院、それらが連絡をとつて植民地問題をとりあげてゐる。

その中に全人口の名薄が出來てゐる。獨乙の人口は七千萬に一寸足りないが、二千四百萬人程度の者が外國にゐるのでその名薄は九千餘に及んでゐる。そうして世界の獨乙人分布地圖があり、それは色分けで書いてある。

その各地方の分布の綿密な地圖があり、それに番號が打つてある。

例へば伊太利のアルプス地方は大體獨乙系だが、その地方のAと云ふ人間をしらべたければ、伊太利アルプスのAの人名簿を出せば、その中にaを發見出來る。それにお爺さんからの全部の戶籍がついてゐる。そして思想系統、職業、ナチ關係の密接な所まで全部出てゐる。それで例へばブルガリアの某新聞を買收したいと云ふ必要がおこると、その名簿をとり出し、大體文筆業に携つてゐる者を分ける。それにナチの黨員が命令援助を與へる。このやり方は非常に功を奏して例へば、バルチック、中央ヨーロッパ、バルカンの通信綱は大體獨乙が手入れをして了つてゐる。

れにナチの黨員が命令援助を與へる。このやり方は非常に功を奏して例へば、バルチック、中央ヨーロッパ、バルカンの通信網は大體獨乙が手入れをして了つてゐる。

獨乙は大體原料をとつて生產品を賣込むのであるが、その商店にも入込んでゐる。それも赤リストが出來てゐる。

文化院の活動

それから大學等でも實際の工場と密接な連絡を持ち、それが他國の商店や工場と線を張つてゐる。而してそれらに皆援助金を出す。

ホテルも買收して皆獨乙人に經營させる。そのホテルがつまりナチ黨員の聯絡所である。これにも矢張り援助金を出してゐる。東アフリカ、西アフリカにさへ、一地方には必ず一軒獨乙系ホテルがある。また映畫會社を買收して行く。ラヂオ、新聞、雜誌、そう云ふ系統のものが、大體成功の域に達すると、それらが又逆に本國の植民地委員會にドン〳〵材料を送る。またそれが宣傳省の獨乙文化院に全部行く。

文化院と云ふのは獨乙の文化を國民に新らしくみせ、それを發展させる目的を持つてゐる。從つて展覽會場を全國に數十も常設してゐる。そこへ獨乙人の作つたものは何であらうと、例へばカメラ、映畫、美術、建築等々何でも展覽する。植民地委員會で取つたものは全部文化院に行き、編輯して新聞、ニュース映畫、カメラ雜誌に出す。

それをみると獨乙人はルーマニアは既に獨乙のものだ。アフリカの何處は獨乙のものだと云ふ樣にはかり、且つ誇りを感ずる樣になる。それから文筆に關するものは全部文藝院の許可を受ける。日本の樣にブラックリストを作るのでなく、發展させるために在るのだ。國內のものは勿論、植民地委員會からそこへ來たものは、悉く例へば出版すべきものは出すと云ふ具合だと。

戰後の世界經濟と金の將來

フンク經濟相の構想

第二次歐州大戰後の世界經濟はどうなるか。これは何人も知り度いところであるが、これに正しい解答を與へるには、

一、英獨何れが勝つか

二、獨乙が勝つにしても、戰後の平和機構を如何するか及び戰勝國の戰後に殘る經濟餘力の如何等がはつきりしなければならぬ。

これらがはつきりしない爲めに、未だ戰後の世界經濟について確乎たる見透しを持ち、これを勇敢に發表するの勇氣ある人はゐなかつたのだが、昭和十五年七月廿

五日獨乙經濟相フンク氏は記者團に對し、「來るべき歐洲新經濟秩序について」を發表した。

その內容を要約すれば、先づ獨乙は戰後伊太利と全面的に協力し、歐州諸國家を打つて一丸としたブロックを結成し、その內部で自給自足を行ひ、余力をもつて輸出を行ふ。

歐州の新經濟體制下にあつては、金本位制を復活せしめることなく、金を基礎としないマルク、換言すれば國民の勞働と國家によつてその價値を支持されたマルクが歐洲新體制下の通貨になる、と云ふにある。

戰後の通商戰

フンク氏の考へ方のごく大略は前記の通りだが、こゝに戰後の經濟を考へるに特に必要な文句（フンク氏の）を引用して考へを進めよう。

フンク氏は言ふ——新歐洲は自給自足經濟か或は輸出かと云ふ古いスローガンを

に必要な文句（フンク氏の）を引用して考へを進めよう。

フンク氏は言ふ――新歐洲は自給自足經濟か或は輸出かと云ふ古いスローガンを捨て、自給自足經濟、同時に輸出の新スローガンの下に邁進しなければならぬと。而してその通商の相手は中南米と日本を盟主とする東亞ブロックである。

ブロック經濟を確立して自給自足經濟を行へば輸出の必要はあるまい。ヒットラーが「輸出か然らずんば死！」と叫んだのは、獨乙が物資を輸入しようとすれば輸出――これも獨乙國民が食ふ物も食はず、飮む物も飮まず文字通り飢餓にたへ忍んでの輸出――を行はねばならなかつたからで大歐洲ブロックが完全に出來ればその必要はあるまいと一應考へうるがなか〳〵そうでない。如何なるブロック――日本を中心とした東亞ブロック、ソ聯ブロック、北米を中心としたアメリカブロック、獨伊を中心とする歐洲ブロック等――と雖も完全に自給自足の出來るものは一つもない。またブロック經濟の目標が封鎖經濟でもなく孤立經濟でもない。

米國の評論家リップマンが『何故に人々が自給自足を望むに至つたかに關する凡

ゆる理由のうちで、最も簡單な理由は、陸上及び海上の武力封鎖を恐れるからである』と喝破してゐるが確に當つてゐる。

ブロック經濟の目標は國民生活の必需品及び軍需品の對外依存を脫却するにある。ブロック經濟で一應の自給自足が出來たからとて安心して遊んでゐる譯には行かぬ。積極的に他のブロックと通商し、更に投資もしなければならぬ。

第二次歐洲大戰であれだけの豪華な大戰鬪繪卷を展開してゐる獨乙が、なほ平和品の製造にも大童であると云ふことは、獨乙の生產力が如何に旺盛であるかを物語るもので、東亞ブロックの盟主たる日本は一段と生產力擴充に拍車をかけ、東亞ブロック圈內の人々の要求する物を豐富低廉に供給するだけの覺悟と經濟的餘力を持たねばならぬ。英國敗退後の世界通商戰に於て日本の好敵手は何と云つても獨乙であるから。

ヴェルサイユ條約の教訓

第一次歐洲大戰に於ける戰勝國英佛が、第二次歐洲大戰では何故敗れたか。それには多くの原因があるであらうが、その最大の原因はヴェルサイユ條約にあつた。獨乙は天文學的賠償金を賦課され、海軍は一噸もなく、陸軍は僅に十萬しかもつことを許されなかつた。英佛はこれで獨乙は經濟的に參ると考へた。だが賠償金は一向に支拂はない。第一次歐洲大戰の廢墟の中に獨乙は新たなる產業機構を再建した。陸海軍及びその軍備は表面上なくても、その產業及び產業戰士は直に軍備及び軍人に變り得た。平清盛が鎧の上に法衣を着たように、獨乙では軍備の上に產業と云ふ法衣をきせた。

この產業力が物を云つて、七十トンのタンクも更に三十トンのタンクをつむ大飛行機も、また時速七百五十五キロのメッサーシュミットと云ふ飛行機等々新武器が

生れ、これらの武器を縱橫無盡に使ひこなす勇敢なるナチスの軍人が生れたのだ。

このことを考へれば、第二次歐洲大戰後の平和會議に際しては、敗戰國の經濟力特に產業力を完全に封印してしまはなければ數年を出でずして、復讐戰が行はれるであらう。

若し經濟力を完全に封鎖出來なければ、英佛の復興經濟力に敗けぬだけの猛烈な經濟力を獨乙は、常に持續しなければならぬ。その尨大なる經濟力は歐洲ブロック內だけでは消費し切れまい。

金は無用の長物？

ンンク經濟相が、『金に基礎を置かぬマルクが歐洲の覇權を握るべし』と斷じてから、俄然金無用論が再檢討され始めた。

獨乙の勝利で戰爭の幕が閉ぢた場合はロンドンがベルリンに移りポンドがマルクにその王座をゆづるであらうことは明白だ。その場合、ベルリンではロンドンに於

にその王座をゆづるであらうことは明白だ。その場合、ベルリンではロンドンに於ける程金の價値を高く評價しまい

今後の通貨の基礎觀念は『金によつてゞはなく、勞働力と生產によつて價値を支持された』ものであると云ふのがフンク氏の考へであり、これはナチスの天下になつて以來獨乙の採用して來た貨幣論を再確認したものに外ならない。

金貨を國內で自由に流通させ、また自由に兌換を行ふ金本位制度は十年も昔にその姿を消し、今は語り草になつてゐるに過ぎない、今や金は僅に國際收支の最後の淸算用具となつてゐるに過ぎない。フンク氏もこの點を認めてゐるのであるが、國際收支の淸算用具としてなら、金が各國に適度に分散してゐることが必要だが、世界の金の三分の二はアメリカに集中してしまつてゐる次第。「一體金はどうなるのか」これはアメリカの頭痛の種だ。こんな心配は贅澤な話だが、所謂「持てる者の惱み」と云ふ奴だ。

米國への金集中

米國はケンタッキー州のフォート・ノックスに二百億ドルの金を死藏してゐる。これを如何に處分するかは第二次歐洲大戰勃發前からの惱みであつたが、歐洲大戰勃發後は愈々痛切な問題となつた。何となれば、金はアメリカへ集中する一方だから。こゝで金のアメリカへ集中する經過を顧みよう。

金保有高の增大したのは一九三二年九月に英國が金本位制度を停止し、ポンド貨の減價を行つた時に始まる。ポンドの減價はポンド貨に對する金價格の引上げを通じて行はれたもので、それはポンド使用國の金生産者に巨額の補助金を與へると同一の效果を生じ、金增産に大きな刺激となつた。一九三四年には米國もドル貨の減價を行ひ、かくして今日世界の金産出高は每年平均四千萬オンス十四億ドルで、一九三〇年に比較するとその産出量に於て二倍、貨幣價値の上に於て三倍の增加を來

たしてゐる。

たしてゐる。

次に日本、獨乙、伊太利、印度等で退藏金の回收及び金の使用制限を行ひ、金の增產を圖るなど、懸命の努力をしてゐるので、これら諸國からの金產出量も激增してゐる。かくして今日世界中の中央銀行と國庫の金保有高を合計すると、時價二百六十億ドルに達し、一九三〇年の二倍半、一九一四年に比すれば六倍の增加に當る。

かくの如く增大した金が何故、米國のみに流入したかと云へば歐洲からの資本逃避（四十億ドル）と米國の財貨及び勞務に對する多額の支拂勘定（一九三四年から一九三九年までの間に米國は廿二億ドルの受取超過勘定）になつてゐる。

一九三四年の米國の金保有高は四十億ドル、世界の金保有高の卅六％であつたが今日では百九十億ドルを超え、世界金保有高の七〇％を占めてゐる。過去六年半の中に、米國の金保有高は百五十億ドルも增加した。この增加の內容を分析すると、廿八億ドルは、ドル貨の切下げによる金の評價換への結果生じたものであり、十億

ドルは國內の產出金及び屑金の回收、殘りの百十億ドルは外國から流入したものである。

然し百十億ドルの金の流入は前記の如く外國の資本逃避及び米國の商品輸出その他から齎らされるものだとのモーゲンソー大藏長官や聯邦準備局のゴールデンワイザー博士の說明だけでは納得出來ない。米國の金買入相場の引上げが大きな原因であるとみなければなるまい。

金不安をどうして解消させるか

かうした莫大な金を所有してゐることは、第一に米國の信用を膨脹させインフレーションが起る懸念が濃厚であつた。次には今日の米國は必要量以上の金を保有しながら、今後も高價で依然として世界の金を買ひつゞけると、やがて金相場が崩れはしまいかとの心配がある。こんな心配のあつたところへ、フンク氏の聲明があつたのだから、米國の神經はいやが上にもたかぶらざるを得ない。

たのだから、米國の神經はいやが上にもたかぶらざるを得ない。

ではこの金不安をどうして解消させるかと云ふに次の方法がある。

一、金買入政策の中止

この政策を採用すれば各國から米國の輸出に對する支拂手段をなくしてしまふ。これで一番困るのはアメリカの軍需品を買つてゐる英國である。またこの政策を實行すれば金の貨幣的職能は變つてしまふ。

二、金買入相場の引下げ

若し米國が金買入相場を引下げれば金恐慌となり、世界の金保有者は米國に金をダンピングしてゐる。また若し金の價格を一ドル引下げれば五億五千萬ドルの損失となり、米國の國庫に非常な損失となる。更に政治的にみると金價格の引下げには議會の協議を必要とするが、農村選出の議員等は、ドル貨の價値を引下げたことが商品價値を安定させた原因であると信じてゐるのであるから、金價格の引下げによ

るドル貨の昂騰に對して反對するであらう。

三、金買入相場は變更しないで流入金に課税する。

外國からの流入金に對して課税すると云ふことは實際上金の價格を引下げると同一の結果になる。

四、國際協定により金の生産を制限する。

これは平和な時代でも中々實現出來ないことであり、まして今日の戰國時代には到底言ふべくして行はれ難いものだ。

以上の四案いづれも帶に短し襷に長しと云ふ憾みがある。

米國は何をやるか

では米國は指をくはへてだまつて見てゐるかと云ふに、モーゲンソーは言ふ。

『金不安に對するたゞ一つの健全な方法は、米國への金流入を減少せしめると共に米國に流入した金を復歸せしめ、これを金流出國に於て有效に使用せしめることで

『金不安に對するたゞ一つの健全な方法は、米國への金流入を減少せしめると共に米國に流入した金を復歸せしめ、これを金流出國に於て有效に使用せしめることである。

かくの如き方法は、米國が全力をつくして、世界を平和な狀態に戻すと同時に、貿易を通常の狀態に復歸せしめるにほかならない』と。

だが米國の期待するが如き世界平和は前途遼遠だ。その間に金の流入は增加の趨勢を辿り、過當な信用膨脹とインフレーションの危險は刻々と迫りつゝある譯だ。ニューヨークナショナルシテイ銀行月報は金對策として次の如く揭げてゐる。卽ち

世界の商品價格を一般に引上げることによつて金の採掘費をたかめ、その生產を制限すると同時に、一方信用及び通貨の流通量增大をはかり、信用の基礎たるべき金に對する需要を增大させる。

これはインフレーションの不安を惹起するのみで、少しも事態を解決し得るもの

ではない。

かくして米國の金問題は依然として未解決のまゝであるが、米國は自分の政治經濟的勢力圏たる中南米廿一ヶ國は勿論遠く東洋にまで金による投資の手を延べてくるであらう。

東から米國の金、西から獨乙の物、この挾撃にあつて日本は何處に行くか。日本は確乎たる政治經濟の新體制を一日も速に確立し、戰後の通商投資戰に備へねばならぬ。

ヒットラー總統

小役人の子

舊獨墺國境にブラウナウと云ふ小さな税關町がある。ヒットラーはこの町の小役人の子として生れた。時正に一八八九年四月二十日。

彼の父は彼を官吏にしようとしたが、彼は父の官吏生活をみてゐるので、官吏生活を嫌ひ、子供心に世界一の畫家にならうと志した。父の死後美術學校に二年間通つた。この時代が一番幸福な時代であつたと彼は云つてゐる。

十六歳の時母を失ひ、天涯孤獨な少年ヒットラーは人生流浪の旅へと立つた。行先は!? ウィーンへ!! 彼は美術家たらんとして美術學校の入學試驗を受けたが失

敗し、建築場の見習工となり、ドン底生活の中にあつて勉强した。これが彼の一生を決定する重大な機緣となつた。

彼を偉大にしたもの

彼の家は貧乏とは云ひ乍ら判任官上りの父を持つ いはば中産階級の下層に屬してゐた。だから彼には勞働者の心理狀態と云ふものが分からない。然るにウイーンの勞働者の中に飛び込んでみて、初めて、彼等の氣持が會得出來た。彼に大衆意識をうえつけたのは此の時代の最大の收穫である。今日ヒットラーの演說が、獨乙國民をあの樣に動かすのはこの大衆の心の琴線にふれるからだ。

この收穫の外に、ウイーンの町での收穫は更に二つあつた。ウイーンの町は以前からユダヤ人が多く住んで居り、その勢力も强かつたから新聞、劇場、文學、學問等殆んどユダヤ人の支配下にあつた。

等殆んどユダヤ人の支配下にあつた。

そしてユダヤ人の國家を建設しようと云ふツアイオニストの運動も行はれてゐた。それらに對してヒットラーは次第に反感を感じつゝあつた所、賣笑婦を營業として利を貪り所謂白人奴隷賣買を行つてゐるのもユダヤ人であつた。

これを知つたヒットラーは、ユダヤ人に對して火の様な憎惡を持つ様になつた。

同時に彼の目に映じたのは、勞働運動の指導者が多くユダヤ人で、マルクス主義者である事だつた。

そして彼等が生活の不安に戰く無智な勞働者に對して、暴力的な專制を行つてゐる事を見た事だつた。彼はマルクス主義に對して烈しい憎惡を感ずると共に、實際運動に於ける暴力の價値をこれによつて知つた。この三つの觀念が彼の今日を築くのに與つて力あつた。

世界大戰に參加

一九一二年の春ヒットラーはウイーンの生活を清算して獨乙のミュンヘンに室內裝飾の畫描きの生活を見付けて行く事になつた。

ミュンヘンに來て二年目の一九一四年に世界大戰が勃發した。時に彼は二十六歲であつた。彼は直に志願し、バイエルン軍に編入された。一九一六年十月七日彼はソンムの會戰で傷つき後方に送られた。その時彼の見たものは、獨乙の青年が戰線で戰つてゐる時、ユダヤ人は銀行の帳簿の蔭にかくれて獨乙を支配してゐると云ふ事實であつた。

大戰中英國はタンクを發明した。この新兵器は何んな陣地でも無神經に破壞して行つた。獨乙軍當局はクルップ工場に獨乙式タンクの大量生產を命じた。然しユダヤ人の資本家は獨乙の戰勝より自分の算盤勘定の方に利口であつて、充分にタンクをつくらなかつた。

彼は一九一七年三月再び戰線に出て、勇敢に戰つた。そして休戰になる一ヶ月前に英軍の毒瓦斯にかゝつてあやふく失明する所であつた。この從軍で彼は鐵十字章

彼は一九一七年三月再び戰線に出て、勇敢に戰つた。そして休戰になる一ヶ月前に英軍の毒瓦斯にかゝつてあやふく失明する所であつた。この從軍で彼は鐵十字章を貰つた。

然し祖國獨乙はユダヤ人の跳梁によつて敗戰した。戰後の獨乙は共和國となり、社會主義が我が世の春を謳歌してゐた。

『何故獨乙は敗れたのか!! 獨乙はどうなるのだ!!』こう考へるとジッとしてゐられなかつた。

『そうだ獨乙を救ふ者は獨乙人あるのみだ!!』と彼は決意した。折からミユンヘン第二聯隊の市民講座が開催されてゐたので、その聽講生となり、熱心に勉強した。やがて彼はその才能を認められて、その敎官になつて敎壇に立つた。そこで彼は初めて自己の雄辯を發見したのだ。

獨乙勞働者黨へ入黨

間もなく彼は黨員僅か六名の「獨乙勞働者黨」へ第七番目の黨員として入黨した。一九一九年の春だつた。

彼の雄辯は忽ちにして彼を黨の有力者たらしめ、數ヶ月後には、早くも黨首に祭り上げられた。

こゝに於て彼はマルクス主義とユダヤ主義を撲滅し、獨乙民族の世界的優越をかち得ようと決心した。そうして新に『國民社會主義獨乙勞働者黨』を創立し、二十一年にはその黨首になつた。

現在ナチスの黨旗である赤地に白い圓を染め殘し、その中に黑の鈎十字を入れたのは、この當時ヒットラーの考案したものだ。この旗の意味は、赤は無産大衆を意味し、白はフランス革命に反對してブルボン王朝の反動政治を復活した時の色、鈎十字は反ユダヤ主義を象徵する純粋アリアン民族の表現である。

獄に行く

この頃の彼の運動方針は、合法的なやり方では黨員が獲得出來ないと云ふので、突撃隊と云ふ武裝團體をつくり、警官や共產黨員と正面から衝突する事を敢へて辭さなかつた。

同時にヒットラーの雄辯は、民衆の心を次第に握り、一九二三年には三百人の黨員を獲得した。

一九二三年十一月廿八日、歐洲大戰の勇將ルーデンドルフ將軍と共謀して、ミュンヘン一揆を卷起し、ヒットラーとルーデンドルフ元帥が、ミュンヘンの街を行進して伯林へ乘り込まうと計畫したが、當局の彈壓にあつてヒットラーは捕へられて投獄五ヶ年間の禁錮にされた。この獄中生活中八ヶ月かゝつて書いたのが、有名な『我が鬪爭』である。

遂に中原の鹿を射とめる

出獄後のヒットラーは、暴力の無益である事を知つて、合法的に選擧によつて政權を把握しようと決心した。

かくて一九二八年五月の總選擧には、十二の議席を得、次いで一九三〇年九月の總選擧には、一躍六百五十萬票を獲得、議員數は百七名に上り、社會民主黨に次ぐ獨乙の第二黨に躍進した。

それから二年後の第三代大統領選擧には獨乙國民の偶像であつたヒンデンブルグ元帥を向ふに廻して戰ひ、千三百七十萬票と云ふ多數を占めて第二位を占め、次の大統領はヒットラーだと云ふ事を國民の腦裡にしみこませた。

その年の七月卅一日の總選擧には、遂に二百卅の議席をしめて、第一黨となつた。

その翌年の一月三十日、即ち一九三三年彼四十四歳の時、宰相となり、それからの彼は無人の野を征く如く獨乙政界を濶歩した。

その翌年の一月三十日、卽ち一九三三年彼四十四歳の時、宰相となり、それからの

彼は無人の野を征く如く獨乙政界を濶歩した。

一九三三年五月十日には、獨乙三十の大學町で反獨乙的著書に焚書の刑を斷行して、獨乙文化の純化を圖り、また獨乙を食ふユダヤ人を國外に放逐して獨乙をして獨乙國民の獨乙たらしめた。

國內問題の解決、また對外的には國際的には、國際聯盟を脫退し、ヴェルサイユ條約の破棄等々、次々に獨乙の鐵鎖を斷つて行つた。一九三六年十一月廿五日には、日獨防共協定を締結した。

彼の私生活

彼の生活は實に簡素である。『我が鬪爭』からの印稅收入があるので、俸給も辭退してゐると云ふ事だ。

政治の大賭博には見事勝利を得たが、遊戲としての勝負事は一切やらない。菜食

主義であり、酒も煙草もたしなまない所に、彼の健康の基がひそむらしい。
婦人問題は少しもきかぬ。大體獨裁者が身を持する事嚴であるのは、そんな時間的餘裕がないのであらう。彼も昔からそうで、一種のピューリタン生活だと云はれてゐる。
繪は今日でも描く事があるが、主に建築を取材とするのは昔の名殘りであらう。音樂はパトロン的立場にあり、ワグナーを尊敬してゐる。本は藝術、音樂ものを蒐集してゐる。

涙の人

人は其の朋友によつて知られると云ふが、ヒットラーには朋友と名づけるべきものがゐないとジョン・ガンサーは其の著『歐洲の内幕』の内に述べてゐる。
永い間彼の最も親しい同人は、一九三四年六月卅日處刑された突撃隊參謀長エルンストレーム大尉であつた。現在最もヒットラーに親しい人は親衛プリュックナー

永い間彼の最も親しい同人は、一九三四年六月卅日處刑された突擊隊參謀長エルンストレーム大尉であつた。現在最もヒットラーに親しい人は親衞プリュックナー中尉である。また何等先約なくても意のまゝに面接出來るのは、リッペントロップ外相とシャハト財政顧問の二人である。情報秘書ディートリッヒの如き常任官吏は毎日ヒットラーに會へる。ゲエリングもゲッペルスも豫め約束をして置かなければ面會出來ない。

彼は決して感情を爆發させない。然し堪えられなくなると、つい激發して感泣する事がある。曾て同志オットー・シュトラッサーが脱黨した時、徹宵飜意させようとして三度も涙を下して泣いた相だ。

以下ヒットラーをとりまく人達をみよう。

ヒツトラーを繞る人達

ヒツトラーの後を繼ぐのは誰か

ヒツトラーの亡き後誰が獨乙をまもりたてゝゆくか。それは國民だ。ヒツトラー及びナチスによつてつくりあげられた今日の秩序ある獨乙は、たとへヒツトラー亡き後と雖も、決してナチス制覇以前の戰敗國の名を冠せられた屈從的な狀態にまで逆戻りはしない。

一九二八年を分水嶺として、ナチスの黨組織は逐年飛躍的に擴大した。殊に政權をとつてからは、全國民をナチスの組織內に吸收せんとし、またしつゝある。即ちナチスの組織は單なる一政黨の勢力でなく、全獨乙國民の全生活を、その組織で、一つの統一體にまとめあげようと努力してゐるのだ。ナチスそのものが、黨派的存

一つの統一體にまとめあげようと努力してゐるのだ。ナチスそのものが、黨派的存在を棄て丶、國民の中に解消しつ丶あるとも云ひ得るのである。

だから、今日ではヒットラー政權を脅かすに足る個人的勢力も黨派もない。

ヒットラーを思ふ存分仕事をさせ、かつそれを成功させたのは、實に獨乙國民そのものだ。粒の揃つた六千六百萬の優秀な獨乙國民がヒットラーの背後に在るのだ。

この背後の力の動きにヒットラーの名をレッテルとしてはり出してゐるのだ。だからヒットラー亡き後に、誰の名がレッテルに使はれようとも、國民の勢力の根本に動搖はない。

では誰がヒットラー亡き後の總統になるか。獨裁者の死後に内訌はつきものだ。この點につき大塚虎雄氏は『一時的には、黨の長老フリック内相を推して大勢の決するのを待つかも知れない。或ひは謹嚴で緩衝的存在とされる黨首代理ヘッスの起用を見るかも知れぬ。ゲーリング對ゲッペルスの勢力爭ひに或る種の歸結をみて、

ゲーリングが持ち前の横着さで、ドッカリと總統の椅子につくかも知れぬ。或ひはまた內訌を防ぐために、もしくは內訌に乘ぜられて黨外から陸相ブロンベルグあたりがかつがれるかも知れぬ。案外また前獨乙皇太子などが、ダークホースとして現れないとも限らない』と興味ある觀察をしてゐる。ところが第二次歐洲大戰勃發直前ヒットラーは我が亡き後はゲーリング、ゲーリングも亡くなつたらヘスにせよと遺言した。

ルドルフヘス

ルドルフヘスの生まれは、エヂプトのアレキサンドリア市富商の息子で、十四歳まではその土地で育てられてゐた。しかし彼はレッキとしたアリアン族である事は父がフランク族であり、母はヴンジーデルに發祥するスイス人であると云ふ事を彼の人物傳にはことわつてあると云ふ。

彼は父の商賣をつぐ意味で、ラインのゴーデスベルグに遊學した。

の人物傳にはことわつてあると云ふ。

彼は父の商賣をつぐ意味で、ラインのゴーデスベルグに遊學した。間もなく歐洲大戰となり、彼は志願兵となつて、ミユンヘンの步兵第一聯隊に屬して出征した。ヴェルダンの斥候戰で重傷を負ひ、一時は戰死と發表された。然し全快を待つて飛行學校に入り、卒業後は荒鷲となつて西部戰線に活躍、大戰の終り頃に少尉に任ぜられてミユンヘンの親衛隊の補充部隊に派遣された。この部隊にはヒットラーが一兵卒として屬してゐたのだ。

大戰終了後、ヘス氏は、再び商人を志し、經濟學と歷史とを勉强し、傍らミユンヘンにあつた國粹團體ツーレ社に加盟して赤色政府に對する反擊鬪爭に參加したりしてゐた。

そして或る晚、右翼愛國團體の會合で、ヒットラー氏と顏を合はしたのが機緣となつて彼は百八十度の轉向を見事やつてのけ、商人からナチス黨員になつた。

例の一九二三年のミユンヘン一揆では、彼は本部のビヤホール・ホーフブロイに

立籠つて、警官隊と社會民主々義者とを向ふに廻して大亂鬪を演じ、ビール罎で頭を強くたゝかれた。その裂傷が、今日二錢銅貨大の禿となつて、その痕跡を頭上にとゞめてゐる。

彼の强味は何と云つても、ヒットラーと極めて親密な點である。人格圓滿、何人の敵でもない彼は、副總理として、同僚間の斡旋役として最も適任者である。

彼は獨乙有數の日本通である。嘗て駐日獨乙大使館武官として熱心な日本の研究に從事した獨乙屈指の政治地理學者ハウスホーファー博士の助手として、彼はその著『太平洋の地理政治學』といふ論文の原稿整理をしたのである。

同僚中、ゲッベルス宣傳相に次いでの年少者だ。

ヘルマン・ゲーリング

胸に輝くボウル・メリト最高勳章

ヘルマン・ゲーリングは一八九三年一月バイエルンのローゼンハイムに生れ、父は嘗て獨領西南アフリカ總督であつた。彼は中央幼年學校卒業後一九一二年步兵第百十二聯隊の少尉に任官した。歐洲大戰勃發するや西部に出陣、彼は勇猛に戰つた。後志願して飛行隊に入り、最初は觀測將校であつたが、後に操縱術に長じて戰鬪將校となり、直に同僚及び敵軍の間にその卓越せる技術が認められた。

一九一五年十一月の空中戰で、彼はフォッカー機に乘つて戰ひ重傷を負つた。一九一七年五月には、第廿七編隊の長に任ぜられ、フランドルの戰鬪に加はり、彼の黑と白とに染めた飛行機は英軍からは Black and White と呼ばれて恐れられた。

而し英佛側の空軍勢力は増大する一方なのだ。更に防禦戰法が講ぜられ、驅逐編隊三が編成され、有名なアリフレット・フォン・リヒトホーフェンがその長となつた。リヒトフォーフェンが一九一八年四月戰死するや、ゲーリング大尉が編隊長となり敗戰に至るまで之を率ひ、一度ならず死線の巷を潜つて來た。

今日彼の胸間に輝くボウル・メリト最高勳章はこの時の彼の殊勳を物語るものだ。講和條約の結果、飛行隊の解散命令を涙と共に受諾した彼は、他日必ず强力な獨乙空軍をつくり上げる事を誓つたと云ふ。

現在の恐るべき獨乙空軍の充實こそ、當時の彼の憤懣の情が實現されたものだ。一九一九年スエーデンのストックホルムで商業飛行士となつてゐたが、そこでカフン・ハル夫人と結婚した。飛行中一羽の鷗がプロペラー中に飛び入り、プロペラーは微塵に碎けた。然し彼は辛うじて歸る事が出來た。

祖國改造の一念發起

大戰後社會民主黨政府にあきたらず、祖國改造の一念から政界に志した。そして一年からやり直すつもりで、ミユンヘン大學生となつて、歷史と經濟學とを勉强した。

一夜ナチス黨の演說會に顏を出したゲーリングは忽ちヒットラーの雄辯に魅せられた。彼は忽ちヒットラーの傘下に走り、退役飛行大尉の肩書を持つて大學生ゲーリングが入黨第一の仕事は、突擊隊の隊長であつた。

一九二三年十一月九日、ヒットラーはミユンヘン一揆を起したが、大望は畫餅に歸してヒットラーは捕へられて、ランヅベルグの監獄へ、ゲーリングは政府軍の機關銃射擊により重傷を負ひ、同僚は彼を吊臺に乘せて、國境をこえてチロールに奔つた。重い肺炎に惱みつゝあつた彼の妻も直にその後を追つた。夫婦はインスブル

ックに相會した。この地にも永く留る事が出來ず、彼等は更にベニスに走り、ローマに逃げた。ローマのファッショは獨乙の國粹主義者ゲーリングを厚く保護した。これが契機になつて、今日ファッショとの聯結は堅く結ばれてゐる。

ハンガリーよりポーランド更にデンマークへとゲーリングとその妻は逃げ遂にスエーデンに至つた。一九二七年特赦命の恩典に再び懐しの獨乙へ歸るまでの五年は經濟的壓迫と窮乏、その揚句の果が、數年の間艱難を伴にした妻の病死であつた。一九二八年國會議員に當選し、ヒットラーの代理者としてベルリンに定住する事になつた。

ヒットラー派の大立物となる

ゲーリングが、眞にヒットラー派の大立物となる契機は、ナチスの重鎭グレゴアシュトラッサーの策動を抑へてからである。

シュトラッサーは、ナチスの全國組織部長で、且つ國民社會主義在鄕軍人團の首腦であり、中々大きな勢力を持つてゐる。このグレゴア・シュトラッサーが政權に

シュトラッサーは、ナチスの全國組織部長で、且つ國民社會主義在郷軍人團の首腦であり、中々大きな勢力を持つてゐる。このグレゴア・シュトラッサーが政權に焦慮した結果、シュライヘル將軍と結んで聯合内閣を起した。そのためにナチスの陣營は二つに分裂してしまふかと思はれた。この時ゲーリングは、去就に迷ふ日和見黨員を叱咤して、逆にシュトラッサー一派を孤立せしめ、その勢力を黨外に追ふと共にナチスの危機を救つたのである。

一九三二年八月卅日選ばれて國會議長となつた。

ヒットラー政權樹立するや、ゲーリングは一躍プロイセン首相に進み、航空大臣となり、またお手盛で退役飛行大尉から一足飛に歩兵大將となり、ベルリンのエーベルト街をゲーリング街に改稱させる等、飛ぶ鳥をも落す勢力を示してゐる。

夫人はゲーリングが國會議長となる前年の三二年に死んだが、其の後獨乙の女優エミイ・ゾンネマンと相識り、三五年四月には盛大な結婚式をあげた。

現在彼は元帥として、空軍の統轄に任ずる一方、プロイセン首相として、第二次

四ヶ年計畫實施全權者として廣大な權力を握つてゐる。
彼が黨部及び軍部の間に持つ信望は全く不動のものであるが、これは主として、彼の持つ絶大な實行力の賜である。
彼は倦む事なき鬪爭心に燃えてゐる。そのために、彼の敵はあくまで彼を憎むが彼は直情徑行、極めて天眞爛漫で、一般國民の間にヒットラーに次ぐ人氣を持つてゐる。

ヨゼフ・ゲッペルス

――哲學博士の肩書――

ゲッペルスは一八九七年十月廿九日、ラインランドのカトリック教徒たるウエストファーレンの農家に生れた。彼がラインランドに生れた事は、彼が愛國者として起つ事に大きな關係がある。何故なら、大戰後佛軍はラインランドを占領し、彼の故郷はその軍政下にあつたのであるから、彼がまづ反佛運動に共鳴したのは首肯出

故鄕はその軍政下にあつたのであるから、彼がまづ反佛運動に共鳴したのは首肯出來る。

彼はボン、ミュンヘン、ケルン、ベルリンの大學で歷史、藝術史、言語學を專攻した後ハイデルベルク大學で哲學博士の榮位をうけ、今日まで十數冊の本を出してゐる。

一九二二年ミュンヘンにてナチスに入黨した。

勃興の氣運にあるナチス黨にあつて、その瘠せた身體に熱情的意志と燃える樣な向上心が包まれてゐるので、間もなく幹部になつた。入黨と同時に故鄕に赴いて同志を募つたが、その雄辯は夙にヒットラーの認むる所となつた。

怖るべき雄辨の力

一九二六年ヒットラーがベルリンにナチス支部を創設すると同時に、彼は機關紙

『アングリフ』を創刊し、四年の間得意の筆と舌とを以て活躍した。彼がミュンヘンに次ぐナチスの地盤をベルリンに築きあげた事は大きな手柄であつた。

彼は辯舌に長ずるのみならず、文筆もまた巧みで、文學的技巧と政治的事項とを巧に結びつける術を知つてゐる。彼は宣傳家としてアメリカ式方法を獨乙化し、常に新らしい思付を考案してゐる。

その性格は極めて直截、時には意表に出る無遠慮且つ强硬な態度を示す。嘗て『アングリフ』紙上に『ヒンデンブルグは未だ生きてゐるか』と云ふ見出をつけ、老大統領から名譽毀損として八千マルクを請求された事もあり、また或る時は一時に百數十人の人達から損害賠償の告訴を提出された事もあると云ふ。

文化統制の總本山

一九三三年三月、彼が國民啓蒙宣傳相に任ぜられると『國民保護』の名の下に、社

會主義共產主義系の新聞の徹底的彈壓を敢行し、數年間に千四百種の獨乙新聞（主

會主義共産主義系の新聞の徹底的彈壓を敢行し、數年間に千四百種の獨乙新聞（主としてユダヤ系）を廢刊した。のみならず獨乙文化の獨裁官を以て任ずる彼の獨乙文化統制は極端な位で、ラヂオの統制から續いて、演劇、映畫、音樂、美術、科學等にまで及び、各方面のユダヤ系學者、藝術家は悉く國外に追放された。

『宣傳の目的は、たゞ一つ大衆を征服する事だ。この目的に適へば手段を選ばず、これに適はぬものは悉く不用である』と叫ぶ彼は、大群衆を一堂に集める戰法を發明して、ナチスの人氣に油をさす役割を見事に果たすのである。大衆を魅了するナチスの凡ゆるユニホーム、徽章、ヒットラーの入場を待つ姿勢、行進等は彼の頭から絞り出されたものである。『實にゲッペルスはナチスの演出係として不可缺の人物である』と。（外務省情報部、獨乙讀本）

獨乙世界觀の基礎は日本に在る

獨乙の世界觀は、獨乙國民の再出發をなすため、歐洲の世界觀に求めて之を得ず、光を東洋に求め、教へを東洋の哲學に乞ひ、殊に日本と日本の民族精神の歷史的發展に深い訓へを取つた。

此の下に近代國家獨乙の科學と產業とをとつて組織したものである。從つて其の世界觀は防共協定諸國の間に極めて共通の要素を含み、これらが一つの新世界體制を生む事は當然である。

アルフレッド・ローゼンベルク

アルフレッド・ローゼンベルクは一八九三年一月、當時の露領、現在のエストニアの首府タリン(レヴアル)で生れた。リガとモスクワの工科大學に學んだ技術家出身であるが、ユダヤ人排斥とボルシエヴイキ攻擊の果敢な鬪士として靑年時代からならしてゐた。

一九一八年卒業後、獨乙に來た時、初めてヒットラーの演說をきいて感銘し、早

ならしてゐた。

一九一八年卒業後、獨乙に來た時、初めてヒットラ丶の演說をきいて感銘し、早速入黨したと云ふ獨身の變り種である。

ミュンヘン一撥の時、領袖ケルナの屍を越えて突進し、警官隊の一齊射擊にピストルを揮つて立向つた勇敢な一面を持つてゐる。

一九二三年に獨乙國民の國籍を獲得し、ナチスでは黨の機關紙フエルキッシャ・ベオバハターの主筆として重きをなした。彼は多くの著述をしたが特に『廿世紀の神話』は一九三〇年に上梓されてから、既に六十萬に垂んとしてゐる。これはナチス世界觀の基礎づけを試みた野心的な作品で、ノーベル賞を拒否した獨乙が、新に制定した『獨乙國民賞』を第一に授けられた程の問題の本である。

リッベントロップ外相

商人を希望

フォンリッペントロップは一八九三年ラインランドのヴェゼルに退役陸軍大佐の息として生れた。彼の兩親は富裕であつて、彼をメッツ、グレノーブル、ロンドン等に遊學させた。そのために彼は英佛語で自由に語れる樣になつた。學校を卒へると彼は商人になつてカナダに渡つた。そして一九一四年、大戰が勃發するや、彼はカナダをあとにして志願兵として戰線に立つた。騎兵隊に編入された彼は、東西の戰線に轉戰し、戰功により少尉に任ぜられた。一九一九年の平和會議には獨乙代表の隨員としてヴェルサイユに行つた。

一九二〇年にはまたもとの商人にかへつて持つて生れた懸引きの天才と得意の英語を以て、敗慘獨乙の衰弱した貿易界に縱横無盡に活躍した。

一九二五年には伯母か何かに當る八十才の老處女フォン・リッペントロップの養子となり彼は貴族の仲間入りをする事となつた。次いで彼は獨乙で有名な葡萄酒釀造會社の社長で獨乙民主黨の領袖ヘンケルの娘と結婚した。

一九二五年六月ヒットラーの暗躍時代に既に彼と親交を結び、彼のために軍資金

造會社の社長で獨乙民主黨の領袖ヘンケルの娘と結婚した。

一九二五年六月ヒットラーの暗躍時代に既に彼と親交を結び、彼のために軍資金を提供したと言はれる。一九三二年十二月にシュライヒア内閣が出現した時には、ナチ黨の前途は甚だ暗いものに思はれた。シュライヒアは國防軍の總帥として、飛ぶ鳥も落す勢力だつたのが、愈々政治舞臺の正面に乘り出して軍部をバックに强力政治を行はんとしてゐる。而も當時の大統領ヒンデンブルグは、ヒットラーに斷然組閣を許す意向がない旨を表明した。

ヒットラーとパアペンの橋渡し

そこでヒットラーに殘された道は、パアペン一派と提携してシュライヒア內閣の顚覆を計る外になかつた。リッペントロップは、從來對立してゐたヒットラーとパアペンとを一九三三年一月四日にケルンの銀行家フォンシュレエダアの邸宅で會見せしめ、兩者の妥協のために仲介の勞をとつた。このケルンの會談の翌週にはベルリン郊外ダーレムのリッペントロップ邸では、シュライヒア內閣打倒の策謀に引續

き、ヒットラー、パアペン、フウゲンベルグ內閣組織の協議が行はれた。

ナチ政權の擴大强化につれて、彼リッペントロップの前にも榮達の道が拓かれた。ヒットラーが首相となるや、彼は首相の外交顧問にあげられた。

一九三三年一月ヒットラー政權が樹立されるや、ナチスの外交陣は二人の知囊によつて固められた。一人はナチス外交の理論家ローゼンベルグ博士で、彼が外交國策を樹立する。他の一人はフォン・リッペントロップで、彼が外交々涉の實際に馳せ參じた。彼はヒットラーの外交懷刀である。

外交陣營きつての雄辯家

彼はその雄辯によつて黨內に重きをなし、特にシュトレエゼマン外交の辛辣な批判で人氣を博した。一九三三年獨乙が國際聯盟を脫退した後に行はれた國會選擧の際、彼も黨から代議士に推され、そして同時に突擊隊の部隊長に推された。

一九三五年の英獨海軍協定に對英三割五分の海軍協定率を獲得した事は、獨乙側の大成功として、彼の名を一躍世界外交界の花形にした。彼のかゝる成功の裏には

一九三五年の英獨海軍協定に對英三割五分の海軍協定率を獲得した事は、獨乙側の大成功として、彼の名を一躍世界外交界の花形にした。彼のかゝる成功の裏にはロオド・ロザアメエアの努力がある。ロザメアの『デエリー・ニース』はしきりにリッベントロップの提灯を持つた。リッベントロップとロザメアは若い頃からの親友であつた。

一九三六年には駐英大使に任ぜられた。彼が英國宮廷に招待を受けた際、チョージ六世の前で右手を高くさしあげて、例のナチ式敬禮を二度までやつてのけた時、禮儀のやかましい英國人は、彼を禮儀作法を知らぬ野人として非難した。(國際知識第十八巻第四號七三頁)

日獨防共協定が調印されるに際しては、彼は飛行機でロンドンからベルリンに飛んで歸つて來た。當時の獨乙外相はフォン・ノイラアトだつたが、リッベントロップが外相ノイラアトをさしおいて、防共協定に調印した。伊太利が防共協定に參加した際も、彼はローマに行つて、日伊の代表者と共に協定に調印した。

今日獨乙外務省に人多しと雖も、彼位商才にたけた人間は見當らない。多難な今後の獨乙外交はその敏腕に期待する所大である。

ウイルヘルム・フリック

ウイルヘルム・フリック博士は、一八七七年三月十二日、フアルッの官吏の子として生れプロレスタントである。マルチン・ルーテルがかくれた事のあると傳へられるアルゼンツがその郷士、ミユンヘン、ゲッチンゲン、ベルリンに學び、ハイデルベルグで法學博士を授けられた。

一九〇〇年から一九一七年まで司法官であり、其の後ミユンヘン警察廳に入り、こゝでナチスが小政黨より漸次成長して行くのを見、その力を知りヒットラーと近づきになつた。

一九二四年四月一日、ヒットラー叛亂に一味した彼は一年三ケ月の禁錮刑に處せ

られた其の後許されて出獄したが、出獄後も彼は積極的にヒットラーに近づき、一

一九二四年四月一日、ヒットラー叛亂に一味した彼は一年三ヶ月の禁錮刑に處せられた其の後許されて出獄したが、出獄後も彼は積極的にヒットラーに近づき、一九二四年十二月選擧には既に選ばれて國會議員となり、その法律的司法官的頭腦によつて認められた。

一九三〇年ナチス最初の洲大臣としてチユーリンゲン州内相となり、ヒットラー青年團に對する禁止を解き、左翼系教授を罷免し映畫『西部戰線異狀なし』の上映を禁じ、學校に於ける祈禱式を祖國的内容を以て行ふべき事を命じた。

三三年ヒットラーが政權を把握すると、彼はヒットラーの信任を一身にあつめて内相の椅子につき、今日に至つてゐるのであつて、其の間彼が聯邦制度の廢止、警察制度の整備、學校敎育の改善等について彼のあげた功績は極めて大きい。

彼は言ふ

『予が政治的に思考する限り、一事は明らかである。國家の本質は力である。内部及び外部に對する力である』と。

ヒヤマール・シヤハト

ヒヤマール・シヤハトは一八七七年の生れ、夙に經濟學博士の稱號を獲得し、廿七歳で既にドレスデン銀行副總裁となり、十三年も勤續して、大戰後はロンドン、ヘーグの賠償委員會專門委員をつとめた。

次いで二三年には獨乙のインフレーションの後始末をするため中央銀行總裁となり、その敏腕を謳はれた生え拔きの銀行屋さんである。

一九三〇年、時のブリューニング內閣のデフレーション政策及びこれとならんだ輸出促進政策に反對して、彼は國立銀行總裁の椅子を投げ出したが、この頃から彼は急テンポにナチスに接近し、フーゲンベルグの獨乙國權黨とナチスとの聯合政權の讃美者となり、ヒットラーの經濟政策は決して不隱でないと力說して、內外の實業家の中を說き廻り、遙々八重の鹽路を乘り越えて米國にまで遊說したものだ。そしてヒットラー內閣の成立と共に直に迎へられて、國立銀行總裁に返り咲いたので

業家の中を說き廻り、遙々八重の鹽路を乘り越えて米國にまで遊說したものだ。そ

してヒットラー內閣の成立と共に直に迎へられて、國立銀行總裁に返り咲いたのである。

彼の經濟政策は、インフレ的政策による國內的景氣の回復と、マルク價の安定との二つに要約出來る。

莫大な借金をした人間は、却つて貸主より安全であるといふ原理を捉へた最初の財政家はシヤハトであらう。彼は獨乙が借財國である事を資本とし、獨乙を『世界史上異例の賢明な破產者』とした。彼は今日既に第一線から退いた形であるが、中央銀行の總裁として活躍し、又ナチス初期經濟界の恩人として永く忘れる事の出來ない人物である事に相違ないと。（外務省獨乙讀本一一三頁）

彼は冷靜で、しかも强靱な男である。彼は上品な銀行家、しかも烈々たる獨乙魂の所有者だ。

獨墺合併の立役者　ザイス・インクワルト

ザイス・インクワルトは嘗て學校教師として教育界にあつたが、オーストリア・ナチが擡頭するや、これの同情者として登場した。併し彼は一面、前オーストリア首相シュシュニックと親交あり、國内ナチス派暗躍の情勢を屢々シュシュニックに傳へて、誤らざる情勢判斷を常に慫慂したと云はれる。

シュシュニックとヒットラーがベルヒスガーデンの會見に於て決定した約束に基き、シュシュニックが內閣改造を斷行してナチス分子を入閣せしむるに當り、インクワルトを內相に据えた事は寧ろ當然であつた。しかしこれは同時に又獨墺合併に拍車をかける事になり、國內ナチ分子の騷擾增大、次いで獨乙國防軍のオーストリア進軍となつた。これは獨乙としては豫定の筋書であり、インクワルトは、この場合單なるナチの傀儡としての役割を果したに過ぎなかつた。

獨乙軍が首都ウインを占據するや、インクワルトは拔き打ち的に新憲法を發表し

獨乙軍が首都ウインを占據するや、インクワルトは拔き打ち的に新憲法を發表して獨墺の正式合邦を宣言し、オーストリアはこゝに大獨乙主義の下に、ナチス第三帝國の一州となり、彼インクワルトは初代オーストリア州總監に任ぜられた。
彼は獨墺合邦の橋渡しの役割を演じた歷史的人物であり、この大史劇の主人役の一人だ。

ヒットラーの影武者

ナチス獨乙の指導原理は、全體主義理論で導かれるフューラー・プリンチープ（指導者主義）である。少數の優越せる指導者が、獨裁的統卒者として一般大衆の上に臨んで政治を行ひ、彼等を牽ひて經濟を運營する。かゝる政策である以上「大衆に優越せる指導者」を得る事がナチスの政治經濟を遂行する上において最も必要な事であり、この指導者組織は現に優れた人々を多く出してゐる。例へばヘス黨副總理

ゲーリング空相以下、リッペントロップ、ゲュベルス等々ヒットラー總統を取卷く首腦者達は、今や未曾有の人的豪華陣を誇つてゐる。

然し乍らこれらの人々は、表面に立つ指導者である。我々はこれら表面的指導者と共に政治の裏面にのみ動き、奥深き黑幕の蔭にかくれてゐる影の指導者達の存在を忘れてはならぬ。彼等は影の人物である以上政治の表面には殆んどその姿を現さない。また現してゐるとしても、その表面的な官職は實にとるに足らぬものであるか乃至は形式的なものに過ぎない。しかし實際の政治經濟を動かす點では、顯職にある表面的指導者に勝るとも劣らない勢力を持つてゐる。

殊にヒットラー總統の完全なる獨裁下にあるナチス獨乙に於ては、日々彼の側近に侍し彼の思考判斷に大きな作用を與へるこれら影の指導者の方がより大きな役割を演じてゐると云ひ得るかも知れない。(國際經濟週報第十九卷・第四十五號廿七頁)

ウイーデマン大尉

『ヒットラー總統の特使ウイーデマン大尉。ロンドンに急行』とはズデーテン問題が急迫して、彼がヒットラー總統の密令を受け英國に急行した時の新聞報道である。

全歐洲が第二次世界大戰の渦中に卷き込まれるか否かの重大な瀨戸際に、外交關係の大臣をさしおいてヒットラー總統が特別の使命を持たして英國に派遣したウイーデマン大尉なる人物は果して如何なる人物か。

『私は私の側近に眞實の友が欲しい、どうぞ私の所に來て、私を援けては下さるまいか、地位は貴方の望み次第です』

とは、ヒットラー總統が彼ウイーデマンを迎へる時の言葉であつた。ウイーデマンは歐洲大戰の頃、ヒットラー總統が一兵卒として戰線に立つてゐた頃のヒットラーの直接の上長たる中隊長である。

大戰終了後大尉は軍役を退き、バイエルンの山地に隱退して自然を相手の悠々自適の生活をしてゐたが、昔自分の部下であつたヒットラーがナチス政權を確立するや、彼は心からなる祝電を發した。

これを機會に其の後二人は度々あつては昔物語りにふけり、國家の前途を談じ合つた。

ヒットラーは度々彼の出馬を求めたが、彼は容易に應じなかつた。然しヒットラー三顧の禮もだし難く遂に一九三五年一月一日からヒットラーのために活躍を初めた。

彼が望めば如何なる地位をも得られたのに彼は別段表面に立つ事を欲せず、文字通りヒットラーの影武者として色々の資格で活躍した。ズデーテン問題の時にはヒットラーの特使として英國に使する事數回、またミュンヘン會議には側近者の一人としてヒットラーに扈從した。

ウイーデマンは、ヒットラーの居室近くに自分の部屋を持ち、ヒットラーの室に

ウィーデマンは、ヒットラーの居室近くに自分の部屋を持ち、ヒットラーの室に最も足繁く出入する。ヒットラーの彼に對する信頼は絶大と云つてよく、ヒットラーが彼と話す時は、いとも丁重を極め、彼がどんな事を話そうとも途中で遮る様な事はしない。ヒットラーが何か重大な事を決定する時は、腹心の部下の意見を叩くのを常とするが、かゝる場合彼は常識と誠意から迸り出る意見を述べるのだ。

エップ將軍

フォン・エップ將軍を最初にヒットラーに紹介したのは彼のレームであつた。共産主義嫌ひの彼は、最初からヒットラーの人物に惚れ込み、ナチズムに共鳴し、獨乙國防軍の現役にある間も陰に陽にナチス運動を援助して來た。彼は生粋の軍人で、十六才にして獨乙陸軍に入つて以來一九二三年獨乙國防軍から退役するまで前後四十年近くも軍隊生活を送つてゐる獨乙陸軍の最長老であり、殊にその出身地たるバ

イエルン地方では軍隊は勿論一般の市民からも非常な信望を得てゐる。

彼の主義主張は大獨乙の再建にあり、また共産主義を以て獨乙の不倶戴天の敵となす所完全にヒットラーの目指す所と一致してゐる。

彼が國防軍に在役中から、頑くなゝ國防軍の將領を次々に親ナチス派に口說き落してゐる。獨乙國防軍をナチス黨にむすびつけた最大の功勞者である。更に彼は獨乙共産黨の掃蕩にも與つて力あつた。一九一九年バイエルン赤色評議會をミュンヘンから追拂つたのも彼であり、一九二〇年ルールに於ける共産黨の暴動を鎭壓したのも彼であつた。

一九二三年中將で退役、直ちにナチス黨に正式入黨した。爾來彼は黨の軍事顧問としてナチス突擊隊の組織、擴充に多大の貢獻をしてゐる。然しこれは決して彼が畢生の事業として目指してゐる所のものではない。彼がヒットラーの懷刀として、ナチス獨乙の政策の上に重大な役割を果たしてゐるのは、軍事顧問としてゞはなく

植民地問題の擔當者としてゞある。

彼は現役時代から、植民地問題の研究者として知られ、現在では獨乙第一の植民地問題の權威者として自他共に許してゐる。

彼の植民地問題に對する關心は、彼が獨乙植民地軍の將校として、舊獨領西南アフリカに駐屯した時代から養はれて來た。

大戰後獨乙の海外領土が悉く失はれるに及んで、彼の植民地に對する關心、舊獨領に對する愛着は加速度的に深まつて行つた。共産主義の勢力が獨乙から全く跡をたつた今日、彼の前に殘こされた事業は植民地の奪還である。

ヒットラーは既に彼をナチス黨内に於ける植民地問題の擔當者たらしめてゐる。殘こされた獨乙最大の要求、植民地問題が漸く當面の政治問題化しつゝある時、ヒットラーの影武者フォンエップ將軍は如何なる畫策をめぐらそうとしてゐるのか注目に値する。

アドルフ・ワグナー

毎年ニュールンベルグのナチス黨大會に於ける恒例のヒットラー總統の開會宣言は必ずワグナーが代讀する事にきまつてゐる。このニュールンベルグ大會開會宣言は獨乙國會に於ける演說と並んで一年を通じてヒットラーの行ふ二大重要演說である。この重要な演說を何故ワグナーに代讀させるのか。ワグナーの演說はその音聲がヒットラーに似てゐるばかりでなく、斷乎たる口調と云ひ、その身振りと云ひ、すべてが壇上に於けるヒットラーを髣髴せしめる。

ヒットラーの雄辯は自他共に許す所だが、このヒットラーの雄辯にいきうつしなのがワグナーの雄辯なのだ。ラヂオの演說では、餘程馴れた人達でもヒットラーの演說かワグナーの演說か區別がつかない位である。

しかしヒットラーが彼を信頼し彼を重要視するのは、その演說のためばかりでは

しかしヒットラーが彼を信頼し彼を重要視するのは、その演說のためばかりではない。

彼自身がすぐれた政治家であるからだ。彼は伊太利ムッソリーニの崇拜者でもある。そして獨伊提携論者の急先鋒である。彼は一九三三年に早くも獨伊提携の今日あるを豫想して次の樣に述べてゐる。卽ち『獨乙と伊太利は間もなく歐洲の指導者となるであらう。獨伊兩國民の運命を變へたヒットラー、ムッソリーニの兩巨頭は、やがて歐洲の運命をも變へるであらう』と。

彼ワグナーがナチス黨に入黨したのは、比較的新らしい。然し彼のヒットラー支持の歷史は古い。遠く一九二五年、當時彼がバイエルン地方議會の議員であつた頃時の獨乙外相ストレーゼマンの軟弱外交を痛烈に攻擊し、議會での演說で『余は舊ロートリンゲン洲の獨乙系市民がストレーゼマン氏を暗殺しても決して咎むべきでない』と述べて、獨乙上下を震駭させたものだ。その頃から彼はヒットラーの抱く主義に共鳴してゐたのである。

彼は大戰の結果フランスに割讓されたローレン州の生れである。自分の故郷を敵國に奪はれた彼はヴェルサイユ條約により獨乙の受けた屈辱と打擊とを最も身近に感じた。これが彼をヒットラーの許に走らせた最大の原因であると云ふ。（前掲書廿八頁）

條約覆面の獨特使

——特派公使スターマー氏——

日、獨、伊三國條約締結發表まで覆面のまゝ陰にあつて目覺しい活躍をした人は今回の條約締結のためリッペントロップ獨外相の命を受けて九月七日來朝した特派公使ハインリッヒ・ゲオルク・スターマー氏であらう。

氏は當年四十六歳の男盛り、騎兵大尉として第一次歐洲大戰に參戰した名譽ある勇士、大戰後ナチ黨員となり、リッペントロップ外相の知遇を得、同外相の命を受けてアフリカに赴き實業に從事してゐた。その後間もなく歸國してリッペントロップ外相の官房長として活躍し自他共にリッペントロップ外相の懷刀として許してゐた存在である。昨年獨逸外務省の極東係をしてゐたラウアー氏の後任となり我國の出先使臣と親交を結ぶに至つた。

本夏ゴーター公に總領事の資格で隨行し、米、日、蘇等を視察した。今回は特派公使として日本の要路と折衝し、遂に三國條約締結の仕上げを行つたものである。

戰勝後のナチスの計畫

戰勝後ナチスは世界を如何するかにつき、ドロシイ・トムプソンを面白いことを書いてゐる。ドイツ人は、勝利を得た場合に何を爲さんと欲してゐるか、それに就いて明確なる計畫を有つてゐる。私は其の計畫の根幹につき詳細に亙つて知悉して居ると信ずるのである。私は相當多數のドイツ要人及びそれら要人と緊密なる關係を有する人達から其の計畫を聞知して居る。同じ筋から提供された戰略に關する情報を私は先取したが、その情報が悉く的中し、後から起つて來た事件により完全に確證されて居るのであるから、ますます以て私の知つてゐるドイツ人の戰捷後の計畫に確實性があるものと、自信を以て言ふ事が出來るのである。ドイツの計畫は、

歐州關稅同盟組織である。卽ちベルリンを中心に置く完全なる財政的、經濟的統制

歐洲關稅同盟組織である。卽ちベルリンを中心に置く完全なる財政的、經濟的統制を有するヨーロッパ關稅同盟の設立である。此の事は卽ち世界に於ける最大自由貿易地區及び最大の計畫經濟創設を意味する。西部ヨーロッパのみに於て――ロシヤは別問題である――技能、文化を有する、生活水準の高い白人四億人からなる經濟同盟を設定する。是等に加ふるにイギリス、オランダ、ベルギーの資源がある。是等は「ゲルマンの歐洲」なる名稱の下に聯合する。ドイツ人の目標とする所は政治上の支配力を從とする經濟的支配力であつて、その逆を意圖して居るのではない。領土的變化はこの事には關與しない。ベルギー國王は王位に留まり、更にオランダ王位を以て報ひられるかも知れない他の政府が組織されるにしても、すべて國家としては獨自財政、經濟制度、或は其の關係に關する統制力を保有しない事になる。すべて諸國のナチス化は經濟的壓迫に依り遂行される。餘程以前からすべての國家に於て協調的實業家及び工業家との接觸が開始されてゐる明白に敵對的であつた連

中はボイコットに依り罰せられる事になる。ドイツの占領軍は聯合軍と相互に親睦し、大社會を相手に納得させるのであらう。

ロシヤは侵略されるか

我々は政治的制度には何等關心を持たぬ。スターリンは我々と協力するだらう。我々は油井産出物の增加及び鑛產物採掘時に於けるロシヤの運輸制度の機構にのみ關心を有するのである。ロシヤには我我の技師連が多數出掛けて居り更に多數の行く事を歡迎されるであらう。ロシアの制度は結構であるが、それはナチ的訓練を要し、またその採掘の爲にはドイツの專門的技術を要する。スラヴ人は一致協同する事が出來ない。ナチスはいづれの國に於てもプロレタリヤ勞働者が深刻に自分等に反對するとは信じてゐない。彼等ナチスは全民主主義政治に於ける傾向が表示して居る事は、勞働者はたゞ物を食し、仕事を有するだけである。國家的事態に對し、

また個人の自由に對しては關心を更に持たぬ事であらうと論じて居る。更に彼等は

また個人の自由に對しては關心を更に持たぬ事であらうと論じて居る。更に彼等は次の如く附言す。即ち若し利益がありさへすれば、資本家のじない事は何もないのだ。民主主義政治が人民、勞働者團體指導者に敎へた事は、金のみに信頼を置くべきであると云ふ事だ。そして最後にドイツ人のみが軍隊を維持する事を認容される。併し乍ら若しアメリカ合衆國が協力を欲するなら全軍備は根本的に縮少され得るのである。と。（東洋經濟十五―七―廿）

第二次歐洲大戰の教訓

昭和十四年九月一日から一ヶ年で、歐洲大戰の舞臺は獨乙側に有利に展開し、老大國英國も今や新興獨乙の前に屈伏しそうである。こゝに歐洲の動きと日本への影響を打診し、獨乙戰勝の教訓を味ひ度い。

伊太利參戰の影響

伊太利の參戰によつて、わが船舶の地中海航行は不可能になり、年約三億圓に達する歐洲からの輸入、約二億五千萬圓に達する對歐輸出は一應支障をきたすものとみていゝ。次に輸出一億五千萬圓、輸入九千二百萬圓に達するアフリカ貿易の減退が見逃せぬ。

が見逃せぬ。

最近の對歐、對アフリカ貿易を示せば左の通りである。（單位千圓）

○對歐洲貿易

	輸出	輸入
昭和十二年	三五六、二九八	五〇四、〇〇一
同　十三年	二六一、〇三六	三七六、二六九
同　十四年	二三八、二五六	三〇九、九三五

○對アフリカ貿易

	輸出	輸入
昭和十二年	二四二、七三五	二〇六、三〇四
同　十三年	一三七、三三六	六〇、六二一
同　十四年	一五二、九〇八	九三、七八七

伊太利參戰により、日本工業界の蒙る影響は大きい。卽ち工業用原料鹽、加里鹽、水銀の輸入杜絕である。工業鹽について云へば、最近百七十萬トンの必要量のうち百萬噸は遠海鹽、七十萬噸が近海鹽（主として滿洲、北支の鹽）で賄ふ計畫であつ

た位であるから、伊太利が參戰することにより、遠海鹽の主要產地たる伊太利領ソマリーランド及びエリトリアからの輸入が杜絕すれば大問題である。

また水銀についてみるに、伊太利が世界有數の產地である關係から、日伊通商協定に基き可成りのものが日本に來てゐる——勿論伊太利の水銀だけでなく、スペインの水銀も日本にとつて重要である——。

伊太利の參戰により、伊太利水銀の買付が不可能になれば、日本としては、スペインと別途に協定するか、兩國以外に、メキシコ、或は漢口を中心とした一帶より輸入する必要が生ずる。

外鹽の輸入が杜絕すれば、苛性ソーダの生產、ひいては人絹工業の生產が減少する。そうなると、折角の輸出伸張の好機を逸することになるから、早急對策をたてる必要がある。差當つては、中南米方面からの外鹽並に苛性ソーダの手當に努力すると共に、速に圓ブロック內に於ける積極的工業鹽增產計畫を樹立すべきである。

鹽が手許にないでは、工業國日本もどうにもしようがなく、青菜に鹽だ。

佛國降服の日本に及ぼす影響

地中海の制海權が獨伊側に歸し、印度洋東南洋の海上危險が增加して、東南洋の海運貿易關係が支障を受け、殊にこれが、佛領印度支那（略して佛印）ニユー・カレドニアに及ぶことは日本にとつて重大關心事である。

佛印については、既に英米佛の共同管理案が發表されて居り、その歸趨については注目しなければならぬ。

佛國は戰時貿易措置の實施にあたつても、佛印の石炭、鐵鑛、ニユー・カレドニアの鐵鑛の對日輸出については特別の緩和措置を講じて來たもので、この關係が狂へば日本としては物動計畫上重大な支障が生ずる。

次に、佛國が屈伏しても、英國の單獨抗戰が放送されてゐるが、今度は英國が逆

に獨乙から經濟封鎖をうける惧れがあり、かくして列國との極東方面に於ける外交關係はいよ〱微妙となり、日英通商關係に及ぼす影響も大きい。

三ッ巴の亂戰

――もめた鐵鋼値上問題のうらおもて――

第二次世界大戰のとばつちりが、日本の鐵鑛問題となつて現れた。卽ち日本の鐵鑛製造にはスクラップ（屑鐵）が絶對に缺くべからざるものだが、この輸入先は米國であり、第二次歐洲大戰の本格化に伴ひ、スクラップの需要激增し、價格が騰貴したところへもつてきて、圓爲替相場の低落したため、スクラップの輸入價格は昂騰の一路を辿り、昭和十四年九月一日頃に比し二倍近くになつた。この外に運賃、炭價の昂騰のため、鐵の原價は高くなる一方であるのに、販賣價格は一向に上げられない。寧ろ鐵は支那事變勃發以來三度も値下してゐる。卽ち普通鋼材の製造業者販賣價格は十三年一月、同十二月、十四年七月の三回に亘つて引下げられ、事變當

販賣價格は十三年一月、同十二月、十四年七月の三回に亘つて引下げられ、事變當初トン當り百九十五圓であつた丸鋼標準物は、今月百八十六圓（手取り百六十八圓）となつて居り製鋼用銑鐵も十二年七月以來トン當り八十一圓に釘付されてゐる。

そこで鐵鋼價格の引上げを鐵會社が要望したのに對し、商工省は、藤原式腰だめで、値上げを認めやうとした。その程度は鋼材建値最低三十五圓、銑鐵同二十圓であつた。然し鐵は凡ゆるものゝ基礎であり、特に愼重を期するために、物價對策審議會にかけて、はかつたところ、値上げには大々的反對で、値上げ贊成論者は平生釟三郎氏一人で、値上げ反對の急先鋒は石渡書記官長であつた。

そこで物價對策審議會でも、もてあまして閣議に送つたところ、こゝでも大いにもめた。値上げがいけなければ、補助金を出せと云ふのが陸軍の主張である。陸軍は鐵の最大需要者として、鐵の値があがれば、陸軍の豫算で入手し得る分量は少くならざるを得ない。それでは國防の完璧は期し得ないと云ふにある。商工省・物

價對策審議會、閣議と三ッ巴の亂戰振りである。

何故補助金を出さぬ

それでは補助金を出すかと云ふと、その金額は莫大になり、臨時議會を開いて協賛を得なければならない。そんなことをしたら、臨時議會は鐵の問題から外交問題に飛火して收拾がつかなくなり、下手すると內閣の屋臺骨がぐらつくかも知れない。そんなことはこまると云ふので、大臣連は、次官會議に問題を移した。次官會議の結果はと言へば――

一、政府は業者の組織する屑鐵輸入會社に對して、總動員法第九條を發動して、輸入命令を發し、屑鐵輸入を命ずると共に、その內地販賣價格との差損に對しては、總動員法第廿七條に基いて國家が補償する。

二、今後の製鐵事業界の混亂、行詰りを打開するために、官民有識者より成る、

二、今後の製鐵事業界の混亂、行詰りを打開するために、官民有識者より成る、

鐵鋼對策審議會を設置して、第七十六議會（來議會）までに鐵鋼の根本對策を樹立すると云ふにある。

其の後、損失補償を輸入屑鐵のみに限定せず、コークス用石炭及び輸入鑛石に對しても補償することに改めた——六月十五日の物價對策審議會で。

これでさしも揉んだ鐵鑛値上げ問題も一應ケリがついたが、その意味するところは重大である。卽ち、從來、輸入價格の値上りによる國內物價の値上りは當然のものとして認めてゐたのに、今回は必らずしも認めないで、國家が損失を補償することにしたと云ふ新手である。

若し鐵を値上げしたら、米の二の舞を演ずることは明らかだ。そこで『値上げは絕對に行はず』と言明して低物價政策堅持の方針を明示したことはいゝことだ。

更に損失補償の場合も輸入原料の値上げに對してだけに限つたことは、國庫負擔の限度を明にしたのみならず、國內事情の變化を理由とする値上げ乃至補助金交付

を明白に否定した點は意義あることである。

だが今回の解決法に對して滿點をつける譯にゆかぬ。

政府は銑鐵鋼一貫作業を奬勵しながら、今回の解決法によれば、かゝる一貫作業をやる會社は窮屈になり、屑鐵を使用する平爐業者は有利であり、これでは政府の企圖するところとは反對の結果になる。

更に今回の解決法を實行しても、製鐵業の採算が依然として苦しいことであらうし、近い將來に業界の根本的整理合同の必要が生ずるであらう。その場合に徹底的對策を講じなければ、國防國家の建設は不可能である。

獨乙の勝利は、經濟政策と軍事政策の合致してゐる點にある。

經濟も政治もすべて全體主義の立場から批判し指導して來た。その結果は今日の獨乙の榮譽となつた。日本の鐵の問題をみると、そこに「儲からぬから製造せぬ」との考へが入つてゐたが、果してこれでいゝか。大いに考へねばなるまい。

との考へが入つてゐたが、果してこれでいゝか。大いに考へねばなるまい。

獨乙はなぜ勝つた

――ヒットラーのえらさ――

獨乙戰勝の第一原因は指導者ヒットラーの偉大なることにある。氏は第一次歐洲大戰に一兵卒として出征し、戰傷を負つた位で、兵が何を望み、何を考へてゐるかを知つてゐる。從つて兵と氏との間には靈魂の相通ずるものがある。

また氏は自分の國力を正しく認識してゐる。孫子の云ふ「兵は久しきを貴ばず」で卽戰卽決主義である。

九月になれば、ロンドンは有名な濃霧のため、獨乙飛行機の活動は全然不可能になる。更に石油の貯藏量から見ても八月一杯で戰爭の幕をおろしたいのであらう。これがまた兵の氣持とピッタリ合ふのだ。

氏は今日に至るまで獨身だ。嘗て英國の小ピットが、ナポレオンの侵略に抗し、

「余が妻は國家なり」と叫び、遂にナポレオンをして英國に一指をも觸れさせなかつたが、今やヒットラーは、國家あつて個人なく、その全生活は國家に捧げ、且つ身を持すること極めて謹嚴であると云ふ。

青年の意氣

獨乙青年の意氣が如何に物凄いものであるかは、次の事實が雄辯に物語る。即ち今度の戰爭で落下傘部隊は要塞の上に飛び下りて、トーチカの銃眼から、爆彈を投げ込んだり、ロッテルダムでは百人の落下傘部隊が三日間橋梁を死守して機械化部隊を通過させた。

「上これを行へば、下これに倣ふ」の古言の通り、ヒットラーにして、この兵ありだ。

獨乙の飛行機製造能力

——魂だけでは戰勝は得られぬ——

英國の賴みの綱は米國だが、現在では米國が全陸海空軍をあげて英國を援助するか否か不明で、殘るところは如何に急速に大量の米國航空機の供給を受けるかにある。

五月下旬現在のアメリカの全航空機製造會社の注文引受高は十一億三千萬ドルに達してゐるが、一九三九年度の總賣却高は二億二千五百萬ドルに過ぎぬから、假に製造能力が一九三九年と同一とすれば、注文引受殘高を完全に果たすには今後五ケ年かゝることになる。いくら飛行機のスピードを出しても五年後に出來たのでは今日の戰爭の間に合はない。

これに反し獨乙の航空機製造能力は月產二千三百乃至三千臺であり、近い將來に

月産六千臺に達すると云ふ。これに對し米國の月産能力は五百機と云ふから、問題にならぬ。今回の獨乙の戰勝には獨乙魂が物を言つたことは勿論だが、魂の外に更に前記の如き優秀にして豐富なる武力のあることを忘れてはならぬ。

科學の總動員

新兵器、優秀なる武器の背後に科學の總動員のあることを見逃し得ぬ。この點を具體的に言へば、國防科學に關する研究は、すべてゲーリングを長官とする四ヶ年計畫部で統制してゐる。千餘の官民研究所に於ける研究事項はすべて統制して、同一の研究事項をバラ〳〵にやることを許さない、各研究所は毎年研究事項を政府に提出し、政府は緩急の順序を追つて決定し、これを行はせる。殊に軍事科學は陸軍省の内に科學統合機關があつて、十二の專門部門に分れ、その統制の下に、各研究機關が密接な連絡をとつてゐる。また技術の公開を行ひ、互に競爭的に優秀な技術

の練磨に努力させてゐる。

すべてが富國强兵のための準備

すべての基礎は敎育にあるが、獨乙では國防並に科學敎育が普及してゐて、すべての國民が科學、國防に關心をもつてゐる。この點から考へて日本の敎育は再檢討の必要がありはしないか。

また第十回オリンピック大會で未曾有の「民族の祭典」を擧行したが、當時つくつたスタデアムから宿舍等の一切が今日では軍事施設に利用されてゐる。獨乙には平和も戰爭もない。たゞあるのは、打倒英國!!　であり、獨乙の富國强兵のみ。

フランスは何故負けた

フランスが何故一敗地にまみれたか。その最大の原因は、共產主義、人民戰線の

運動の結果だが、前首相レイノーが「フランス敗戰の原因は、古い觀念が新らしい觀念に敗れた」のだと喝破したことは正しい。持てる國フランスは、平常の準備が足りず、國民の氣魄が拔けてしまつてゐた。新陳代謝が世界の法則であると云へ、嘗てナポレオンを生んだ佛蘭西は、果して何處に行こうとするのか？　その答はフランス國民の腹にあるのだ。

大獨乙廣域經濟圈

ドイツは舊ドイツ經濟圈に加へてチエコスロヴアキヤ、ポーランド、デンマーク、オランダ、アルサスローレン、バルカン、アフリカをもつて廣域經濟の第一圈とするのではなからうか？

詳言すれば、バルカン諸國のうちハンガリー、ブルガリヤ、ルーマニヤ、ギリシヤ、ユーゴ・スラヴイヤの一部は、すでにドイツと最も密接な關係にあり、貿易上

から見ても五割乃至七割まで戰前ドイツに依存してゐた。從つてこれ等地域は當然大ドイツ廣域經濟第一圏内に含まれることになるであらう。

アフリカは歐洲經濟の發展にとつて、離すことの出來ない重要な資源を有する。元來、歐洲に覇を稱へたものはアフリカを支配したものであつた。ドイツのアフリカ資源の獲得も、大ドイツ廣域の發展のために必要缺くべからざるものである。ドイツはアフリカで舊ドイツ領植民地を獲得するのは勿論、その他にも原料資源から見て、また政治・軍事上から見て重要な地域を獲得することになるであらう。今假りにドイツのアフリカ進出を、最小限度に豫想しても次の如くなるであらう。ドイツ舊植民地カメルン・タンガニカとその中間に挾まれた資源の豐富なベルギー領コンゴーはドイツの掌中に入るであらう。これ等の地域がドイツアフリカ政策の基地となり、その勢力は一方は特殊鋼の原料として貴重なコバルト・ヴアナジウムと、銅・金・ダヤヤモンドを産する北・南ローデシヤから南阿に進むことになるであらう。

他方、ドイツは英領スダンよりナイル地域を下航すると見られる。これ等の地域はドイツに上記の鑛物資源の他、棉花・ゴム・パルム油・大豆・麻・コーヒー・ココア・皮革・木材等貴重不可缺の資源を供給し得るものである。

大ドイツ廣域經濟第二圈としてフインランド、スウエーデン、ノルウエー、ベルギー、スペイン、ポルトガル、フランス、スイス、バルカンの殘された一部、近東および東洋における舊英・佛・蘭植民地の一部が包含されることも豫想される。これらの地域は貿易においては規則的にして確實なバーター制乃至は特惠關係或は關稅同盟をむすび、また資本・技術を通じて大ドイツ經濟と不分離の關係に置かれ、廣義の大ドイツ廣域經濟圈に含められることになるであらう。

卽ち(一)ベルギー、ルクセンブルグ、北フランスの重工業生産設備は、大ドイツ廣域經濟の中に含まれることになると思はれるが、それは、第一これらの生産力は、原料である鐵鑛石・特殊鋼の配合資材(アフリカ産)、燃料としての石炭・褐炭、動力

の供給においてすでにドイツに依存しなければならない立場に置かれてゐるからである。第二、ドイツの機械工業は、これら地域の製鋼業の消費先として重要性を増すであらう。従つてこれら地域は、その重工業を通じてドイツと有機的關係に立たされることになる。

(二)バルカン、北歐の農産物および原料とドイツの工業製品とが交易關係を深め確實化することもいふまでもない。

かくしてドイツの廣域經濟政策は、單にドイツと廣域經濟加盟國との商品貿易關係を、量的・質的に緊密ならしめることを目的とするのみでない。ドイツは指導國として廣域經濟加盟諸國の工業・農業・交通・人口の諸政策を大ドイツ廣域經濟の健全な發達といふ立場から全體的に計畫し、これが實現を强力に指導しようとしてゐる。これについては今日すでにウオルタート等ナチス經濟政策擔當者達は言明してゐるところである。

歐洲新同盟とその東亞への影響

大ドイツ廣域經濟政策はナチスの歐洲諸國に對する政治的支配力によつて支持されなければならない。これがために歐洲政治的新秩序は、次のごとくナチスによつてその形成が導かれるのでなからうか？

一、被占領地域の小國家が、たとひ政治的に獨立國家としても、既にドイツがこれ等の外交權を攝取したことを發表したのに見られる通りドイツへの政治的依存性は益々强められるに至るであらう。從來スウエーデン、ノールウエー、ベルギー、ルクセンブルグ、オランダは英・佛の政治指導力に依存して來た。だがこれ等の地域が、經濟的にドイツの支配下に立たなければならない運命にある。イギリス勢力の顚落後は、必然的に政治的にもドイツに依存せざるを得なくなるであらう。

二、フランスはファッショ化する可能性が强い。ファッショ・フランスはイタリ

ー、スペインとともにラテン・グループを構成し、これ等のラテン・ファッショグループが、北歐、東南歐洲、オランダ、ベルギー諸國を率ゐる大ドイツ・グループとともに、英國を含めた歐洲同盟を結成する可能性が十分に强い。

三、バルカン、スイスもこの歐洲聯盟に參加せざるを得ないであらう。

四、將來考へられる歐洲同盟がソ聯をも含むものであるが、或はこれを敵とするものであるかについて、吾々は將來の動向を見守らなければならない。直接東亞新秩序に重大な影響は、兩者の關係如何によつて異つてくるであらう。とも角、たとえ暫くの間にしろ、歐洲が一つの纒まつた統一的力として動く場合、この歐洲統一勢力が、太平洋沿岸諸國へ政治的・經濟的に干與するといふ餘裕も自然に增すものと、吾々は豫測してかかる可きである。

五、殊にオランダ、フランスの地位の變化は、直接吾々に影響する問題として注目されなければならない。

わが國においてはしばしば、ドイツは佛領インド支那および蘭領インド、ニユーカレドニヤ等に對して關心を持たないかの如くいはれてゐる。これほど危險にして身勝手な豫測はない。ドイツがこれ等の地方に對して、假令軍事的手段によつて進出することは現在のところ出來ないとしても、政治的・經濟的手段によつて自己の勢力範圍に置くことも考へられるところである。オランダについても、その獨立が果して戰後許されるかどうか、疑問であるといひたい。また、假令オランダが獨立國として存在することが出來たとしても、それは名目的な獨立であり、その政治・外交がドイツに百％依存しなければならなくなる可能性が强い。

以上のやうに考へる時に、われわれ日本人が蘭印、佛印兩問題について、强ひて自己に有利な解釋のみを下すことは危險なことである。また破產したこれらの國の留守番である植民地の總督とどんな話合を定めても、それが空手形としての價値しかなくなることもありうるであらう。

かなくなることもありうるであらう。

と今野氏は述べてゐる（エコノミスト十五—七—廿二）が、確に味ふべき言葉で、外交には永遠の敵も永遠の味方もなく、たゞあるは國家永遠の繁榮のために政治、經濟、外交を打つて一丸として多事多端に國際情勢に對處するのみである。

アフリカ植民地を如何するか

佛、ベルギーの二國は今や獨乙の前に屈服し、英國また風前の燈の感があるが、これら三國は植民地を持てる國であり、戰後の獨乙が三國のアフリカに持つ植民地を如何するかは興味ある問題である。こゝに英佛ベルギーのアフリカ植民地の概貌を國際經濟週報（十四—十一—廿三日）により伺つてみよう。

〔第一表〕　英領アフリカ現勢

名稱	統治關係	獲得年度	面積（千平方粁）	人口（千人）
東アフリカ				
英領ソマリランド	保護領	一八八四	一七六	三五〇
ケニヤ	植民地	一八八八	五八三	三、三三四
ウガンダ	保護領	一八九四	二四四	三、七一一
ザンジバール	植民地	一八九〇	二・六	二四三

ザンジバール植民地	一八九〇	二・六	二四三
タンガニイカ委任統治領	一九一九	九六九	五、一八三
ニヤサランド保護領	一八九一	一二四	一、六三九
南アフリカ			
南阿聯邦自治領 {ケープ、ナタール、トランスヴアール、オレンヂ}	ケープ 一七九五 一八一四 ナタール 一八四四 トランスヴアール 一九〇二・ オレンジ 一九〇二	一、二二二	九、八八九
ベチユアナランド	一八八五	七一二	一二〇
バストーランド保護領	一八八四	三〇	五七〇
スワジーランド、	一八八四	一七	一六〇
南ローデシア、	一八九〇	三八九	一、二二〇
北ローデシア植民地	一八九〇	七四六	一、四〇〇
南西アフリカ、南ア聯邦委任統治領	一九一九	八三五	三六五
西アフリカ			
カメルーン委任統治領	一九二三	八九	八三一

ニジェリア	植民地	一八六一	八七七	一九、六四六
トーゴーランド	委任統治領	一九二〇	三四	七八一
ゴールド・コースト	植民地	一八七一	二〇四	三、三八七
シエラレオネ	〃	一七八七	七一	一、九〇〇
ガムビア	〃	一六六一	一〇	二〇〇
北アフリカ				
アングロ・エジプト・スーダン	英埃共同統治領	一八九九	二、五二一	六、一八七
島嶼				
セーシェル諸島	植民地	一七九四	〇・四	三一
モリシアス諸島	〃	一八二〇	二・一	四一三
セントヘレナ諸島	〃	一六五二	〇・二	四
アッセンション島	軍港			
英領総計			九、八五四	六一、四六三
埃及			一、〇〇〇	一六、〇三〇
英領以外総計			一九、〇九六	七三、四九三
大陸総計			二九、九五〇	一三三、六〇〇

リカ鑛産物

銅（千瓩）三〇年	銅（千瓩）三七年	鐵鑛（千瓩）三〇年	鐵鑛（千瓩）三七年	滿俺鑛（千瓩）三〇年	滿俺鑛（千瓩）三七年	石炭（千瓩）三〇年	石炭（千瓩）三七年
一八	二	二六	二九五	六八	二六九	三、三三三	一五、四九一
一	—	—	—	—	—	九三九	一、〇二九
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	三六七	—	—	—	—

〔第二表〕

英領アフリカ主要農産物

（單位、羊毛千瓩、其他千キン

品目	年度	南阿	埃及	スーダン	ウガンダ	ニヤサランド	タンガニイカ	ニジェリヤ
棉花	一九三〇—三四	九	七〇五	一四一	四〇一	一四	—	—
	三七—三八	—	四、九四六	六〇三	七五七	一八	一一七	—
小麦	三〇—三四	三、三四八	一一、七三八	五三	—	—	—	—
	三七—三八	二、七六四	三、三五〇	五六	—	—	—	—
玉蜀黍	三〇—三四	一五、六一五	一七、四九二	五九	—	一四	—	二七
	三七—三八	一六、四七一	一六、五三三	九七	—	六	—	六九
甘蔗糖	三〇—三一	三、五六七	一、二二八	—	—	—	—	—
	三七—三八	四、六〇一	一、二二八	—	—	—	—	—
カ	三〇—三一	—	—	—	—	—	—	四九五

領アフリカ主要農産物

（單位、羊毛千瓩、其他千キンタル）

花	小麥		玉蜀黍		甘蔗糖		カカオ		羊毛	
三七―三八	三〇―三四	三七―三八	三〇―三四	三七―三八	三〇―三一	三七―三八	三〇―三一	三七―三八	三〇	三八
―	三、三四八	二、七六四	一五、六一五	一六、四七一	三、五六七	四、六〇一	―	―	一五六	一一八
四、九四六	二、七三八	三、三五〇	一七、四九二	一六、五二三	一、二二八	一、二二八	―	―	一	一
六〇二	五三	五六	五九	九七	―	―	―	―	―	―
七五七	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
一八	―	―	一四	六	―	―	―	―	―	―
二七	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
―	―	―	二七	六九	―	―	四九五	九二六	―	―

一八	—	—	一四	六	—	—	—	—	—	—
二七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	二七	六九	—	—	四九五	九二六	—	—
—	二六	三九	一、三五六	一、二九九	—	—	—	—	—	—
—	—	—	三九七	七九三	—	—	—	—	四	三
—	—	—	—	—	—	—	一四二	一二七	—	—
—	—	—	—	—	—	—	二九	四六	—	—
—	—	—	—	—	—	—	二、三七六	二、三三五	—	—
—	—	—	八	—	—	—	一	—	—	—
三四	三一	一六八	九五六	八七八	九三	一六一	—	—	—	—
—	一二	五	一八六	一八七	—	—	—	—	—	—
五、八七四	一五、二九七	一五、三八二	三六、二一〇	三六、三三二	四、八七八	六、三六四	三、〇四三	三、三二四	一四七	一二五
*七、一〇〇	三六、一三〇	三五、四四〇	*五〇、七〇〇	*五二、〇〇〇	八、五八〇	*一二、五〇〇	三、五五〇	*四、四八〇	一七四	*一六〇
*八二、八〇〇	一〇三、四〇〇	*一、〇三六、七〇〇	八四、二〇〇	一、一七四、〇〇〇	一五六・七〇〇	一七二、六〇〇	五、五四〇	七、〇〇〇	一、七二九	*一、七六〇

…tical Year-Book of the League of Nations 1938—39 による。

〔第三表〕

英領アフリカ鑛産物

	金（キロ）		銅（千瓩）		鐵鑛（千瓩）		滿俺鑛（千瓩）	
	一九三〇年	三七年	三〇年	三七年	三〇年	三七年	三〇年	三七年
南阿聯邦	三三三,三一六	三六四,九八六	八	二	二六	二九五	六八	二六九
南ローデシア	一七,〇三三	二五,〇一四	—	—	—	—	—	—
タンガニイカ	三四四	二,三四二	—	—	—	—	—	—
ケニヤ	五六	一,七〇四	—	—	—	—	—	—
シエラレオネ	三	一,一一一	—	—	—	三六七	—	—
ゴールド・コースト	七,四九三	一七,三九三	—	—	—	—	三三	二八〇
ニジエリヤ	八	八三三	—	—	—	—	—	—
北ローデシア	二三四	一三三	六	三一	—	—	—	—
埃及	—	—	—	—	—	—	—	[illegible]

ールド・コースト	七、四九三	一七、三九三	—	—	—	—	三三	二六〇	
ジエリヤ	八	八三	—	—	—	—	—	—	
ローデシア	二四	一三	六	二一	—	—	—	—	
及	—	—	—	—	—	—	—	五四	
ーダン	二九	二〇	—	—	—	—	—	—	
チアナランド	六九	五四七	—	—	—	—	—	—	
ガンダ	—	五三七	—	—	—	—	—	—	
領計	三九八、六〇四	四四、七九一	—	二三	二六	六六三	二九〇	六〇三	二
アフリカ全部	三六五、二〇〇	四三、九〇〇	一五四	三七四	二、〇四三	三、二四四	三、三一六	六五四	二
世界	六四〇、〇〇〇	一、〇八〇、〇〇〇	一、五六六	*二、三三八	七九、八〇〇	*九八、〇〇〇	一、七七〇	二、九七〇	一、二三

*印推定 Statistical Year-Book of the League of Nations 1988—39 による。

アフリカ鑛産物

石炭(千瓩) 三〇年	石炭(千瓩) 三七年	滿俺鑛(千瓩) 三〇年	滿俺鑛(千瓩) 三七年	鐵鑛(千瓩) 三〇年	鐵鑛(千瓩) 三七年	銅(千瓩) 三〇年	銅(千瓩) 三七年	(…ロ) 三七年
三、三三三	一五、四九一	六六	二六九	二六	二九五	八	二	四、九八六
九二九	一、〇二九	—	—	—	—	一	—	五、〇一四
—	—	—	—	—	—	—	—	一、三四二
—	—	—	—	—	—	—	—	四、七〇四
—	—	—	—	—	三六〇	—	—	二、一一
—	—	三三	二六〇	—	—	—	—	七、三九三
三五三	三六九	—	—	—	—	—	—	八三三
—	—	—	—	—	—	六	三二	一三三
—	—	—	五四	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	二三〇
—	—	—	—	—	—	—	—	五四七

三	六	三	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	五四	ー	ー
二〇	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
四七	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
五七	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
、九一	ー	三三	二六	六六二	二八〇	六〇三	一三、五一五	一六、九六五
、九〇〇	一四	三七四	二、〇四一	三、二三三	三、三一六	六五四	一三、六八〇	一七、〇六五
、〇〇〇	一、五六六	*二、三三八	七九、八〇〇	*九八、〇〇〇	一、七七〇	二、九七〇	一、三三四、四〇〇	一、四〇七、四〇〇

he League of Nations 1938—39 による。

一	一	一	一	一	一	五四三	三六九
六	三一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	五四	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一
一	二三	二六	六六二	二九〇	六〇三	一三、五一五	一六、九八五
一五四	五七三	二、〇四二	五、二三三	五、三一六	六五五	一三、六八〇	一七、〇六五
一、五六六	*二、三三八	七九、八〇〇	*九八、〇〇〇	一、七七〇	二、九七〇	一、三三四、四〇〇	一、五〇七、四〇〇

gue of Nations 1938—39 による。

（備考）慶應義塾各國經濟研究會編、「大英ブロック經濟と經濟政策」による。但し人口は Statistical Year-Book of the League of Nations 1938—39 による 1937 年末の推定

（備考）慶應義塾各國經濟研究會編、「大英ブロック經濟と經濟政策」による。但し人口は Statistical Year-Book of the League of Nations 1938—39 による 1937 年末の推定

英領アフリカ植民地

英領アフリカの形成

イギリスがアフリカの植民地獲得に乘り出したのは一六六二年にガムビア、一七八七年にシエラ・レオネ等に始まり更にエルフインストン提督の指揮するイギリス艦隊が南阿のケープに到着してオランダの勢力を驅逐したのは一七九五年の六月十一日であつた。その後は暫時植民地活動の停滯をみるのであるが時恰も産業革命によつて齎された商品生産の擴大はその捌け口としての市場を海外に求め或はそれに應ずる原料資源供給としての植民地獲得の必要性が齎されることゝなつた結果諸列强との間に熾烈な植民地爭奪戰を演ずることゝなり單にアフリカにおいてのみなら

ず、全世界に向つてイギリスの植民地活動が活潑化され今日のごとく到るところユニオン・ジャックの旗が飜されることゝなつたのであるが、そのうちアフリカにおける英領植民地並にその統治關係、獲得年度、面積、人口數を示せば第一表の通りである。

埃及は現在獨立國として存在してはゐるものゝ實際は英本國の屬領の如き關係にあるのでこれを加算すれば、アフリカ大陸におけるイギリス勢力の地位は面積において約三八%、人口において約五五%の大部分を占め、而も人口も比較的稠密で恵まれた海岸地帶の大部分を領有してゐるのである。

資源的價値

次に資源的價値をみれば、その主要農鑛産物は各第二表及び第三表の通りで英領アフリカはアフリカ大陸中でも比較的恵まれてゐる。即ち先づ農産物においては埃及が斷然多く棉花、小麥、玉蜀黍、甘庶等を産し、その他は南阿聯邦、スーダン、

南ローデシア等で、他は殆んで取るに足らない程であるが、しかし各々の合計額はアフリカ大陸總生産額中の或るものは大部分を占め、一九三七—三八年度のコーヒ

南ローデシア等で、他は殆んで取るに足らない程であるが、しかし各々の合計額はアフリカ大陸總生産額中の或るものは大部分を占め、一九三七—三八年度のコーヒーは例外だが他は總じて五割から八割程度を占めてゐるのである。

主要鑛産物についてみれば、南阿聯邦は金を初め銅、鐵鑛、滿俺鑛、石炭等を産し、就中その金産額の豐富なことは、ダイアモンドと共に餘りにも有名であるがなほ近年では埃及を除き凡ての英領中にも産出されてゐる。といつてもそれらの産額は南阿に比較すれば極く少量に過ぎないが近年南ローデシア、タンガニイカ（何れも舊獨領）の産額の增加にみるべきものがある。金はアフリカ全産額中の約九一%は英領が占めてゐる。埃及は鑛産物としては極く少量の石炭を産するに過ぎない。又南阿の鑛産物も金を除いては、後は大してみるべきものもないが、ゴールド・コーストの滿俺鑛（一九三七年二十八萬噸）は注目に値ひする。

貿易の概況

英領アフリカ全體の貿易狀態についてみれば、第四表の通りで、總じていへば一九二九年頃に比較して一九三八年には輸出入額共各々半分近く減少してゐる。殊に輸出の縮減は著しい。これはその主要部分を占める農産物輸出が一九二九年以來の農業恐慌の打撃により萎縮したためであるが、反面輸出不振による購買力の低下は工業建設資材並に完製品、日用品雜貨等を主要構成要素としてゐる輸入額の減少をも導く結果となつたのである。

〔第四表〕 **英領アフリカ貿易額** （單位アメリカ舊制金弗、百萬弗）

	輸入			輸出		
	一九二九年	三七年	*三八年	二九年	三七年	*三八年
ケニヤ・ウガンダ	三九・一	二三・七	二二・〇	三四・二	二六・五	二六・五
タンガニイカ(二)	一九・六	一〇・五	九・一	一八・一	一四・五	一三・六
南阿聯邦(一)	四二七・一	三二二・九	二六七・〇	四五四・一	三五四・六	二八八・八
南ローデシア(二)	三三・〇	二二・四	二四・二	三二・二	三一・三	三〇・五
北ローデシア	一七・三	一一・四	九・九	四・〇	三四・五	三〇・〇
南西アフリカ	一四・六	六・八	五・九	一七・一	一〇・五	九・一

北ローデシア	一七・三	一一・四	九・九	四・〇	三四・五	三〇・〇
南西アフリカ	一四・六	六・八	五・九	一七・一	一〇・五	九・一
シエラレオネ	七・三	四・九	四・三	六・四	八・二	七・一
ニジエリヤ	六三・五	四二・二	二五・四	八五・六	三六・一	三一・一
ゴールドコースト(二)	四六・三	三五・五	二〇・九	六〇・三	四六・五	三一・八
スーダン	三三・九	一七・一	一七・一	三三・六	二四・三	一六・三
埃及	二六六・七	一一・二	一〇六・六	二五三・八	一一五・六	八四・七
モリシアス	一六・二	七・四	六・四	一八・四	九・〇	七・八
英領計	九七三・六	五〇四・〇	五三七・八	一、〇二五・八	七三一・六	五七五・八
全アフリカ	一、六九九・〇	一、〇二二・〇	九二二・〇	一、四八三・〇	一、〇五七・〇	八八八、〇

（備考） Statistical Year-Book of the League of Nations. 1838−39年 による。＊印推算、（一）金地金及び正貨を含む。（二）輸出に自國產金地金及び正貨を含む。他は商品のみの純輸入額

南阿聯邦の相手國別貿易狀態をみるに一九三七年の總輸出入額中英本國に對する割合は輸入において四二・六%、輸出においては更に七八・五%の壓倒的部分を占め

てゐる。これは後掲表の通り金、錫、銅、ダイヤモンドの如き主要鑛產物の輸出から成つてゐるものであるが、これが殆んどイギリスによつて確保されてゐるのである。輸入においては次位が米國の一九・六%、三位がドイツの六・六%、日本が第四位の三・七%である。輸出では英本國を際いては、第二位がずつと下つて僅かドイツの四%の外にみるべきものがない。

斯様に、輸出においては全く英本國に依存してゐるのであるが、輸入においては、米國のかなりの進出をみてゐる。これはその輸入品中に、國內工業化用の建設資材としての鐵、鋼材、機械、車輛等が含まれてゐるためであり、これらの資材に對しては英本國は全面的に南阿の需要を充足せしめることが出來ないことを證明してゐる。尙、日本の進出は絹、綿織物等の纖維製品の輸出が大部分を占めるもので、その進出の度合は物凄い。例へば、一九二九年には南阿全輸入額の僅かに一・七%だつたものが、一九三六年には三・五%へ躍進し、その翌年には更に〇・二%方增加して

ゐる。(第五表)

〔第五表〕 南阿類別輸出入額 (單位千磅)

ゐる。（第五表）

〔第五表〕　**南阿類別輸出入額**　（單位千磅）

	一九二九年 輸入	一九二九年 輸出	三六年 輸入	三六年 輸出	三七年 輸入	三七年 輸出
農産物（一）	九、四七九	二六、〇六九	六、四八六	一九、六九八	七、八七一	二八、九八〇
鑛産物（二）	—	四九、八三五	—	八六、一一三	—	八七、二〇八
製造品　機械工業材料（三）	二六、五一九	—	三二、九六七	—	四二、三四一	—
製造品　其他（四）	二九、八二三	—	二五、八九二	—	二九、一五三	—
其他（五）	一〇、八二八	五、〇四〇	一四、七一七	三、六三三	一七、八六二	五、〇七八
合計	七六、一四八	八〇、九四四	八〇、〇六二	一〇九、四四四	九六、二三六	一二一、二六四

（備考）輸入は政府用品輸入並にローデシア及南西アフリカよりの輸入品を除く商品輸入額、輸出は商品及び金を含む總輸出額

（一）輸入―コンデンスミルク、小麥粉、コーヒー、木材其の他の食糧品、規那皮
輸出―肉類、魚類、卵、玉蜀黍、果實、砂糖、皮革、駝鳥毛、アンゴラ兎、羊毛、鯨油

（二）金、錫、銅、ダイヤモンド、石炭等

(三) 鐵、鋼鐵、礦油（石油）鐵道用材、機械、車輛

(四) 衣服身裝品（綿織物、絹製品、靴、毛織物）藥品、酒精、硝子製品、ゴムタイヤ、木製品、ペイント等

(五) 其他、輸出は南ローデシア及び南西アフリカへの輸出を含む

この日本商品の對アフリカ進出は、一八八五年のベルリン宣言及び一九一九年のサンジエルマン協定に基くコンゴー盆地條約によるアフリカの通商上の門戸開放保證に、その條約上の正當な根據を有するものである。然るにこのコンゴー盆地條約が最近英帝領ブロック經濟化の趨勢にあつて、その改訂が熱心に、主として英國側から唱へられてゐるが、これが歸結はわが日本にとつて決して無關心たり得ないものである。

埃及の輸出入額

埃及はイギリスの羈絆を離れ、完全な獨立國となつてゐる。しかし實質的にはイギリス植民地時代よりの傳統的イギリス勢力の支配を抹殺する能はず見方によつてはイギリスの半植民地とも目されるのである。その輸出入額についてみるに矢張りその對英依存程度は南阿聯邦の程度ではない。即ち一九三七年の總輸入額中イギリ

はイギリスの半植民地とも目されるのである。その輸出入額についてみるに矢張りその對英依存程度は南阿聯邦の程度ではない。即ち一九三七年の總輸入額中イギリスは二一・八%で第一位、次はイタリアが八・六%、ベルギーが六・〇%、アメリカ五・六%、日本及びルーマニアが各四%内外である。輸出においてはイギリスが三〇・九%で矢張り第一位だが、輸入における對英依存度よりも若干多い。これは對英輸出中埃及棉が主要部分を占めてゐるためである。次はフランスの一〇・六%、ドイツの八・三%、アメリカの六・五%、日本の六・一%、イタリアの六%、インドの四・八%の順である。いふまでもなく埃及の對日輸出は埃及棉が重要部分を占めてゐる。

尙、埃及及び南阿聯邦の輸出入差額をみれば、南阿聯邦は嘗つての恐慌を通じてもずつと出超に終始して來たが、埃及は恐慌の前後入超を示現し、茲二、三年の間に辛うじて出超に轉じた。農業恐慌の打擊が、産業構成を異にするこの兩者にとつて異つた樣相を呈してゐることが、これによつても窺へるのである。(第六表)

【第六表】　埃及類別輸出入額　（單位千磅）

	一九二九年 輸入	一九二九年 輸出	一九三六年 輸入	一九三六年 輸出	一九三七年 輸入	一九三七年 輸出
農産物（一）	13,292	46,138	4,146	28,942	4,375	32,960
鑛産物（二）	1,693	―	1,186	―	2,005	―
製造品 機械工業材（三）	15,723	―	10,905	―	16,359	―
製造品 其他（四）	18,779	321	12,583	162	12,261	196
其他（五）	6,604	5,262	3,694	3,867	3,997	6,579
合計	56,090	51,723	32,526	32,971	38,037	39,735

（備考）輸入は商品、金地金及び正貨を含む、輸出は正貨を含ます、（一）輸入―小麥、米、小麥粉、コーヒー、茶、砂糖、煙草、木材等、輸出―卵、米、棉花、棉實等（二）石炭（三）ケロシン油、セメント、鐵、鋼材、銅、機械、車輛等（四）輸入―衣服類、酒精、葡萄酒、その他輸出―紙卷煙草（五）輸入―金地金、正貨その他、輸出―其他

投資の概況

次に、餘制蓄積資本の捌け口たる植民地投資についてみれば第七表の通りでこれにより英本國は商品輸出、重要資源の獲得の外、植民地政府に對する長期貸付又は公私企業に對する投資によつて植民地經濟收奪の實効を擧げつゝあるのであるが、

により英本國は商品輸出、重要資源の獲得の外、植民地政府に對する長期貸付又は公私企業に對する投資によつて植民地經濟收奪の實効を擧げつゝあるのであるが、

〔第七表〕

英國のアフリカ投資

（一九三四年末現在單位千磅）

	對政府	その他	合計
ローデシア、ベチュアナランド	一二、五六一	七八、五五七	九〇、一一八
南西アフリカ	二一、二八七	七、二三八	二八、五一八
ゴールド・コースト	一三、五八〇	一九、七三〇	三三、三一〇
ニジェリア	二八、七一三	一三、一一七	四一、八二九
シエラ・レオネ	二、五八七	一七四	二、七六一
ケニヤ・ウガンダ	二七、四四三	七、一二八	三四、五七一
タンガニイカ	二八、九九二	一五、二五九	四四、二五一
ニヤサランド	五、四八二	二、六八五	八、一六七
英領ソマリランド	二、四〇四	—	二、四〇四
スーダン	一五、一八八	八、一五九	二三、三四七
その他	三九	二四、八六八	二四、九〇七
合計	一五七、二三五	一七六、九二五	三三四、一六〇

そのうち對政府投資は一九三四年十二月現在の總額三億三千四百萬磅中、約一億五千七百萬磅と約半額を占めてゐる。これは工業化の程度が比較的低い段階にある地域では、主として資本の需要者は當該地域の政府機關であり、これが中心となつて

公私企業の先導者とならねばならぬためであるが、一面かゝる地域では危險負擔を慮ることから、資本は政府機關を通ずることによつて保證せしめ、或は政府機關に貸付けることによつて自國商品に對する購買力を附與するといふ貌をとるのである。

右の中には南阿聯邦及び半植民族及が含まれてゐないので、この兩者に對する投資が如何程によつてゐるかは不明である。一九三〇年現在既にイギリスの南阿方面に對する投資總額は約二億二千萬磅ともいはれるが、そのうち特に南阿聯邦に對する分としては的確な數字がない。

尙、イギリス以外のアフリカ大陸に對する投資をみれば、フランスが約七千八百萬磅、ポルトガルが五千九百萬磅、ベルギーから約六億六百萬磅（内ベルギー領コンゴー投資約一億三千五百萬磅）（何れも一九三四年末現在）である。

佛領アフリカと白領コンゴ

フランスのアフリカ植民史

フランスの植民史はイギリスのそれと同様に、しかしドイツ及びイタリアのそれ

フランスのアフリカ植民史

フランスの植民史はイギリスのそれと同様に、しかしドイツ及びイタリアのそれと異つて極めて古い。既に四百年前にフランスはカナダのセント・ローレンス河流域に植民地の經營を行つてゐる。しかしフランスがアフリカの經略に乘出したのは漸く一八三〇年のアルゼリアの攻略以後のことである。

しかしアフリカは一八七五年當時においてすらその全面積の十分の一に相當する海岸の周邊地帶だけがヨーロッパ列强の支配を受けてゐたにすぎなかつた。卽ち北部においてはフランスがアルゼリアを、南部においてはイギリスが喜望峰附近のやゝ廣い一地帶を領有してゐただけであつた。然るにその後僅々二、三十年間にアフリカ大陸のほとんど全部がヨーロッパ列强の分割するところとなつたのである。

この間にフランスは、先づ一八八一年ジュール・フエリーの指導の下にチュニス地方を占領し、こゝに保護領を建設した。一八九三年には西部海岸から始めて內陸

公私企業の先導者とならねばならぬためであるが、一面かゝる地域では危險負擔を慮ることから、資本は政府機關を通ずることによつて保證せしめ、或は政府機關に貸付けることによつて自國商品に對する購買力を附與するといふ貌をとるのである。

右の中には南阿聯邦及び半植民埃及が含まれてゐないので、この兩者に對する投資が如何程によつてゐるかは不明である。一九三〇年現在既にイギリスの南阿方面に對する投資總額は約二億二千萬磅ともいはれるが、そのうち特に南阿聯邦に對する分としては的確な數字がない。

尙、イギリス以外のアフリカ大陸に對する投資をみれば、フランスが約七千八百萬磅、ポルトガルが五千九百萬磅、ベルギーから約六億六百萬磅（内ベルギー領コンコー投資約一億三千五百萬磅）（何れも一九三四年末現在）である。

佛領アフリカと白領コンゴ

フランスのアフリカ植民史

フランスの植民史はイギリスのそれと同様に、しかしドイツ及びイタリアのそれ

フランスのアフリカ植民史

フランスの植民史はイギリスのそれと同様に、しかしドイツ及びイタリアのそれと異つて極めて古い。既に四百年前にフランスはカナダのセント・ローレンス河流域に植民地の經營を行つてゐる。しかしフランスがアフリカの經略に乘出したのは漸く一八三〇年のアルゼリアの攻略以後のことである。

しかしアフリカは一八七五年當時においてすらその全面積の十分の一に相當する海岸の周邊地帶だけがヨーロッパ列强の支配を受けてゐたにすぎなかつた。即ち北部においてはフランスがアルゼリアを、南部においてはイギリスが喜望峰附近のやゝ廣い一地帶を領有してゐただけであつた。然るにその後僅々二、三十年間にアフリカ大陸のほとんど全部がヨーロッパ列强の分割するところとなつたのである。

この間にフランスは、先づ一八八一年ジュール・フエリーの指導の下にチュニス地方を占領し、こゝに保護領を建設した。一八九三年には西部海岸から始めて內陸

への探險が成功してチムブクツに達することが出來た。その結果セーリタニア、象牙海岸、ダホメ及びスーダンの大部分が、相次いでフランス領に編入された。一八九六年には戰略上經濟上至大の價値を有するマダガスカル島がフランスの植民地となつた。他方チュニスからナイル河を越えて南進せんとする企圖がファッショダの敗戰（一八九八年）によつて挫折してからは、フランス人は專らモロッコの征服に全力を傾注した。モロッコ攻略の戰爭は一九〇七年から一九三四年まで續き、その戰費は百三十億フランに達した。

第一次世界大戰後フランスは舊獨領植民地カメルンの大部分、トーゴーの一部及びシリアの統治を『委任』された。かくてフランスはマダガスカル島を除けば、地中海からコンゴに至る地續きの一帶を支配するに至つた。

北アフリカ、西アフリカおよび赤道アフリカは合計して面積約一千萬平方キロメートル、人口三千四百七十萬に達する。この尨大な地域は、東西の幅七千餘キロメ

ートル、南北二千キロメートル以上のサハラ大沙漠の不毛地帶によつて、南部を北部から離つてる。

ートル、南北二千キロメートル以上のサハラ大沙漠の不毛地帶によつて、南部を北部から遮つてゐる。

佛領アフリカの交通開發

フランスの植民政策は第一にこの巨大な人的資源を開發して自國の軍隊を充實することを目標としてゐる。以前の大戰の時は百九十一萬八千人の土民がアフリカからフランスに送られ、その中六十八萬人が兵士として戰線に立つた。今次の戰爭勃發前においてもフランス現役軍隊の三分の一以上は有色人の兵士から成つてゐた。北西アフリカの土人を本國に送ることは實にフランスの動員計畫の核心を成すものなのである。

かゝる大量の有色土人を迅速に動員し得るか否かは第一にサハラ沙漠の交通開發、第二に地中海航路の確保如何にかゝつてゐる。

サハラ沙漠横斷鐵道の敷設案は既に前世紀の七十年代に立案され爾來幾度か繰返

し檢討された。然るにこの間にサハラ横斷の自動車交通の發達があり、更に航空運輸の實現をみるに至つた。自動車は『砂の海』を征服した。バスは現在定期的に沙漠を横斷して、地中海とニジエリアを僅か數日の行程で連絡してゐる。フランス航空會社エールフランスの飛行機は定期的に就航し、アルジエーからサハラを横斷して佛領コンゴのブラッザヴィルに至る航空路を四日で翔破してゐる。

かくの如きサハラ横斷交通路の完成によつて、フランスは北アフリカ、西アフリカ及び赤道アフリカを直接に連絡し、一旦緩急の場合は西アフリカ及び赤道アフリカの巨大なる人的資源をヨーロッパの戰場に投げ入れることが出來るやうになつてゐる。

北アフリカにおける鐵道網の整備にも大いにみるべきものがあるカサブランカ、アルジエー及びチユニスの諸港を連絡してゐる鐵道線路は北アフリカの幹線であるがこの線から南方に向つて一聯のサハラ横斷交通路が分岐してゐる。このモロッコ・

チユニス鐵道の有する大きな戰略的意義は、地中海が萬一他國の手で閉塞された場合アルジエリアからヨーロッパへの軍隊輸送を確保する點にある。

チユニス鐵道の有する大きな戰略的意義は、地中海が萬一他國の手で閉塞された場合アルジエリアからヨーロッパへの軍隊輸送を確保する點にある。

經濟事情

次にチユニス地方アルゼリア及びモロッコの經濟事情を簡單に一瞥しておかう。

チユニス地方は三百五十萬の人口を有し、その中の九割まではアラビア土人であるが、主としてフランス人及びイタリア人から成るヨーロッパ人の占める役割は想像以上に大きい。彼等の多くは官吏、地主、工業家、商人である。これに對し土人のほとんど全部は農業に從事してゐる。

主たる農產物は小麥、葡萄酒、油で、就中後二者は國內の主要財源となつてゐる。鑛產物としては燐灰石、鐵、鉛、亞鉛がある。燐鑛はアメリカに次ぐ世界第二の產額を示してをり、鐵鑛もまた五〇―六〇%の含有量を有する豐富な埋藏地がある。

チユニス地方の經濟生活の基礎を成すものはかくの如く食料品と原料品であり、

從つてその貿易構成においても全輸出額の七〇%は農産物から成り、その他は鑛産物によつて占められてゐる。輸入品は工業製品で就中織物類が壓倒的に多い。貿易相手國は輸出入共フランス本國が絶對優勢で全輸出入額の七乃至六割を支配してゐる。

次にアルゼリアをみるに、人口は一九三三年においてアフリカ土人約五百六十萬人、ヨーロッパ人（駐屯軍及び官吏を含む）約九十六萬人で、フランス人が多い。アルゼリアの富の過半は農産物から成る。葡萄酒、小麥、煙草が主たるもであり、特に葡萄酒は全輸出額の六割近くを占めてゐる。鑛産物には燐鑛、鐵鑛を主とし石油、大理石、硅藻土をも産出する。アルゼリア貿易は輸出において九割近くを、輸入において八割餘をフランス本國に依存してゐる。

最後に佛領モロッコの經濟事情をみよう。モロッコもまた前二者と同じく農業と鑛業を以て經濟生活の基礎としてゐるが、鑛物資源の豐富な點において最も重要な

地位にある。最近三ヶ年の主要農産物の生産額を前二者と比較すれば次の如くである。

地位にある。最近三ヶ年の主要農産物の生産額を前二者と比較すれば次の如くである。

	一九三六年	三七年	三八年
○小麦（千キンタル）			
アルゼリア	八、一〇三	九、〇三八	九、五一〇
モロッコ	三、三三〇	五、六八七	六、三〇六
チュニス	二、二〇〇	四、八〇〇	三、八〇〇
○大麦（千キンタル）			
モロッコ	一五、二六四	八、二六一	一〇、八五七
アルゼリア	六、四一八	五、九八一	五、八七一
チュニス	七五〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
○葡萄酒（千キンタル）			

アルゼリア	二、五五七	一五、四三四	三、四九〇
チュニス	一、四三〇	一、四五四	一、九七六
モロッコ	二六五	五八二	七七八

モロッコの主要鑛産物の生産額は次の如く發展してゐる。（單位米噸）

	一九三六年	三七年	三八年
燐酸鹽	一、三三五	一、四七九	一、四四七
石炭	四三	一〇七	一三三
モリブデン	九七	九五	九九
マンガン鑛	一四・二	三五・六	三九・〇
金（瓩）	五〇	一〇一	二三三

右の中特に燐酸鹽はチュニスの生産と合してアフリカ全生産額の約八割を占めてゐる。

ベルギー領コンゴ

なほ附加的に、ヨーロッパ列强がアフリカに領有する植民地中最も經濟的價値に富むベルギー領コンゴについて觸れておかう。

ヨーロッパ本國とアフリカにおけるそれぞれの領有植民地との面積比例を標準にとると、ベルギーはアフリカにおける植民國家の首位を占めてゐる。ベルギー領コンゴは本國の凡そ八十倍もあるが、ベルギーの植民地となつたのは一九〇八年である。

ベルギー領コンゴは交通開發の點では恐らくアフリカにおける各植民地の中で最上の發達を示してゐる。即ち約四千八百キロメートルの鐵道線路、部分的には自動車道路としても使用され得る四萬キロメートル以上の道路ならびに約三萬キロメートルに達する航行可能の水路をもつてゐるのだ。これらの交通網のおかげでこの植

民地の豊富な資源の開發に極めて容易ならしめられてゐる。更に又ベルギーの航空會社サベナの飛行機はブリユッセルから、アフリカを横断してベルギー領コンゴまで飛んでゐる。

ベルギー領コンゴの主要産物は他の多くの植民地と同様に、鑛産物及び農産物であるが、就中鑛産物においては金、ダイヤモンド、銅、錫、銀、ラヂウム鑛、農産物において棉花、コーヒー、ココア、椰子油等が主なものである。鑛産物は南東部のカタンガに豊富であり、農産物は中央部からルアンダ・ウルンヂの地域に多く生産される。

最近三ヶ年間におけるベルギー領コンゴの主要産物の生産額を國際聯盟の統計年鑑によつて示せば次の如くである。

	三六年	三七年	三八年
棉花	三二〇	三八〇	三五〇
コーヒー	一八一	一九六	二六〇
棉實	七二六	八二六	七七〇

コーヒー	一八一	一九六	二六〇
棉實	七三六	八三六	七七〇
椰子油	*六〇〇	六九一	—
椰子實	*四一六	四三〇	—
金	三、一〇八	三、五〇〇	三、〇〇〇
銅	九七・五	一五〇・六	一三四・〇
鉛鑛	—	四・八	四・九
亞鉛	〇・四	三・一	三・〇
錫	七・四	八・二	八・九
銀	八六・八	九三・一	七六・六

（備考）農產物の單位は千キンタル、鑛產物の單位は千米トン、但し金はキログラム、*印は純輸出額

ベルギー領コンゴの貿易も右の事情を映して鑛産物を以て主たる輸出品としてゐる。貿易の相手國をベルギー領コンゴの主要港マタデー港の出入船舶國籍から推定すれば、ベルギー船舶は全出入船舶數の過半を占めてゐる。最近三ヶ年間のベルギー領コンゴの貿易構成は次の如く著しく輸出超過を示してゐる。（單位百萬フラン）

	一九三六年	三七年	三八年*
輸入	七二四・八	一、一三七・一	一、〇三三・六
輸出	一、一三五・二	二、〇九九・三	一、八九七・二

＊暫定數

コンゴー盆地條約

コンゴー盆地條約は、千八百八十五年二月廿六日、英、米、佛、獨、露、伊、白等十四ヶ國の間に締結した伯林一般議定書の事であつて、其の第一章はコンゴー河流域其の河口並に隣接地方に於ける通商の自由に關する宣言である。

然るに同議定書並に千八百九十年七月二日のブリユッセル一般議定書及び同日附

流域其の河口並に隣接地方に於ける通商の自由に關する宣言である。

然るに同議定書並に千八百九十年七月二日のブリュッセル一般議定書及び同日附の宣言書の改正に關する千九百十九年九月十日調印のサン・ジェルマン條約は、右第一章に規定する所と大體に於て趣旨を同くし、そして同條約に於ては日本が、英、米、佛、伊、白、葡諸國と共に署名國となつてゐる。同條約の內容を要約してみよう。

署名國は（一）コンゴー河及び其の支流の流域を形成する一切の地方

（二）南緯二度卅分の緯度線よりロージェ河口に至るまでの間の大西洋に沿ふ海岸地帶

（三）右に定めたコンゴー河流域より東方に展開して印度洋に至り、北緯五度より南方ザンベジー河口に至るまでの地帶に於いて、各署名國々民及び同條約に加入する國際聯盟國たる諸國の國民の間に通商上の完全なる均等を維持する事（第一條）

上記諸國の國民に屬する商品は、第一條に揭ぐる地域內に自由にこれを搬入する事を得、而して右商品に對しては、輸入又は輸出に對し何等差別待遇を爲す事なく、且つ其の通過については之が手數のため徵收するもの以外一切の課稅を免除すべき事

上記諸國中の一國の國旗を揭揚する船舶も亦第一條に揭ぐる地域の一切の海岸を通航し且つ、其の一切の海港に寄港する事を得べく、これに對し、何等差別的待遇を爲さゞる事（第二條）

全くの自由の天地

署名國中の一國の權力の下にある第一條に揭ぐる地域に於ては、上記諸國の國民は、其の身體、財産の保護、財産の取得移轉に關し、並に其の職業の實行に關し、右地域に權力を行使する國の國民と何等の差別なく、同一の待遇及び權利を享有す

る事（第三條）

各國は其の財産を處分し、且つ右地域の天然富源開發のため利權を附與するの權

る事（第三條）

各國は其の財産を處分し、且つ右地域の天然富源開發のため利權を附與するの權利を保有す。但し右に關する規則に於いて上記諸國の國民の間に何等差別待遇を設けざる事（第四條）

ニジェール河其の派川及び第一條に掲ぐる地域内の一切の河川其の派川並に右地域内に在る湖水の航行は、商船についても、貨物及び旅客の運送についても、共に完全に自由にして而して上記諸國の國民に屬する各種の船舶は一切の關係につき、完全なる均等の基礎に於いて待遇せらるべき事（第五條）

船舶は航行の事實のみに基く海又は河川に於ける何等の通航税を課する事なく、また船内の商品には何等の通過税を課せざる事、航行其のもの丶爲めの手數に對する報酬の性質を有する料金又は税金に限り、之を徴收するを得るも、其の率については、何等の差別的待遇を爲さゞる事（第六條）

眞の平和は!?

以上がコンゴー盆地條約の大要であるが、同條約の趣旨を一般に列國の植民地に適用すれば、國際平和を確立するに役立つであらう。

だが本國と植民とを區別し、門戸開放を行ふ地理的範圍を決定するに當り、實行上多大の困難があると思ふ。然し、あらゆる國家が其の全領土——本國たると植民地たるとを問はず——に於て國際通商に對する制限的措置を撤發し、完全なる通商の自由を實現する事によつて、共存共榮の實をあぐべきだ。

だが、現下の國際情勢に於て、列國が通商の自由を行ふべしと說くのは、痴人夢を語るの類だと笑はれるであらう。世界の人心に根本的變化が起り、利己主義が滅亡さざる限り實現不可能であらう。だが然し、持たざる國が平和的に生存し、發展して行かうとするには是れ以外に有効なる手段はあるまい。

參考書

Charles Raden Buxton, The Dissatisfied Powers and the World's Resources (The Contemporary Review November 1935.)

参考書

Charles Raden Buxton, The Dissatisfied Powers and the World's Resources (The Contemporary Review November 1935.)

The Royal Institute of International Affairs, Raw Materials and Colonies. 1936.

Ferencyi, International Migrations

G. Kurt Johaunsen and H. H. Kraft, Germany's Colonial Problem. 1937

H. S. Ashton. Clamour for Colonies

Piddington The next British Empire.

A. L. C Bullock Germany's Colonial Demands

Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich, 1936.

Die Wehmacht

L. S. Amery The German Colonial Claim. 1939.

人口資源植民地　阿部源一氏

世界政治経済年鑑　東京政治経済研究所

獨逸の內幕　グルツェジンスキー 古谷・宮本氏譯（今日の問題社）
人種民族戰爭　加田哲二氏（慶應書房）
植民地の再分割　朝日時局讀本（朝日新聞）
ナチ獨逸を往く　大塚虎雄氏（亞里書店）
歐洲動亂と次に來るもの　三島康夫氏（今日の問題社）
ドイツの戰時財政と戰時經濟　安井源雄譯（泉書房）
獨逸の戰爭論　國防學研究所（大日本雄辨會講談社）
驚異の獨逸　田畑爲彥氏（報國社）
獨逸の砂　青山一郎氏（羽田書院）
若き獨逸　朝比奈策太郎氏（長崎書店）

昭和十五年十月廿五日印刷
昭和十五年十月三十日發行

獨乙の世界政策

定價金壹圓六拾錢

著者 東鄉豊
東京市神田區西神田二ノ一三
發行者 伊藤長夫
東京市牛込區山吹町一九八
印刷者 山本禎男
東京市牛込區山吹町一九八
印刷所 宗文社印刷所
東京市神田區西神田二ノ一三
發行所 伊藤書店
振替口座東京七八一七番
電話九段二三六三番